

卒業研究

関東大震災における横浜市の被害の研究

平成 20 年度

東京理科大学 工学部 第二部 建築学科

辻本研究室

安田裕介・渡辺育吏（五十音順）

目次

<u>第一章 研究背景と目的</u>	
1.1 研究背景と目的	3
1.2 関東大震災概要	4
<u>第二章 研究方法</u>	
2.1 研究方法及びMapInfo Professional 7.8 SCP使用方法.....	8
<u>第三章 構造物被害</u>	
3.1 横浜市における建築被害概要.....	17
3.2 建築被害	18
(1)震災前の状況	18
(2)建築物被害	19
3.3 橋梁の被害	46
<u>第四章 火災被害</u>	
4.1 横浜市における火災被害概要.....	57
4.2 出火場所	58
4.3 署別ごとの出火.....	66
4.4 火災旋風	73
<u>第五章 人的被害</u>	
5.1 本章の目的	80
5.2 人的被害概要.....	80
5.3 町丁別被害	85
5.4 警察署別死者.....	86
5.5 地図による考察.....	88
5.6 表.....	91
<u>第六章 まとめ</u>	
6.1 まとめ及び今後の課題	124
6.2 謝辞	124
参考文献	
付録	

第一章 研究背景と目的

第一章 研究目的と背景

1.1 研究背景と目的

大正12年(1923)9月1日11時58分に起こった関東地震は首都圏に死者行方不明者合わせて約10万人を出した。旧横浜市(以下横浜市)では震源に近く、大きな被害を受けた。これを多くの被害を出した旧東京市(以下東京市)と建物や人的被害について、それぞれの人口・世帯数割合で比べると横浜市が東京市を上回っていることがわかる(表1-1)。しかし、横浜市は東京市と比べ詳細な調査資料が少なく、地域ごとの被害の状況を把握するのが困難である。

本研究の目的は横浜市についての文献調査により、町丁別等出来る限り小さな単位の被害を明らかにし、横浜市の被害の基礎資料とすることである。

表 1-1 横浜市と東京市の被害比較

市別	面積 (km ²)	人的被害			建築物被害		
		人口 (人)	死者・行方不明 (人)	割合 (%)	世帯数 (戸)	焼失・倒壊戸数 (戸)	割合 (%)
横浜市	39.3	442,600	21,348	4.82	98,900	83,140	84.06
東京市	79.5	2,265,300	58,104	2.56	483,000	311,721	64.54

1.2 関東大震災概要

1923年（大正12）年9月1日、11時58分44秒つまり59分頃から地震が発生した。震源地は、相模湾トラフによるもので強震となる地震は二度の断層の滑りから起きている。気象条件では、9月1日の朝6時に金沢の西方海上に低気圧があり、10時には秩父付近に副低気圧が発生した。この低気圧が影響で、震災当日では風速10mの突風も吹いていた。

関東大震災は、10万棟を超える建築物を一瞬のうちに倒壊させた。また、山間部では崖崩れや山津波などの土砂災害、沿岸部では津波被害を発生させた。更に、昼の12時と言う時間帯から火元が多く、火災が発生し、横浜や東京では強風に煽られて数時間後には大規模な延焼火災に拡大した。神奈川県での揺れは東京よりも震源地に近い事から住宅倒壊数が多い。東京市は、1万2千棟となっている。

これらの火災、建物倒壊、土砂災害、津波による死亡した被害は、実に10万人を超え、東京の被服地での死者数は4万人である。さらに火災での死者数は、避難民を次々と襲い3万8千人の焼死者を出した。被害総額は、地震による直接的な損失だけで当時の国家予算の4～7倍という額であったと推定されている。

関東大震災において、語り継がれていかなければならないことは、地震が発生し倒壊被害・火災被害・土砂災害・津波による4つの被害を引き起こしたことである。さらに気象条件、地震発生時刻共に災害時における条件が最悪の条件下であったために、国家の中心である首都圏に未曾有の被害のをもたらす引き金となった。そのために、避難民は逃げ場を失い焼死し倒壊における救出をも困難にさせた。この震災における被害の最悪のモデルを研究し継承させていく事により、都市における防災の研究に重要であり且つ多くの方が亡くなった事を後世に伝えて行く必要がある。

第一章参考文献

1. 1923 関東大震災 報告書（第 1 編）中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2006 平成 18 年(2006)7 月発行

2. 関東大震災（第 1 編）の教訓

http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/kyoukun/rep/1923--kantoDAISHINSAI/1923--kantoDAISHINSAI-1_09_owarini.pdf

第二章 研究方法

第二章 研究方法

2.1 研究方法

関東大震災における横浜市の被害については表 2-1 に示す文献があるが、その編集元や調査方法により死者数や倒壊数などの値が異なる。本研究は以下の流れでまとめた。

- i. 文献③より 119 町の町丁別被害と文献②の神奈川県警調査の警察署所轄別被害をそれぞれデータ化する。
- ii. 震災当時の各町丁の世帯数・人口が不明のため、大正 9 年(1920)10 月 1 日当時の国勢調査の世帯数・人口を震災当時のものとし、また、大正 14 年(1925)12 月 31 日当時の国勢調査による各警察署の所轄する町丁を参考に、文献②の町丁を警察署別に集計する。
- iii. MapInfo Professional 7.8 SCP (2)を用い、i・ii を参考にし、大正調査番地入横浜全図を基に町丁別・警察署別地図を作成する。
- iv. 町丁別・署別の構造物被害、人的被害を地図上に可視化する。

但し、構造物被害については町丁別に被害を整理できなかつたため、署別被害としてまとめる。橋梁・出火点については地図上に落とし込む。

表 2-1 研究に用いた文献

文献名	編集	発行年	調査主体
①大正震災史	内務省	大正15年	内務省 ^{注1}
②横浜復興録	横浜復興編集所	大正14年	復興所 ^{注2}
③横浜市震災誌1～3冊	横浜市	大正15年	横浜市 ^{注3}
④大正大震火災誌	神奈川県警察部	大正15年	警察署 ^{注4}

注1 内務省による調査報告書

注2 横浜復興所による調査復興報告書

注3 横浜市による調査報告書

注4 神奈川県警本部による被害報告

MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法

分類した資料より出火点を地図ソフト「MapInfoProfessional8.0」を用いて地図上に落とし込む。このソフトはデータに含まれる地理的要素を利用して、そのデータをすばやくマップ上に表示できる機能をもつ。しかしベースとなる地図は別のソフトからデータとして取り込む必要がある。本研究では「大正調査番地入横浜全図」有隣堂発行 大正9年8月10日発行」をマップインフォ内の基礎地図として使用した。

また本研究で使用する資料は大正9年～大正15年のデータであり、現在の地図との間に大きな時間的な差があるため、現在の地図のみでは出火点を正確に落とし込むのは難しい。そこでの「大正調査番地入横浜全図」地図をデータとして取り込みマップインフォ上で重ね合わせた上、出火点の落としこみを行う。

被害の可視化または、出火点落とし込みの手順については以下に示す。

(取り込む地図の加工)

- ①「大正調査番地入横浜全図」地図をスキャンし、データとして取り込む。
- ②取り込んだ地図を Photo Shop などのソフトを用い、区界に沿って切り取る。

(マップインフォ)

I. 基礎地図を表示する。

- ① マップインフォから「開く→地図→横浜地図」の手順で基礎地図を開く。
- ② さらにその上に「ファイル」を開き、上書き表示をする。マップ上にカーソルを示し、「マップ→レイヤ管理」を選択する。「ファイル」を選択し、表示させる。

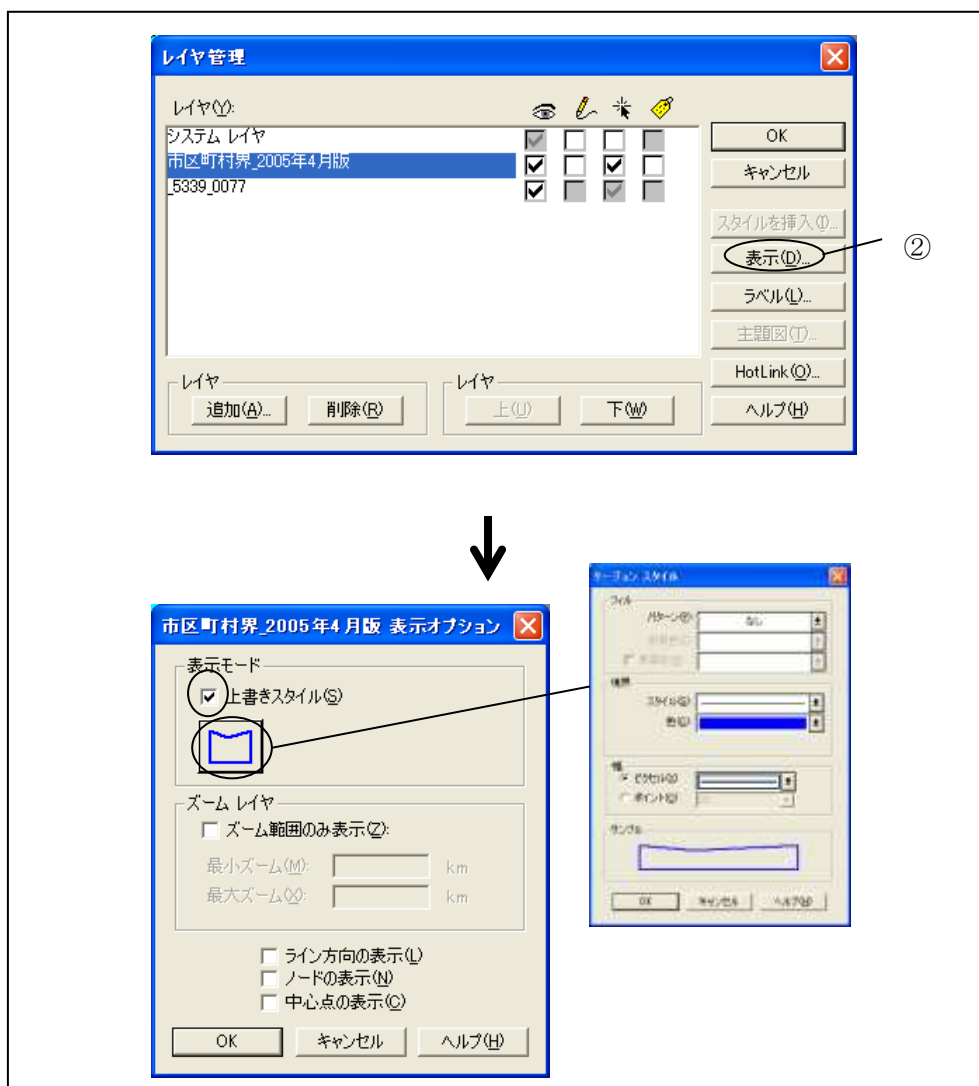


図 2-1MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法①

II. 基礎地図の上に任意の基準点を決める。

- ① 新規テーブルを作成する。まず「ファイル→新規テーブル」を選択する。
「新規テーブル定義」で「投影法」を選択し、「分類→日本平面直角座標系」、
「投影法→第IX系」を選択する。
- ② 任意の基準点を 5 つ選択し、テーブルを保存する。
- ③ 任意の基準点を決めたテーブルの座標を(緯度、経度)から(XY 座標)に変換する。「Get XY」という機能を用いる。

まず「ツール→ツールマネージャ→Get XY」の手順で Get XY のアイコンを表示する。「オブジェクトの中心座標抽出」というウインドウで「取得座標値の座標系」を「日本測地系 第IX系」に直す。座標内に数値が入力されるので、そのデータを保存する。

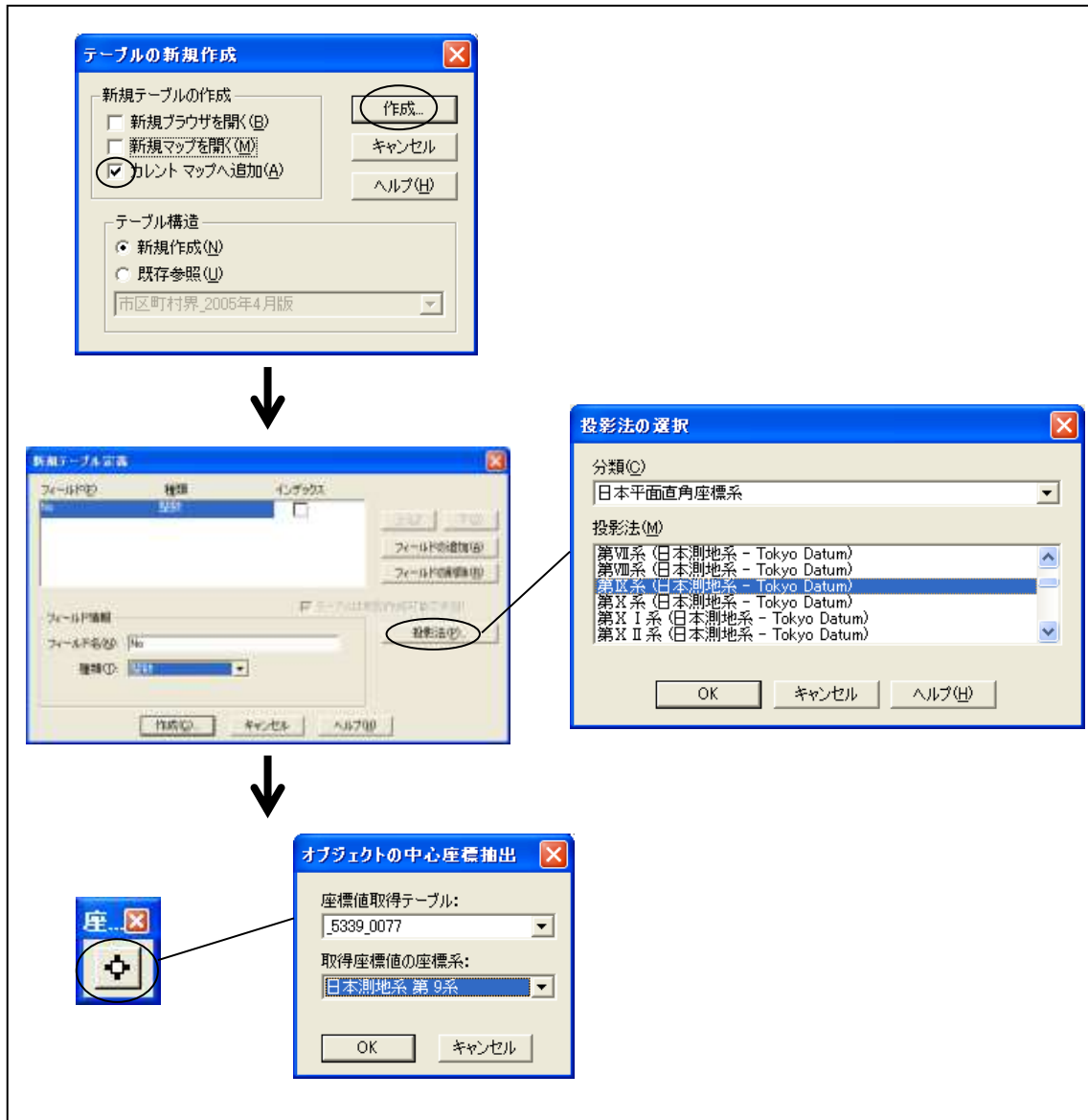


図 2-2MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法②

Ⅲ. 区別地図を取り込み、重ね合わせる。

- ④ ラスタイメージとして「大正調査番地入横浜全図」の地図を取り込む。取り込む際、「ラスタイメージの登録」の「ラベル」で基礎地図と同じ基準点をポイントとして5つ打つ。
- ⑤ 「Get XY」で得られた5点の座標と一致させる。「ラスタイメージの登録」ウインドウでXY座標の誤差が「0」に近くなるようラスタイメージのポイントの微調整を行う。



図 2-3MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法③

2-4. 分布図の作成

マップインフォを用いて取り込んだ出火点をもとに分布図を作成する。出火点を町別に集計したデータをもとに分布図を作成する。その上に地域特性を比較し、旧横浜市の関東大震災被害について分析を行う。

レンジ機能を用いて分布図を作成する手順を以下にまとめる。

(エクセルデータの処理)

① マップインフォに取り込むデータは1つのファイルにつきシートは1つとなるよう整理しておく。

② データのフォントの大きさ、太さ、種類はファイル内で統一させておく。

(マップインフォ)

I. マップインフォの中にエクセルデータを取り込む。

① マップインフォの「開く」から取り込みたいエクセルデータを選択する。

② 「フィールドプロパティの設定」で「フィールド名、種類」を入力する。

(「種類」はSQL検索をする際に、各テーブルで入力が必要だと正しく処理がされない。)

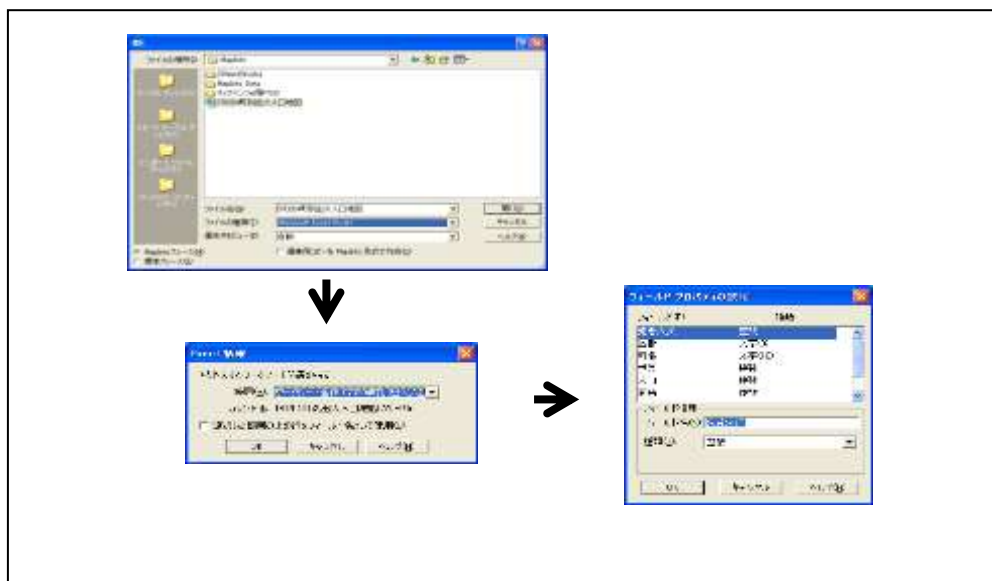


図 2-4 MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法④

II. 町丁別に分かれているデータを町別にまとめる。(図 2-4-2)

- ① 「クエリ→SQL 検索」を開く。ウインドウの右にあるテーブルプルダウンメニューから「対象テーブル」に ex) 「死者火災出火点、町のポリゴン」の順で選択する。
- ② 「検索条件」のテキストボックスへ ex) 「死者火災出火点.Obj Within 町のポリゴン.Obj」と設定する。
- ③ 新しく作成したクエリに名前をつけて保存する。

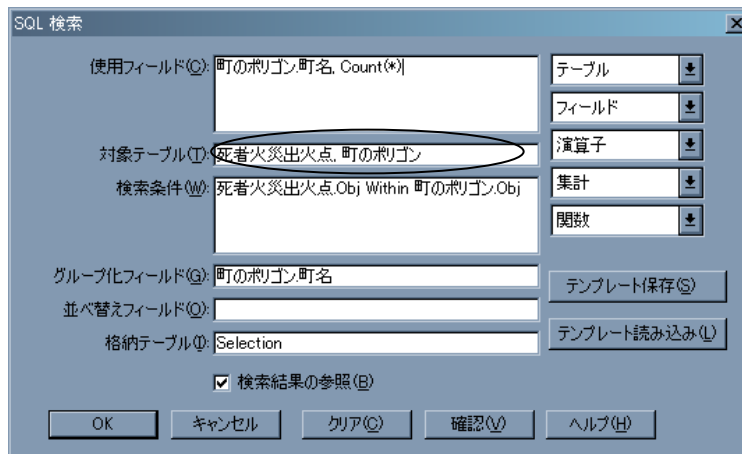


図 2-4 MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法⑤

III. 出火点の地理情報を町別領域へ割り付ける。

- ④ 出火点を取り込んだフィールドと旧横浜市の町別地図のフィールドを表示する。
- ⑤ 「対象テーブル」に ex) 「町のポリゴン、③で作成したクエリ」の順に選択する。(図 2-4-2 参照)
- ⑥ 「使用フィールド」に ex) 「町のポリゴン、町のポリゴン.市区町村名、町のポリゴン.町名、③で作成したクエリ.出火件数」を選択する。
- ⑦ 新しく作成したクエリに名前をつけて保存する。

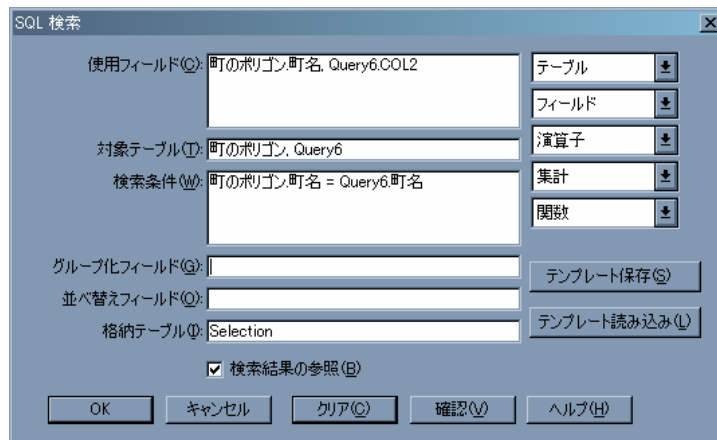


図 2-4 MapInfo Professional 7.8 SCP 使用方法⑤

IV. 町別に割り付けた地理情報を分布図に表す。(図 2-4-3)

- ⑧ ⑦で作成したクエリを開く。
- ⑨ 「マップ→主題図の作成」を開く。
- ⑩ 「主題図の種類」を選択する。分布図を作成する場合は「レンジ→リージョンレンジの初期値」を選択する。
- ⑪ ステップに沿って進み、主題図を作成する。
- ⑫ 作成した主題図ごとワークスペースで保存する。



第三章 構造物被害

第三章 構造物被害

3.1 横浜市における建築被害概要

3-1 建物の被害概要 [1923 関東大震災 報告書よりこの節のみ引用]

横浜市は関東大震災によって東京市について大きな被害を被った地域であった。1923（大正 12）年当時の横浜市は、現在の西区、中区を中心とした地域であり、その面積は現在の横浜市の 1 割程度で湾岸付近や街道沿線では開発が進み、石造や煉瓦造の非木造建物が多く存在したが、このような地区を除けば、木造建物がほとんどだったと考えられる。旧横浜では、地震直後により大規模な火災被害が発生し、市街地の 8 割程度が焼失した。

3.2 建築被害

(1) 震災前の状況

i) 震災前の状況

震災前の建築物の構造を東京市と横浜市を比較してみると、表 3-1 に示すように木造が 93.60%と高く、東京市の 91.00%とほぼ同じ割合でほとんどが木造市街地であったことがわかる。耐火造は土蔵造の割合が東京市 6.45%、横浜市 2.71%となっているが、両市共に耐火造そのものが少なく大火になりやすい状況であったといえる。

また横浜市と東京市における建築物の棟数をみると、1 k m²あたりで見ると横浜市 1420 棟/k m²と東京市 4594 棟/k m²と東京市における密度は高い。面積としては、横浜市 39.30 k m²・東京市 79.50 k m²と 2.02 倍となっていることも東京市が建築物の多い要因と言え、両市の棟数を比較すると東京市は横浜市の 6.42 倍となっている。

表 3-1 建築物の構造別比較

市別 構造	横浜市		東京市	
	棟数(棟)	横浜市割合(%)	棟数(棟)	割合(%)
木造	52,243	93.60	326,214	91.00
土蔵造	1,513	2.71	23,133	6.45
煉瓦造	960	1.72	6,943	1.94
石造	757	1.36	1,689	0.47
コンクリート造	36	0.06	232	0.06
その他	304	0.54	264	0.07
計	55,813	100.00	358,475	100.00

(出典 1923 関東大震災報告書 第一編・横浜第 19 回統計書)

(2) 建築物被害

i) 横浜市の倒壊と焼失を免れた建築物

神奈川県警察部「大正 大震火災誌」には倒壊と焼失を免れた重要な建築物について建物の構造と詳細が書かれている。それらの内容を表 3-2 に示す。記載には詳細な事項が記録されているおり、建築名称および住所・被害を免れた記載内容・竣工日時の記載であった。

被害において、表 3-2 より、110 件の調査結果が得られた。これをまとめると横浜の震災における資料の中では、自然環境が大きく関わっていることがわかる。

表 3-2 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査表

B	三井物産株式会社	山下町177	記載無	自然による	鉄筋コンクリート	明治45年2月24日
B	三井物産 倉庫	山下町177	記載無	自然による	鉄筋コンクリート	明治45年2月24日
B	三井物産 倉庫	山下町177	記載無	自然による	鉄筋コンクリート	大正8年10月30日
B	石川屋ビルディング	元浜町1-1	記載無	自然による	鉄筋コンクリート	不明
B	朝田ビルディング	元浜町1-1	記載無	自然による	鉄筋コンクリート	不明
B	保税倉庫	税関新港	記載無	自然による	煉瓦造	明治40年
B	税関発電所	税関新港	記載無	自然による	煉瓦造	明治41年
B	税関上屋1号	税関新港	記載無	自然による	鉄造(鉄骨造)	明治41年
B	税関上屋2~7号	税関新港	記載無	自然による	鉄造(鉄骨造)	明治41年
A	倉庫	花咲町5-69	記載無	耐久力強く火災から免れた	石及び土蔵造	明治38年2月
A	海外渡航者検査所	桜木町2-6	記載無	自然焼失を免れた	煉瓦造	大正10年5月
A	中央職業紹介所	桜木町2-6	業務	自然焼失を免れた	煉瓦造	大正12年8月
A	太田倉庫	姿見町2-36	業務	自然倒壊及び焼失を免れた	煉瓦造	明治42年6月
A	倉庫	足曳町1-5	質屋	耐久力強く火災から免れた	土蔵	大正11年4月19日
A	和田製材工場	南吉田町427	製材工場	風上に火災無いため	木造	大正10年11月10日
A	日枝神社	南吉田町99	記載無	自然焼失を免れた	木造	文久元年9月
A	伊丹工場	南吉田町石川外1	製材	自然焼失を免れた	木造	大正6年
A	横浜紡績会社	南吉田町石川外25	紡績工場	自然焼失を免れた	煉瓦造	大正8年12月
A	石蔵	伊勢佐木町1-10	倉庫	耐久力強く火災から免れた	石蔵	明治34年5月
A	眞葛合名会社	南太田1-10	陶器商	人力防災のため火災から免れた	木造	明治2年2月3日
A	柳津都蔵別荘	南太田685	住宅	建物の強固。または、付近に火気無かったことによる。	木造瓦葺	大正8年5月20日
A	鎌倉奉光別荘	南太田690	住宅	建物の強固。または、付近に火気無かったことによる。	木造瓦葺	大正7年6月8日
A	常照寺院	南大田925	記載無	建物の強固。または、付近に火気無かったことによる。	木造瓦葺	大正2年11月1日
A	常照寺院	南大田765	記載無	建物の強固。または、付近に火気無かったことによる。	木造瓦葺	大正2年11月1日
A	杉山神社	南大田765	記載無	建物の強固。または、付近に火気無かったことによる。	木造瓦葺	嘉永2年10月10日
A	石炭商組合事務所	花咲町1-21	組合	鉄筋コンクリートのため、強固であったため	鉄筋コンクリート	大正8年4月1日
A	妙音寺	南太田1933	記載無	地盤が強固であったため倒壊せず	瓦葺(木造)	明治41年9月21日
A	圓学寺	南太田1303	記載無	地盤が強固であったため倒壊せず	垂鉛葺(木造)	明治39年2月17日
A	東光寺	南太田1452	記載無	地盤が強固であったため倒壊せず	垂鉛葺(木造)	明治42年
A	平沼壽常小学校	南太田1609	学校	地盤が強固であったため倒壊せず	木造瓦葺	明治38年
A	太田小学校	南太田1838	学校	地盤が強固であったため倒壊せず	木造二階建 鉄瓦葺	大正6年
A	二階建救護所	南太田1947	救護所	地盤が強固であったため倒壊せず	木造二階建 鉄瓦葺	明治35年7月18日
A	二階建救護所寄宿舎	南太田1839	寄宿舎	地盤が強固であったため倒壊せず	木造二階建 鉄瓦葺	大正2年6月15日
A	横浜孤児院	南太田1459	孤児院	地盤が強固であったため倒壊せず	木造二階建	不明
A	佐藤政五郎別荘	南太田1575	住宅	地盤が強固であったため倒壊せず	木造平屋	不明
c	横浜社会館	表高島町1-3-6	労働者宿舎	基礎工事完全且つ、鉄筋コンクリートであるため	鉄筋コンクリート	大正10年5月
c	横浜第一中学校	西戸部町	学校	地盤が強固であったため倒壊せず	木造	明治30年2月25日
c	稲毛壺小学校	西戸部町	学校	地盤が強固であったため倒壊せず	木造	大正10年4月1日
c	宮谷小学校	青木町	学校	地盤が強固であったため倒壊せず自然の環境より焼失を免れた	木造	明治41年4月1日
D	横浜植木株式会社	中村町21	植木 農作物輸出	中村町の高地に位置していたため	木造(洋館二階建)	明治37年
D	六角病院	中村町1457	病院	中村町の高地に位置していたため	木造(洋館二階建)	明治32年
D	英和女学園	蒔田町124	学校	蒔田町の高地に位置していたため	木造(洋館二階建)	不明
D	市立石川壽常高等小学校	中村町1-457	学校	中村町と石川町の高地に位置していたため	木造瓦屋根	明治38年
D	田邊合資会社	中村町1-347	住宅	本住宅は、会社の敷地内にあり会社は焼失した	木造瓦屋根	明治38年
D	横浜高等工業学校	大岡町	学校	大部分は焼失したが、風上に位置し、焼失を免れた	木造	大正11年3月

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

D	淨光寺	中村町1393	寺	中村町の高地中復に位置し、植木が多く焼失を逃れた	木造トタン屋根	明治40年
D	浜生寺	堀内町114	寺	寺は、高地に位置し民家より離れ森に囲まれていた。焼失を免れた	木造	明治39年
D	東斬寺	中村町148	寺	寺は、高地に位置し民家より離れ森に囲まれていた。焼失を免れた	木造	明治43年
E	私立志成学校	本牧町和田山	朝鮮学校	自然による	木造瓦葺(平屋和洋館)	大正5年10月
E	私立本牧町学校	本牧町和田山601	学校	自然による	木造瓦葺二階建	大正8年4月
E	市立大鳥小学校	本牧町和田山宇大鳥谷戸	学校	自然による	不明	大正10年3月16日
E	市立立野小学校	根岸町字立野	学校	一部倒壊、大部分自然維持	木造瓦葺二階建	明治44年
E	江吾田小学校	根岸町字立野2942及び2943	学校	自然現象	木造瓦葺二階建	大正9年12月
E	善行寺	北方町928	寺	自然	木造瓦及び茅葺平屋	文禄
E	田中海男	本牧町4359	住宅	自然	木造茅葺平屋	明治37年
E	小野哲郎	本牧町4482	別荘	自然	木造茅葺平屋	大正3年10月
E	若尾機造	根岸町2525	住宅	自然	木造煉瓦造二階	大正9年5月
F	横浜刑務所	石油倉庫	根岸町343	自然	煉瓦造	明治43年12月
		材料置き場	横浜刑務所		木造平屋	明治33年3月
		重堀禁室	所内		木造平屋	明治32年3月
F	輸入獣検疫所	瀧頭743	輸入獣検疫	自然	木造二階 西洋館	明治41年3月
F	市壽常高等磯子小学校	磯子町294	学校	自然	木造二階建	大正9年9月
F	市壽常高等根岸小学校	根岸町1135	学校	自然	木造二階建	明治17年3月
F	横浜市電気局	瀧頭205	事務所	自然	木造平屋建	大正8年10月
F	赤十字病院	根岸町2149	病院	自然	木造二階建	明治45年5月
F	海照寺	根岸町664	寺院	自然	木造平屋草葺	寛永
F	浜積寺	嘉根岸町418	寺院	自然	木造平屋草葺	寛永
F	大聖院	根岸町2170	寺院	自然	木造平屋草葺	天文
F	金蔵院	磯子町880	寺院	自然	木造平屋草葺	嘉歴2年
F	八幡神社	根岸町1134	寺院	自然	木造平屋草葺	明和5年10月
F	日枝大社	磯子町905	寺院	自然	木造平屋草葺	大正2年7月
F	杉山天満宮	岡村町527	神社	自然	木造平屋草葺	明治20年8月
F	禪馬鉄工所	磯子町1	鉄工所	自然	木造二階	明治35年3月
					鉄骨造	大正12年7月
F	成和商会	根岸町873	石鹼製造	自然	鉄筋コンクリート及び煉瓦造	大正11年4月
H	神奈川警察署	神奈川町字仲町14	記載無	木造にして建築古くしても完全に自然倒壊を免れ、近くまで延焼したが消防並に消火活動を行い焼失を免れた。	木造二階建西洋建	明治41年3月
H	神奈川停車場	高島町10丁目	貨物運搬 一般旅客	木造にして建築古くしても完全に自然倒壊を免れ、近くまで延焼したが消防並に消火活動を行い焼失を免れた。	木造平屋建	明治30年8月21日
H	東神奈川停留所	神奈川町	貨物運搬	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋建	明治41年9月24日
H	京浜電鉄神奈川停留所	高島町10-2-4	一般旅客 貨物運搬	木造にして建築工事完璧により倒壊及び付近に火災があるも風の影響で焼失を免れた	木造平屋建	明治38年12月24日
H	捜真女学園	神奈川町3131	学校	建築工事完全により且つ、付近に山野のがあり地盤が強くその関係上焼失共に免れた。	木造二階建 西洋建	明治44年4月

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

H	神奈川高等女学園	青木町1837	学校	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正7年3月
H	県立横浜第二町学校	青木町1837	学校	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正6年12月
H	県立工業高校	神奈川町2700	学校	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治45年2月8日
H	市立二谷小学校	神奈川町平尾前2570	学校	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治38年7月1日
H	市立青木小学校	青木町 桐畑466	学校	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治40年3月20日
H	神奈川脳病院	青木町鷹町1122	精神病院	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治43年12月20日
H	日本楽器製造会社	青木町鶴屋町3497	楽器製造業	木造にして建築古くしても完全に自然倒壊を免れ、近くまで延焼したが消防並に消火活動を行い焼失を免れた。	木造二階建	大正7年1月14日
H	神奈川県硝子製造会社	神奈川町906	硝子製造	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋	明治30年4月
H	日本光機工業株式会社	神奈川町柳町1055	航路及び航海標識通信機類	建築工事完璧により倒壊及び付近火災があるも風の影響で焼失を免れた	木造二階建	大正7年1月14日
H	岩井精油肥料合資会社	星野町1	製油肥料粉末	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋	大正3年8月2日
H	帝国酸素アセチレン会社	子安町3062	瓦斯	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正7年5月31日
H	横浜炭酸素製造会社	千若町2-1	コークス業	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	鉄筋コンクリート二階建	大正6年2月9日
H	東京榨油株式会社横浜工場	守屋町2-3414	石鹼油	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正9年4月8日
H	東京製線株式会社横浜工場	神奈川町144	電線	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋建	大正2年11月3日
H	横浜化学工場株式会社	守屋3-34-42	工業薬品	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	鉄筋コンクリート平屋	大正7年9月13日
H	子安製材株式会社	守屋町3-3413	製材	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正11年6月28日
H	株式会社倉田鉄工所	守屋1-3413	造船	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正9年3月8日
H	日清製粉株式会社	新浦島町2-2	蕎麦粉	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造三階建て	明治41年7月10日
H	浦賀船渠株式会社横浜工場	大野町2	造船	建築工事、完全により且つ、付近に火災があったが鉄筋コンクリートであり自然焼失を免れた	鉄筋コンクリート 平屋建	大正6年12月6日
H	神奈川コークス株式会社	千若町3-1	コークス瓦斯 コールタール	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	鉄筋コンクリート 二階建	大正6年11月5日
H	日清製油株式会社	千若町1-3	製油	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治44年11月25日
H	日本製粉株式会社	千若町2-1	製粉	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	大正13年5月(記載間違いと推測)
H	東京電燈株式会社	千若町1-3	電燈	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	煉瓦造 二階建	大正6年7月10日
H	株式会社浅野造船所 船渠所	橋本町2-1	造船	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	鉄筋コンクリート10階建	大正13年5月(震災時、大正12年記載間違いと推測)
H	横浜倉庫株式会社	千若町1-1	倉庫	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造二階建	明治39年9月15日

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

H	第二消防署神奈川分署	神奈川町9	記載無	建築工事、完全により且つ、付近まで延焼したが消防並に消火活動を行い焼失を免れた。	木造二階建	大正8年9月1日
H	本党寺	青木町7軒1768	記載無	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋	明治30年3月（再築）
H	豊泉寺	青木町三沢2395	記載無	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	木造平屋	天保13年5月（再築）
H	共信銀行	青木町元町260	金融業	建築工事、完全により且つ、付近に猛火があるが鉄筋石造のために共に免れた	鉄筋石造二階建	大正3年4月
H	小倉製油会社横浜油槽所	守屋町4-3443	原油の貯蔵	建築工事、完全により且つ、付近に火災無く共に免れた	鉄骨鉄板建（鉄骨造）	大正11年1月23日

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

凡例

- A 伊勢佐木町署
- B 加賀署
- C 戸部署
- D 壽署
- E 山手本町署
- H 神奈川署

表 3-2 の被害を免れた記述をキーワードとしてまとめたものを表 3-3 に示す。これを見ると直接的に建築物によって被害を免れたものは、「耐久力が強く免れた」5件と「人力防災のため火災を免れた」5件でありである。また、110件中「自然の環境より免れた」39件となり 35.45%、「建物の強固。付近に火気が無かった事による」37件となり 33.64%になる。被害を免れた110件は、建築物が存在する環境の条件下の影響で被害を免れていることが表されている。

表 3-3 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査の詳細のキーワード

倒壊・焼失を免れた詳細	棟数
自然の環境より焼失を免れた	39
地盤が強固であったため倒壊せず	13
高地に位置していたため	7
建物の強固。付近に火気無かったことによる	37
耐久力強く火災から免れた	5
風の影響で焼失を免れた	4
人力防災のため火災から免れた	5
計	110

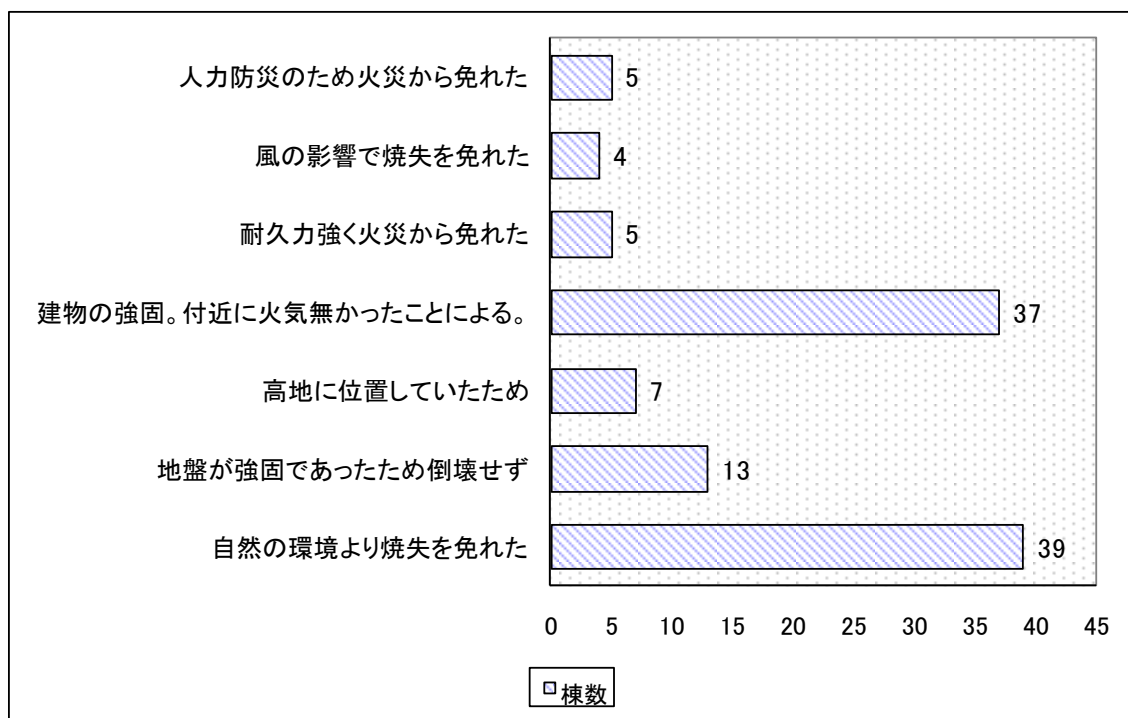


図 3-1 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査の詳細

次に、構造物の違いからみると表 3-4 より倒壊・焼失を免れた建築物の木造の割合が、77 件（70.00%）、耐火造は 33 件（30.00%）となっており、震災前の横浜市は耐火造の割合が 5.89%であったことを見ると耐火造の効果があったことが推測される。

表 3-4 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査 構造別

構造	棟数
鉄筋コンクリート	13
鉄造(鉄骨造)	5
煉瓦造	10
木造	77
鉄筋石造二階建	1
石及び土蔵造	1
石蔵	1
土蔵	1
不明	1
計	110

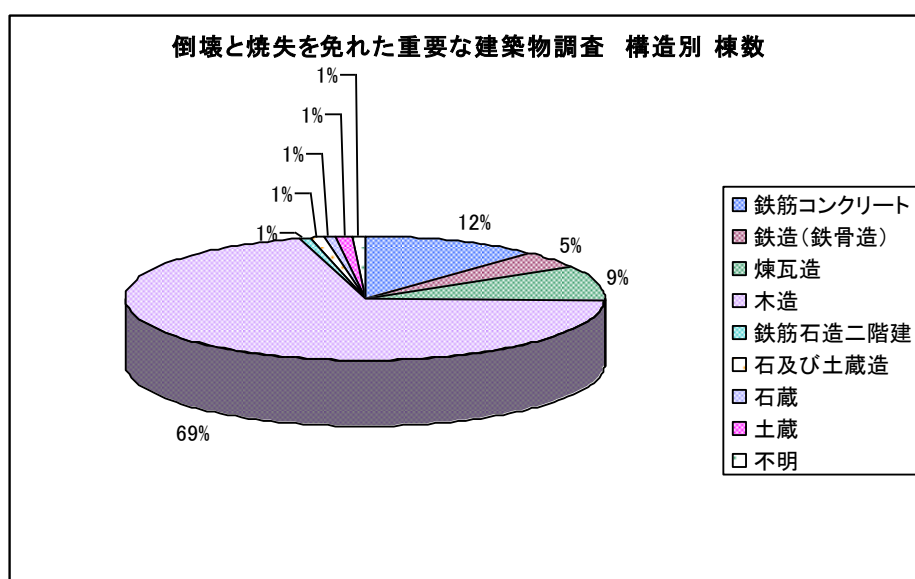


図 3-2 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査 構造別

ii) 横浜市の木造建築の屋根について

表 3-2 より木造建築について屋根の仕様が明記されている。火災が広がった原因は様々あるが、茅葺や草葺などは燃えやすく、屋根の仕様について種類と残存棟数を表 3-5 に示す。図 3-3 より屋根材として不燃材料の割合が 19 件 (65.55%) を読み取れる。茅葺屋根などは、本牧町などの非延焼区域内にあり焼失を免れている。

表 3-5 屋根の仕様別

屋根の仕様	棟数
瓦葺	13
亜鉛葺	2
木造トタン	1
鉄瓦葺	3
茅葺 草葺	10
計	29

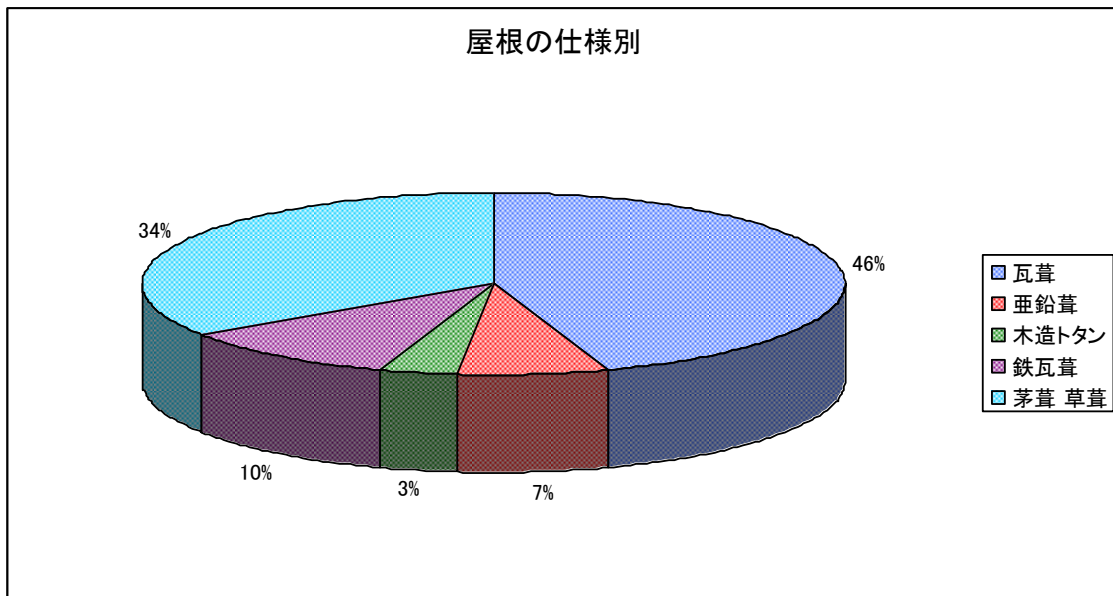


図 3-3 屋根の仕様別

iii) 横浜市の警察署別 建物被害

神奈川県警察部「大正 大震火災誌」より建物の被害について倒壊・焼失また被害金額について、署別ごとの被害を表 3-6～表 3-9 に示す。

表 3-6 署別倒壊被害(表中、数字がブランクのところは、0 を意味する)

神奈川県警察部「大正 大震火災誌」建物被害						
横浜市 官署公署 御用邸及び御別荘無し						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	2	77	11550			
加賀町	89	24137	14563788			
戸部						
壽	1	460	104000			
神奈川						
山手本町						
八幡橋	21	786	63000	37	990	7120
水上	2	247	51538			
計	115	25707	14793876	37	990	7120
横浜市 公使館及び領事館						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町			112125			
加賀町	25	1260				
戸部						
壽						
神奈川						
山手本町						
八幡橋	8	390	56350	6	597	22110
水上						
計	33	1650	168475	6	597	22110
横浜市 学校及び図書館						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	16	1576	313220	2	440	13525
加賀町	135	2034	284090			
戸部	6	1135	258600	4	360	91000
壽	4	250	3350	3	3656	41500
神奈川	1	1	1800			
山手本町						
八幡橋	2	2	3000	1	561	50000
水上						
計	164	4998	864060	10	5017	196025

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 公共病院その他公共建物						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	4	131	54000	3	350	7850
加賀町	4	278	168250			
戸部						
壽	1	60	5000			
神奈川						
山手本町	13	1817	172160	5	399	8480
八幡橋						
水上				1	62	12200
計	22	2286	399410	9	811	28530
横浜市 神社仏閣						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	15	1398	30800	10	310	16550
加賀町	9	436	22160			
戸部	4	250	55500			
壽	4	342	236000	2	280	7000
神奈川	7	650	25000	8	230	10000
山手本町	2	40	180	5	228	11800
八幡橋	5	100	38300	1	50	4000
水上						
計	46	3216	407940	26	1098	49350
横浜市 教会堂						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	2	73	30800			
加賀町	6	329	216401			
戸部						
壽	1	35	280			
神奈川						
山手本町	1	66	2200			
八幡橋				1	12	950
水上						
計	10	503	249681	1	12	950
横浜市 工場及び倉庫						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	70	10935	2027127	26	2593	51670
加賀町	1068	45224	27300415			
戸部	5	660	6480	34	1520	19880
壽	15	746	62575	2	74	4500
神奈川	15	8500	208000	29	1800	216000
山手本町	1	45	3600			
八幡橋	11	1102	85875	8	3182	151200
水上						
計	1185	67212	29694072	99	9169	443250

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 劇場観物場及び寄席						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	13	1727	1639050			
加賀町						
戸部	6	657	219650			
壽	4	281	44600			
神奈川	3	260	23400			
山手本町						
八幡橋						
水上						
計	26	2925	1926700			
横浜市 銀行会社						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	4	241	34000	1	21	650
加賀町						
戸部	2	175	14000	16	2080	69600
壽	4	41	5500			
神奈川				2	45	2250
山手本町						
八幡橋	7	190	20000	2	46	2300
水上						
計	17	648	73500	21	2192	74800
横浜市 住宅						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	540	12594	937670	1007	14073	1211861
加賀町						
戸部	485	11659	514740	551	11023	140770
壽	408	16833	569620	435	6708	114726
神奈川	642	5144	120873	462	3336	52330
山手本町	2836	39275	1211793	1293	19248	243800
八幡橋	421	7855	749476	632	13511	403209
水上						
計	5332	93360	4104172	4380	67899	2166696
横浜市 その他						
署別	全壊			半壊		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	73	1883	50700	57	1773	12680
加賀町	1617	35145	80854485			
戸部	469	11797	565760	470	21300	122550
壽	1	20	2000			
神奈川						
山手本町	3	128	65000	12	486	3010
八幡橋	18	362	11085	19	329	5800
水上	1	28	6500			
計	2182	49358	81555230	558	13888	133040
総計	9132	251863	134237116	5147	101673	3121871

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

表 3-7 署別焼失被害

神奈川県警察部「大正 大震火災誌」建物被害						
横浜市 官署公署 御用邸及び御別荘無し						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	17	1606	566200			
加賀町						
戸部	10	1520	605500			
壽						
神奈川	1	150	30000			
山手本町	42	1300	15950			
八幡橋		4741	118400			
水上						
計	70	9317	1336050			
横浜市 公使館及び領事館						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町						
加賀町						
戸部						
壽						
神奈川						
山手本町	13	347	369780			
八幡橋	1	112	5000			
水上						
計	14	459	374780			
横浜市 学校及び図書館						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	13	2242	790950			
加賀町						
戸部	11	2610	649700			
壽	41	26519	1708290			
神奈川	1	300	20000			
山手本町	13	347	369780			
八幡橋						
水上						
計	79	32018	3538720			
横浜市 公共病院その他公共建物						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	4	470	71500			
加賀町						
戸部	4	1310	41500	1	350	5000
壽	10	709	82600			
神奈川						
山手本町	40	2634	108035	6	210	6300
八幡橋						
水上						
計	58	5123	303635	7	560	6800

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 神社仏閣						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	28	1247	565700			
加賀町						
戸部	7	396	178000			
壽	13	467	12000			
神奈川	2	950	21600			
山手本町	3	190				
八幡橋						
水上						
計	53	3250	777300			
横浜市 教会堂						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	9	491	106050			
加賀町						
戸部	3	120	28400			
壽	1	40	4500	1	75	3750
神奈川	1	30	3000			
山手本町	12	752	864000			
八幡橋						
水上						
計	26	1433	1005950	1	75	3750
横浜市 工場及び倉庫						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	150	12501	3212450			
加賀町						
戸部	95	5530	892900			
壽	133	13377	32890390			
神奈川	41	2700	35900000	2	800	176000
山手本町	22	6700	913200			
八幡橋						
水上						
計	441	40808	73808940	2	800	176000
横浜市 劇場観物場及び寄席						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町						
加賀町						
戸部						
壽						
神奈川						
山手本町						
八幡橋						
水上						
計						

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 銀行会社						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	87	3784	1048720			
加賀町	954	49292	167176368			
戸部	41	8930	243500			
壽	26	2117	739500	2	110	20000
神奈川	5	540	104000			
山手本町	2	52	24500			
八幡橋						
水上						
計	1126	64715	169336588	2	110	20000
横浜市 住宅						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	8539	195232	30163480			
加賀町	2268	28685	35005343			
戸部	3901	114053	3367600			
壽	4846	213369	2089851	6	168	5300
神奈川	2083	1666	18444978	1	5	350
山手本町	2883	50375	4715200			
八幡橋	118	3097	373180			
水上	736		4451437			
計	25374	606477	116611069	7	173	5650
横浜市 その他						
署別	全焼			半焼		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	15	206	24980			
加賀町						
戸部	3032	74279	5519340			
壽	53	930	64058			
神奈川						
山手本町	17	1243	95350			
八幡橋	5	60	4000			
水上	12	506	35337			
計	3144	77224	5741965			
総計	30385	840824	372834997	19		

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

表 3-8 署別流出被害

横浜市 その他						
署別	流失			半流失		
	敷棟	敷坪	損害	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町						
加賀町						
戸部						
壽						
神奈川						
山手本町						
八幡橋						
水上	2	6	975			
計	2	6	975			
総計	2	6	975			

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

表 3-9 署別合計被害

神奈川県警察部「大正 大震火災誌」建物被害			
横浜市 官署公署 御用邸及び御別荘無し			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	19	1683	57775
加賀町	89	24137	14563788
戸部	10	1520	605500
壽	1	460	104000
神奈川	1	150	30000
山手本町	5	1300	15950
八幡橋	100	6518	188520
水上	2	147	51538
計	227	35915	16137046
横浜市 公使館及び領事館			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町			
加賀町	25	1260	1112125
戸部			
壽			
神奈川			
山手本町	13	347	369780
八幡橋	15	8099	83460
水上			
計	53	9706	1565365
横浜市 学校及び図書館			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	31	4258	1117695
加賀町	135	2038	284090
戸部	21	4300	99500
壽	48	31310	1783290
神奈川	2	550	21800
山手本町	13	347	369780
八幡橋	3	596	53000
水上			
計	253	43399	3729155
横浜市 公共病院その他公共建物			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	11	1051	133350
加賀町	4	278	168250
戸部	5	1660	41500
壽	11	769	87600
神奈川			
山手本町	64	5060	1313675
八幡橋			
水上	1	62	12200
計	96	8880	1756575

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 神社仏閣			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	53	2855	890250
加賀町	9	426	112160
戸部	11	646	234500
壽	19	1089	372190
神奈川	17	1830	47000
山手本町	10	558	33580
八幡橋	6	150	42300
水上			
計	125	7554	1731980
横浜市 教会堂			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	11	564	136850
加賀町	6	329	216401
戸部	3	120	8530
壽	3	150	3000
神奈川	1	30	866200
山手本町	13	819	950
八幡橋	1	12	
水上			
計	38	2024	1231931
横浜市 工場及び倉庫			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	246	26029	5311247
加賀町	1068	45224	27300415
戸部	124	7710	977580
壽	150	1497	32957465
神奈川	97	54300	36324000
山手本町	23	6745	237075
八幡橋	19	4284	237075
水上			
計	1727	145789	103344857
横浜市 劇場観物場及び寄席			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	13	1727	1639050
加賀町			
戸部	6	657	29650
壽	4	281	44600
神奈川	3	260	23400
山手本町			
八幡橋			
水上			
計	26	2925	1736700

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

横浜市 銀行会社			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	92	4046	1083370
加賀町	965	49262	167176368
戸部	59	2185	3274000
壽	32	2279	765000
神奈川	7	585	106250
山手本町	2	52	24000
八幡橋	9	236	22300
水上			
計	1166	58645	172451288
横浜市 住宅			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	10086	221898	32313311
加賀町	2268	28685	35005343
戸部	4937	136735	4023110
壽	5695	237077	20778497
神奈川	3188	10151	18618532
山手本町	6961	108898	6170795
八幡橋	1171	24463	1525868
水上	736		4441437
計	35042	767907	122876893
横浜市 その他			
署別	合計		
	敷棟	敷坪	損害
伊勢佐木町	146	3861	88364
加賀町	1617	35145	80854185
戸部	3971	97976	16207650
壽	54	950	66058
神奈川			
山手本町	42	1857	163360
八幡橋	42	425	20885
水上	15	540	42712
計	5807	140474	97443214
総計	44560	1223218	524005004

[出典 大正大震火災史 神奈川県警察部]

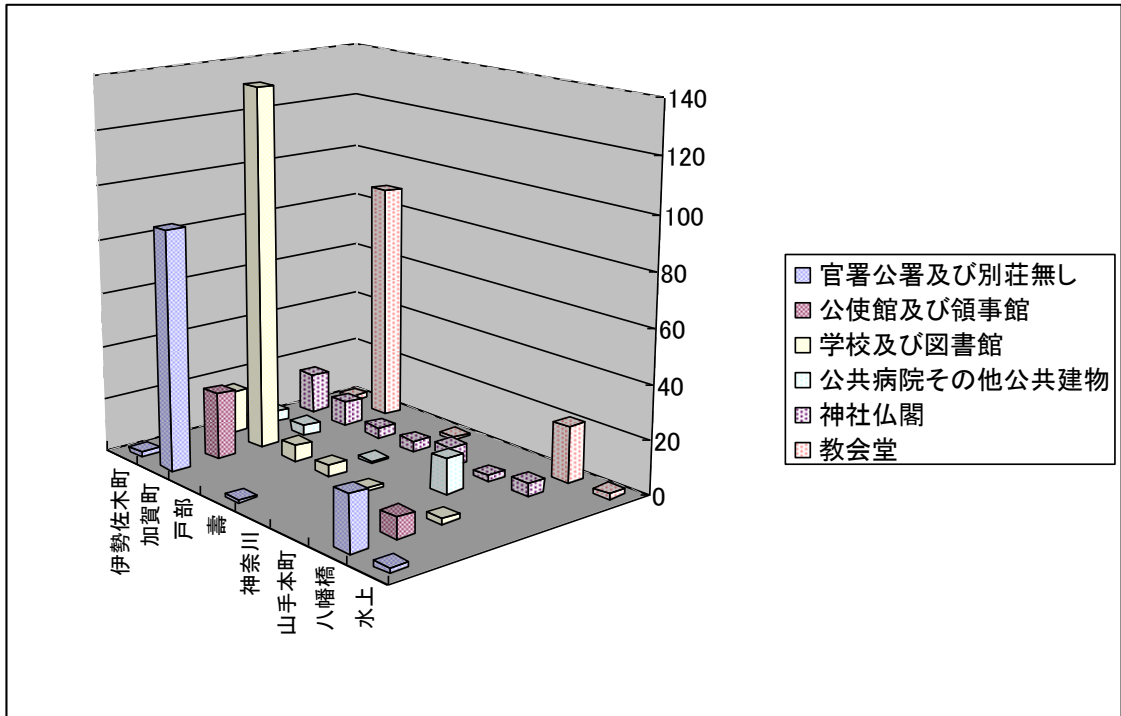


図 3-4 用途別建築物署別全壊棟数

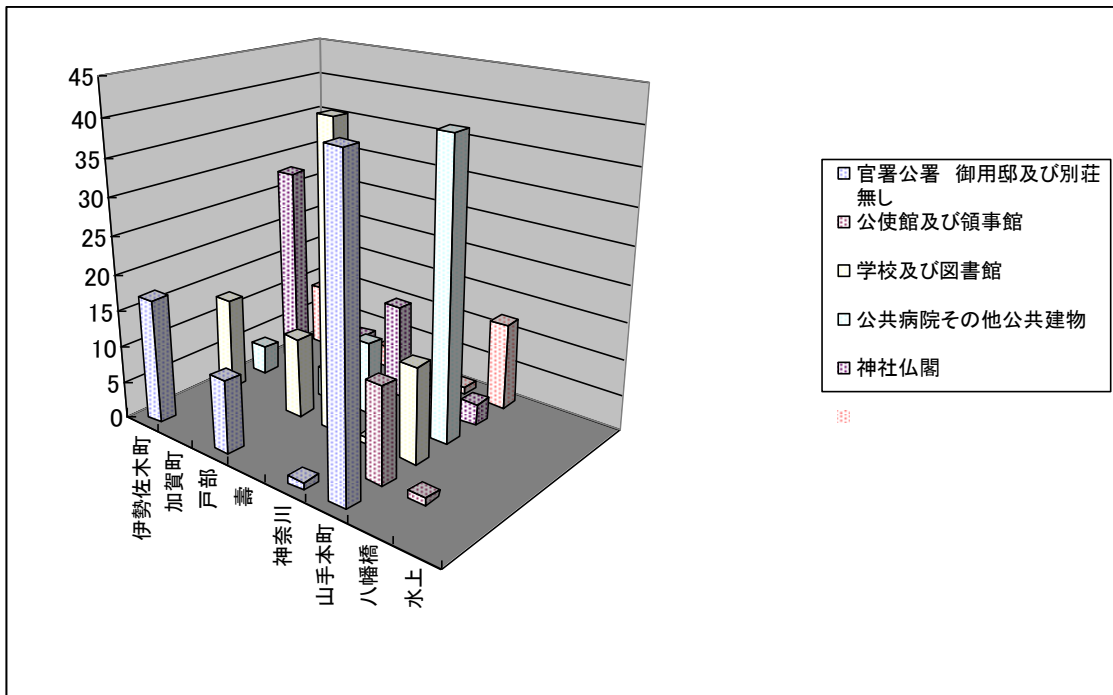


図 3-5 用途別建築物署別全焼棟数

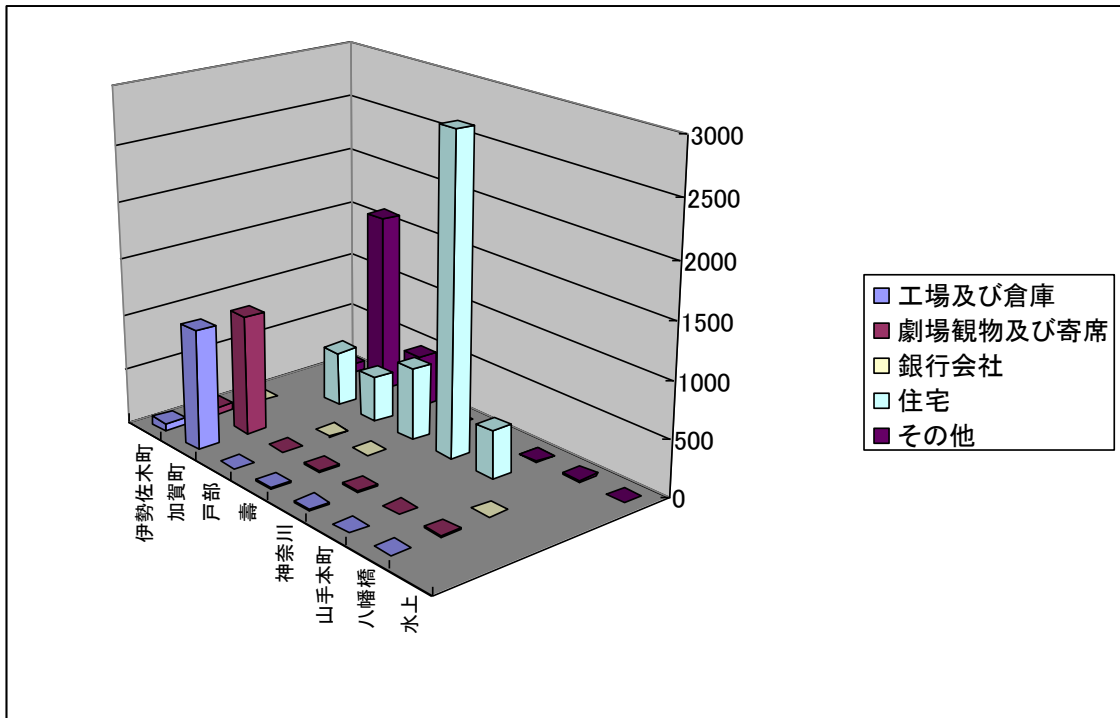


図 3-6 用途別建築物署別全壊棟数

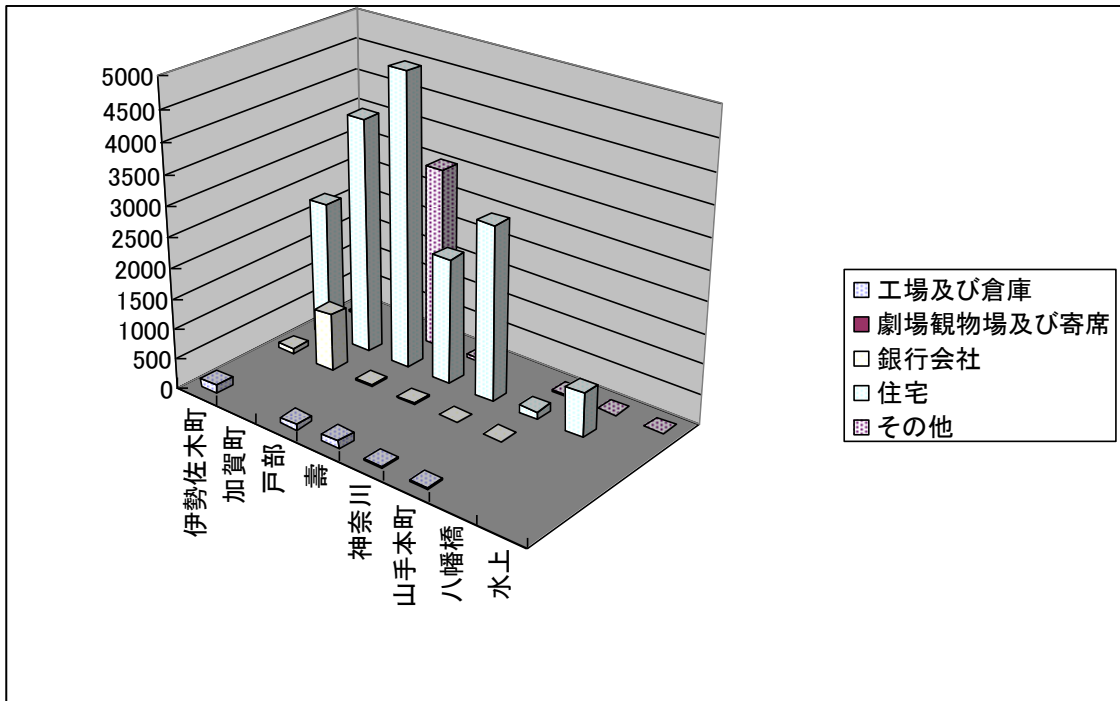


図 3-7 用途別建築物署別全焼棟数

図 3-4 から図 3-7 より、用途別建築被害では、官署公署などの建築の絶対数が少ない。全壊数では加賀署が郡を抜いて高いと言える。全焼では、比較的いくつか近い値を持っている。また、表 3-6～表 3-7 をまとめ表 3-10、表 3-11 に示す。

用途別建築被害では、山手本町署では住宅の倒壊数が多いが、全焼数が少ない。八幡橋署以外では、全壊数は高くないが全焼については高い。

表 3-10 用途別署別倒壊被害

用途 署別 被害内容	官署公署 御用邸及び御別荘無し		公使館及び領事館		学校及び図書館		公共病院その他公共建物		神社仏閣		教会堂	
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊
伊勢佐木町	2				16	2	4	3	15	10	2	
加賀町	89		25		135		4		9		6	
戸部					6	4			4			
壽	1				4	3	1		4	2	1	
神奈川					1				7	8		
山手本町			8	6			13	5	2	5	1	1
八幡橋	21	37			2	1			5	1		
水上	2							1				
用途 署別 被害内容	工場及び倉庫		劇場観物場及び寄席		銀行会社		住宅		その他			
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊
伊勢佐木町	70	26	13		4	1	540	1007	73			
加賀町	1068								1617			
戸部	5	34	6		24	16	485	551	469			
壽	15	2	4				408	435	1			
神奈川	15	29	3			2	642	462				
山手本町	1						2836	1293	3			
八幡橋	11	8			7	2	421	632	18			
水上									1			

表 3-11 用途別署別焼失被害

用途 署別 被害内容	官署公署 御用邸及び御別荘無し		公使館及び領事館		学校及び図書館		公共病院その他公共建物		神社仏閣		教会堂	
	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼
伊勢佐木町	17				13		4		28		9	
加賀町												
戸部	10				11		4	1	7		3	
壽					41		10		13		1	1
神奈川	1				1				2		1	
山手本町	42		13		13		40	6	3		12	
八幡橋			1									
水上												
用途 署別 被害内容	工場及び倉庫		劇場観物場及び寄席		銀行会社		住宅		その他			
	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼	全焼	半焼
伊勢佐木町	150				87		8539		15			
加賀町					954		2268					
戸部	95				41	2	3901		3032			
壽	133				26		4846	6	53			
神奈川	41	2			5		2083	1				
山手本町	22				2		2883		17			
八幡橋							118		5			
水上							736		12			

全壊と半倒壊について比較を行う。ここでの比較は、震災は火災の被害が大多数で、延焼区域における被害が主である。横浜における延焼区域は、山間部による焼け止りが起きている。表 3-2 の被害を免れた建築物から詳細を読み取ると「地盤が強固であった」・「周辺に火気無し」と自然状況が影響をしている。

ここで、署轄の特徴では、加賀署における管轄範囲は山間部を含んでいない。加賀署以外の署では、山間部を含む管轄となっている。

署別に倒壊を見ると、署轄内の地域の被害特性を倒壊被害読み取る。表 3-6 倒壊と半倒壊の被害をまとめ、表 3-12 に示す。また、倒壊と半壊の比較をする。加賀町署と山手本町署の倒壊数は、ほぼ等しい。加賀署、山手本町署における建築棟数この二署轄内は他の署を圧倒して全壊数が高い。加賀署において、地盤が強固では無いことが言える。山手本町署の低地部分は、埋め立てをする以前は漁村地域であったと考えられ、建築物の老朽化が原因であったと推測する。神奈川署・壽署・八幡橋署では、全壊と半壊の割合が半々となっていることがわかる。神奈川署と壽署では、埋立地も含まれ地盤が弱い地域があることがあげられる。

表 3-12 署別における全壊・半倒壊

署別	全壊	半壊	損害
伊勢佐木町	739	1106	6555828
加賀町	2953		123409589
神奈川	668	501	659653
壽	443	442	1200651
水上	3		6500
戸部	977	1075	2085650
八幡橋	493	707	1666655
山手本町	2856	1315	1722023
計	9132	5146	137306549

表 3-7 の焼失被害より、署別ごとの焼失被害を表 3-13 に示す。伊勢佐木町署・戸部署の焼失棟数が高い。八幡橋署は他の署と比べ極端に焼失棟数が少ないことがわかる。八幡橋署では、高台の山間地に位置しており樹木等の影響で焼失を免れていると推測できる。

伊勢佐木町署と壽署は、延焼区域の中心といえる場所に位置し似た環境下ではあるが、壽署の管轄地域では伊勢佐木町署より広く非延焼区域を持っている。そのため、伊勢佐木町署よりも全焼棟数が少なく、半焼があると言える。

表 3-13 署別焼失被害

署別	全焼(棟)	半焼(棟)	損害(円)
伊勢佐木町	8862		36550030
加賀町	3222		2021817111
神奈川	2134	3	54699928
壽	5123	9	37620239
水上	748		4486774
戸部	7104	1	11531440
八幡橋	124		6019920
山手本町	3047	6	7482095
計	30364	19	2180207537

被害総額を署別に表 3-14 とし示した。被害金額では、倒壊の被害金額の割合が高かった加賀町で 90%の割合を占めている。伊勢佐木町署・神奈川署・寿署と延焼地域にある署が順に高い割合となっている

表 3-14 署別被害額

署別	倒壊における損害(円)	焼失における損害(円)	総被害(円)
伊勢佐木町	6555828	36550030	43105858
加賀町	123409589	202181711	325591300
神奈川	659653	54699928	55359581
寿	1200651	37620239	38820890
水上	6500	4486774	4493274
戸部	2085650	11531440	13617090
八幡橋	1666655	6019920	7686575
山手本町	1722023	7482095	9204118
計	137306549	360572137	497878686

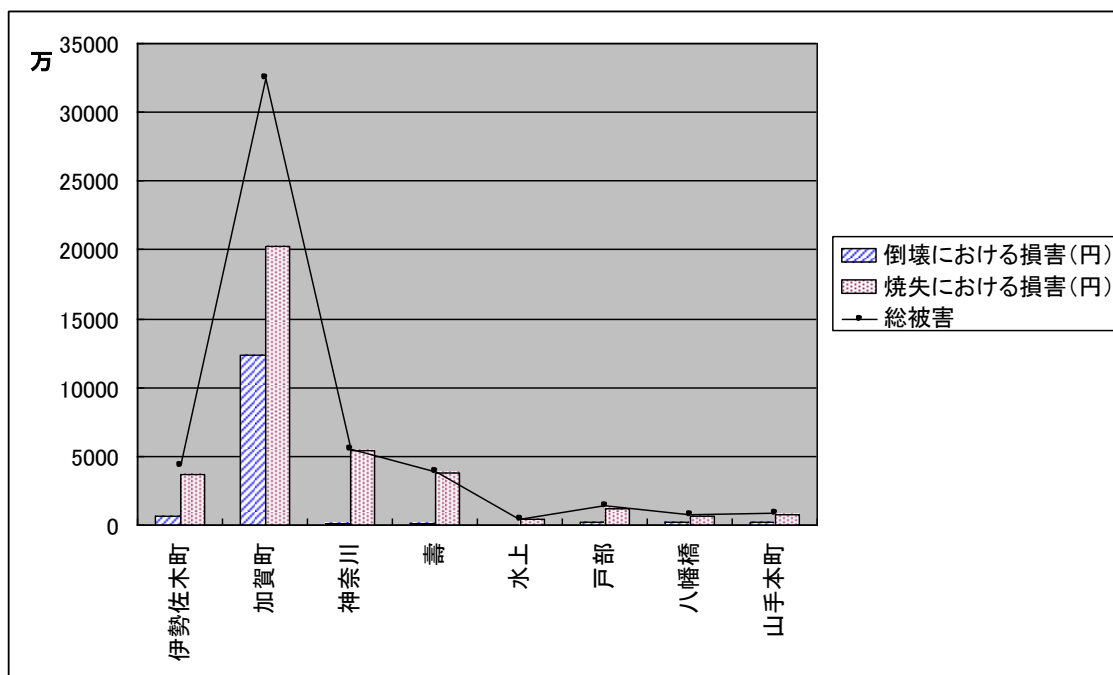


図 3-13 署別被害額

iii) 署別建物の被害率

横浜市の建築物被害は棟数で記録されているが震災前の棟数は不明のため市税課税建物棟数より類推した。また、町別には記録がないため署別のみ比較した。表 3-15 より伊勢佐木町 100.00%、山手本町 99.63%と、ほとんどが被害を受けており、伊勢佐木町署では火災による焼失、山手本町署では倒壊と焼失半々の割合であった。

表 3-15 署別建物の被害率

署別	震災前棟数(棟)	被害棟数(棟)	被害率(%)
伊勢佐木町	9,887	10,086	102.01
加賀町	3,549	2,268	63.91
戸部	12,536	4,937	39.38
壽	12,247	5,695	46.50
神奈川	7,043	3,188	45.26
山手本町	6,987	6,961	99.63
八幡橋	2,102	1,171	55.71
その他	1,460	736	50.41
計	55,811	35,042	62.79

[出典 第十九回統計書・大正大震火災史 神奈川県警察部より作成]

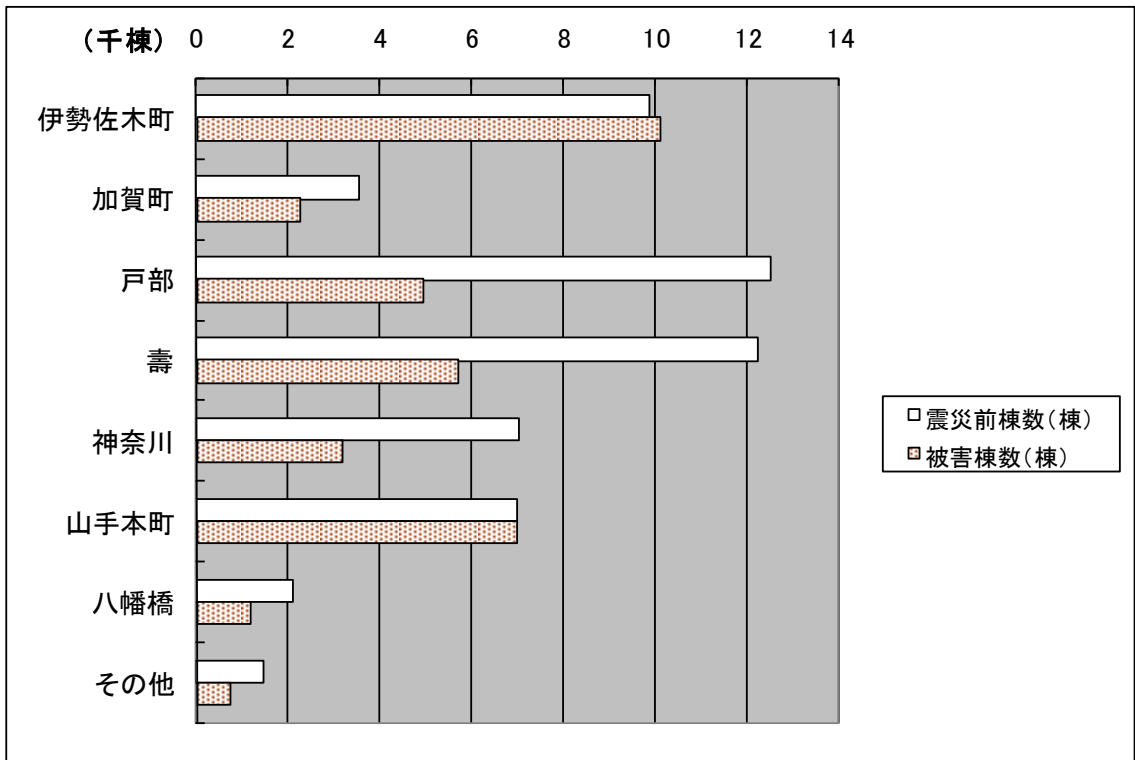


図 3-14 署別建物の被害率

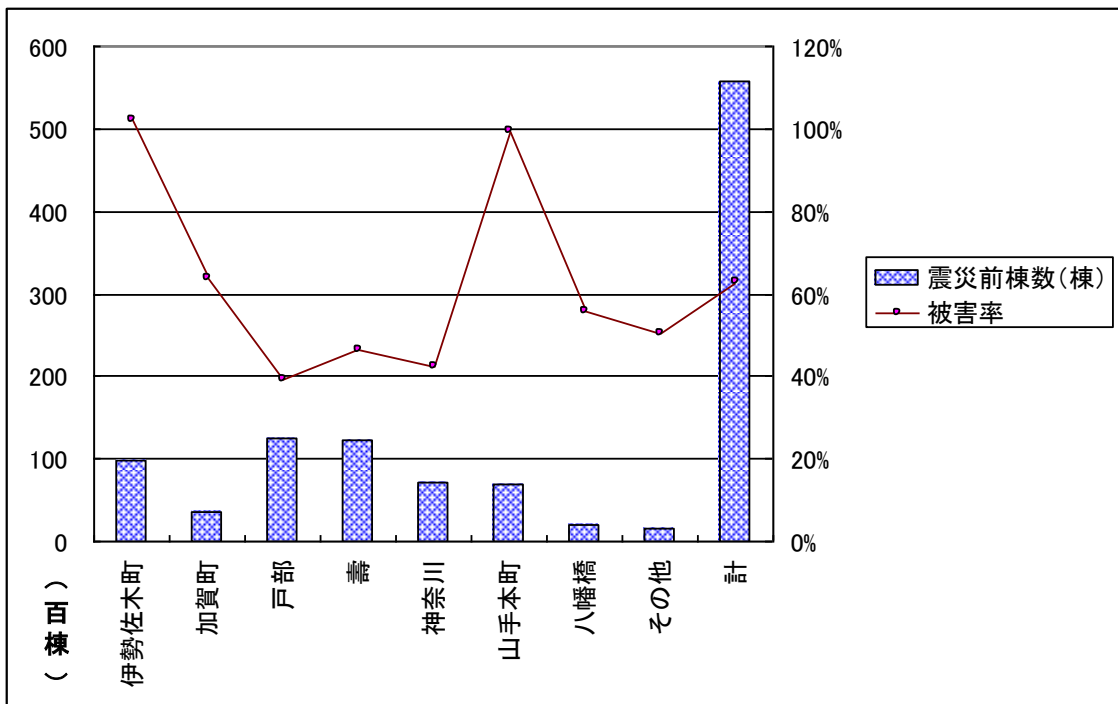


図 3-15 署別建物の被害率

三章内 建築被害

参考文献

1. 「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行
2. 「第十九回統計書」横浜市役所編集大正 11 年 12 月 20 日発行
3. 「1923 関東大震災報告書 第 1 篇」中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2006 平成 18 年(2006)7 月発行

二章 出典

1. 表 3-1 1923 関東大震災報告書 第一編 P508 「第十九回統計書」横浜市役所編集大正 11 年 12 月 20 日発行 P 554～P 555 第 453 市税課税建築棟敷及坪より作成
2. 表 3-2 「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 倒壊と焼失を免れた重要な建築物調査表 P 1125～P 11363
3. 表 3-5～表 3-8 署別倒壊・焼失・合計被害「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 P 1016～P 1026
4. 表 3-15 「第十九回統計書」横浜市役所編集大正 11 年 12 月 20 日発行 P 554～P 555 第 453 市税課税建築棟敷及坪・「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 P 1016～P 1026 より作成

3.3 橋梁の被害

i) 横浜市に架けられていた橋梁の本数・構造

横浜市には震災前に大正9年の調査より橋が架けられていた総数は220ヶ所。人口増加と共に橋が増加していったと推測できる。

横浜市の橋の個数、長さ、幅をまとめたものとして表3-16とし示す。市費や県費の別と橋の長さや幅が分かれている。

しかし、木鉄混成の欄に数値の記載が無く、各欄の合計値が個数を除いて小計欄より、小さいことから、この差を木鉄混成の数値として表中に示した。

表 3-16 大正9年当時の横浜の橋梁

構造別	個数	長さ(間尺寸)	巾(間尺寸)	敷坪(坪)	一橋平均		
					長さ(間尺寸)	巾(間尺寸)	敷坪(坪)
一般市費							
木造	162	916.01	300.16	2359.78	5.39	1.52	14.56
鉄造	12	185.27	63.41	974.43	15.27	5.18	81.2
石造	6	7.56	7.52	10.23	1.19	1.18	1.75
計	180	1109.24	371.49	3344.44	6.98	2.39	18.58
補給費							
木造	3	21.06	8	52.95	7.02	2.4	17.65
鉄造	6	134.52	27.25	64.55	22.27	4.34	107.58
石造	1	1	4	4	1	4	4
計	10	156.58	39.25	702.45	15.65	3.65	70.24
県費							
木造	20	159.4	72.23	524.57	7.59	3.37	26.23
鉄造	5	61.43	28.54	427	7.4	3.45	85.4
鉄筋コンクリート造	2	22.17	17	268.66	11.09	8.3	134.33
木鉄混成	...	[249.4]
石造	3	6.4	13	17.5	2.13	4.2	5.83
計	30	407.18	170.42	1237.73	13.34	5.41	41.26
総計	220	1673.4	581.56	5284.62	7.36	2.38	24.21
大正八年	明記無し	明記無し	明記無し	明記無し	明記無し	明記無し	明記無し
大正七年	213	1482.25	506.54	5220.74	6.57	22.2	24.51
大正六年	213	1481.12	508.3	5218.92	6.57	2.45	46.22
大正五年	208	1455.07	492.17	4992.83	67	22.2	23.99

[出典 横浜市第19回統計書]

表 3-16 の大正 9 年当時の横浜の橋梁をまとめ、表 3-17 に示した。表 3-17 と図 3-15 より、橋梁の木造の個数の割合では 84.09% に対し面積では 55.83% となっている。次いで、鉄橋の個数の割合が 10.45% に対し 27.74% の面積を占めている。比較的に大きい鉄橋が架けられてあったことが推測できる。また、年別に市が費用を出し施工した橋の表を表 3-18 に示す。

表 3-17 大正 9 年に架けられていた橋梁の構造

構造別	個数	長さ(間尺寸)	巾(間尺寸)	敷坪(坪)
木造	185	1096.47	380.39	2937.3
鉄造	23	381.22	119.2	1465.98
石造	10	14.96	24.52	31.73
鉄筋コンクリート造	2	22.17	17	268.66
木鉄混成	0	[249.4]	[40.45]	[291.79]
計	220	1514.82	541.11	4703.67
総計	220	1673.4	581.56	5284.62

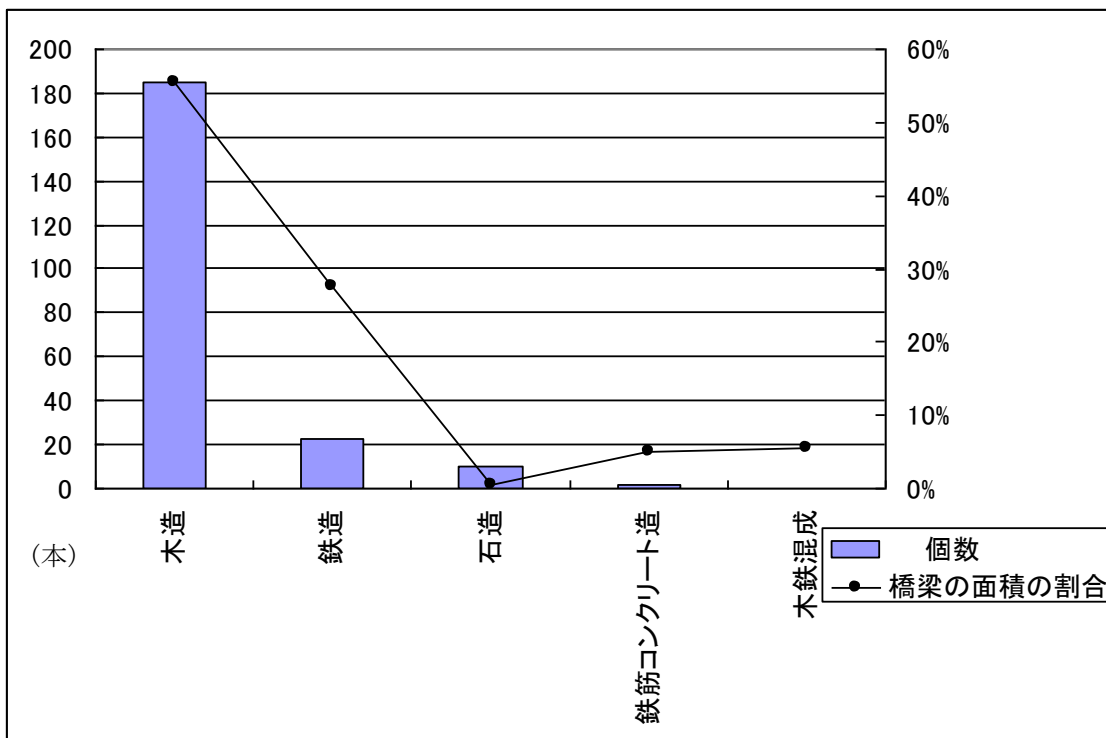


表 3-18 市費木橋架設年次別

年次	一般市費				補正比			
	橋数	長(間尺寸)	巾(間尺寸)	坪 (坪)	橋数	長(間尺寸)	巾(間尺寸)	坪 (坪)
大正九年
大正八年	1	10.3	2.03	21
大正七年	2	12.3	4	25
大正六年	2	14	4.5	44.67
大正五年
大正四年	3	35.5	5.56	82.02
大正三年	6	17.4	10.5	30.38
大正二年	10	115.41	28.17	329.39	1	3.56	2	7.85
大正元年	2	21	3	32
明治四十四年	3	39	9	118.5
明治四十三年	1	13	3.3	45.5
明治四十二年	3	22.2	8	65.48
明治四十一年	4	73	12	213.03
明治四十年	4	55.1	12.25	167.17
明治三十九年	4	43	11.3	129.5
明治三十八年	3	47.4	8.17	131.77
明治三十七年	2	35.15	5.3	98.21
明治三十六年	3	40.17	9	120.55	2	17.1	6	45.1
明治三十五年	1	11.05	2.3	27.73
明治三十四年	1	12.4	2.5	35.9
明治三十三年	1	17.5	3.15	47.08
明治三十二年	2	20.04	6	60.2
明治二十九年	1	17.15	3	51.75
明治二十七年	2	22.15	5.49	65.63
明治二十六年	1	9	3	27
明治二十五年	1	19.05	3	57.25
明治二十四年
明治二十三年	1	21.3	4	86
明治十年	1	21.3	4	86
不詳	97	153.54	126.04	200.22
総計	162	916.01	300.16	2359.78	3	21.06	8	52.95

[出典 横浜市第 19 回統計書]

表 3-20 橋梁の被害の詳細

神奈川県警「大正 大震火災誌」		落下した橋梁			大正震災誌 内篇	
橋梁名称	所在地	橋梁		建築種類	建築年月日	破損程度
		長さ	巾			
豊国橋	蓬萊町1丁目	26.7	3.7	鉄橋トラス	不明	三橋の内一橋墜落
高里橋	高島町4丁目	12	7.3	鉄橋ビーム	不明	詳細不明
谷戸	堀川町	14.1	7.3	鉄橋トラス	不明	右岸約十尺脱落
築地橋	高島町5丁目	17.5	8.4	鉄橋ビーム	不明	墜落
観音橋	弘明寺町字前田	8	2.5	木橋	大正9年7月竣工	詳細不明
小港橋一號	北方町泉(川口寄)	8	2.5	木橋	大正2年12月竣工	詳細不明
八千代橋	大野町	20	3	木橋	不明	墜落(?)
小港橋二號	北方町泉(川口より二番)	4	3	木橋	不明	詳細不明
都橋	野毛町1丁目	12.8	3	鉄橋トラス	明治16年1月竣工	詳細不明
落下を免れたが焼失した橋						
橋梁名称	所在地	橋梁		建築種類	建築年月日	
		長さ	巾			
一本橋	南吉田(字清水耕地)	10	2	木橋	不明	全部焼失
綿花橋	綿花町	11.7	2	木橋	不明	詳細不明
柳橋	柳町	26.7	4	木橋	不明	全部焼失
末吉橋	黄金町1丁目	9	2.5	木橋	不明	全部焼失
南吉田橋	長島町6丁目	11.2	3	木橋	不明	全部焼失
旭橋	日の出町2丁目	10	2	木橋	不明	全部焼失
權三橋	蓬萊町2丁目	18	1.5	木橋	不明	全部焼失
翁橋	石川5丁目	13	2.5	木橋	不明	全部焼失
供進橋	中村町池の下	15	3	木橋	不明	全部焼失
高島橋	高島町10丁目	20	3	木橋	不明	全部焼失
武蔵橋	雲井町2丁目	1.85	2	木橋	不明	全部焼失
長島橋	駿河町1丁目	18.5	2	木橋	不明	全部焼失
宮川橋	宮川町1丁目	11	3	木橋	不明	全部焼失
萬治橋	末吉町6丁目	11.2	3	木橋	不明	全部焼失
浅山橋	平沼町3丁目	8	3	木橋	不明	全部焼失
道慶橋	南太田町字煎里耕地	10.2	2.5	木橋	不明	全部焼失
紅葉橋	花咲町7丁目	10	3	木橋	不明	全部焼失
雪見橋	花咲町9丁目	13.5	3.5	木橋	不明	全部焼失
花咲橋	花咲町11丁目	11	3	木橋	不明	全部焼失
櫻橋	戸部町7丁目	8.8	4	木橋	不明	全部焼失
日ノ出橋	不老町4丁目	11.7	2.5	木橋	不明	詳細不明
松影橋	松影町5丁目	13	3	木橋	不明	全部焼失
西之橋	山下町堀川町	17.6	4	鉄橋トラス	不明	桁及び全部焼失
亀ノ橋	吉浜町	16	4.5	木橋	不明	全部焼失
三吉橋	三吉町5丁目	14.8	3	木橋	不明	全部焼失
道場橋	南吉田南川外	15.1	3	木橋	不明	全部焼失
長者橋	長者町9丁目	12	4	木橋	不明	詳細不明
黄金橋	黄金町1丁目	10	3	木橋	不明	全部焼失
戸部橋	戸部町7丁目	10.7	7.5	鉄橋ビーム	不明	橋面全部焼失
千秋橋	長者町4丁目	18	2.5	木橋	不明	全部焼失
碧海橋	青木町7軒町	15	3	木橋	不明	全部焼失
漣橋	青木町7軒町	15	3	木橋	不明	全部焼失
宮洲橋	宮洲町	6.5	2.5	木橋	不明	全部焼失
寶橋	寶町	10	3	木橋	不明	全部焼失
緑橋	福島町2丁目	9	2	木橋	不明	全部焼失
駿河橋	南吉田町南5丁目	11.3	7.5	鉄橋ビーム	不明	三分の一、橋面焼失
蓬萊橋	蓬萊町1丁目	17.7	3	鉄橋トラス	不明	橋面焼失
花園橋	扇町1丁目	29.6	5	鉄橋トラス	不明	橋面焼失
前田橋	山下町	19.8	2.3	鉄橋版桁	不明	橋板全部焼失

[出典 神奈川県警 大正 大震火災誌・大正震災誌 内篇より作成]

蔵谷橋	南吉田町南七ツ目	17.5	3	鉄橋ビーム	不明	脱落焼失
港橋	不老町1丁目	26.7	6.3	鉄橋トラス	明治36年3月竣工	橋面全大分焼失同焼失取崩壊
錦橋	花咲町1丁目	10	3	鉄橋トラス	不明	橋面焼失
山吹橋	山吹町1丁目	18.5	4	鉄橋版桁	不明	橋面一部焼失
東橋	千歳町2丁目	19	3	木橋	不明	西橋共に沈下。橋、脚・桁を残す
榮橋	黄金町	11.6	7.6	鉄橋ビーム	不明	橋面大分焼失
落下を免れ且つ焼失を免れた橋						
橋梁名称	所在地	橋梁		建築種類	建築年月日	
		長さ	巾			
山王橋	南太田字富士見耕地	11.5	3.2	木橋	大正3年5月竣工	異常なし
平岡橋	西平沼町	15	3	鉄橋ビーム	大正2年10月竣工	橋共に沈下
大井橋	井戸ヶ谷町字大橋	12	1.5	木橋	不明	詳細不明
鶴ノ橋	蓬萊町3丁目	18.5	6	木橋	大正3年3月竣工	橋共に沈下。その他に異常なし
日本橋	南吉田町南五ツ橋	18.5	3	木橋	不明	両橋共に崩壊
平戸橋	西平沼町	6.1	2	木橋	不明	異常なし
横浜橋	駿河町3丁目	18.3	4	木橋	大正4年1月竣工	両橋共に崩壊
千歳橋	南吉田町南川	15.7	2.5	木橋	不明	両橋共に崩壊
清水橋	南太田町清水耕地	10.6	1.7	木橋	大正8年5月竣工	異常なし
月見橋	高島町8丁目	14.7	8	鉄橋ビーム	大正2年1月竣工	異常なし
扇田橋	西平沼町	10	1.5	木橋	大正10年8月修繕	異常なし
星野橋	星野町	10.2	4	木橋	大正10年8月修繕	異常なし
石崎橋	平沼町1丁目	8.4	4	鉄橋ビーム	大正2年11月竣工	異常なし
池下橋	南吉田町南川外	17.9	8.4	鉄橋ビーム	大正10年3月修繕	詳細不明
葦名橋	磯子町字浜	11	3	鉄橋ビーム	大正元年10月修繕	詳細不明
幸橋	橋本町	14.8	3	木橋	明治41年12月竣工	異常なし
吉田橋	吉田町1丁目	22.5	11.1	鉄筋コンクリート	明治44年9月竣工	異常なし
吉浜橋	吉浜町	27	5.5	鉄橋版桁	不明	左岸橋共に崩壊(?)
小港橋3號	北方町泉(川口寄り3番目)	2.9	2.8	木橋	不明	詳細不明
萬代橋	橋本町	30	3	木橋	不明	異常なし
辨天橋	桜木町1丁目	26.3	10	鉄橋版桁	明治44年9月竣工	異常なし
大江橋	桜木町1丁目	32.7	13.1	鉄橋アーチ	大正11年7月竣工	詳細不明
鉄道陸橋	神奈川七軒町	20.7	5.3	鉄橋ビーム	不明	詳細不明
中村橋	中村町字西	15	2.5	木橋	不明	詳細不明
瓦斯橋	花咲町	9	3.2	鉄橋ビーム	大正10年9月竣工	異常なし
車橋	石川町7丁目	13.3	3.3	木橋	不明	異常なし
久良岐橋	吉田町南川外	16	3	木橋	明治44年1月竣工	両橋共に破損
日枝橋	吉田町南川外	15	3.5	木橋	大正11年8月修繕	橋共に沈下
材木橋	材木町1丁目	8.4	3	鉄橋ビーム	大正3年2月竣工	異常なし
平沼橋	西平沼町4丁目	15	4.4	鉄橋ビーム	不明	両橋共に崩落。橋脚1部破損
沼野橋	西平沼町	14.2	2	木橋	大正9年11月修繕	橋共に崩壊
天神橋	堀内町分田	15.7	2.2	木橋	大正9年5月竣工	詳細不明
根岸橋	根岸町	16.2	2.9	木橋	明治44年12月竣工	左岸橋共に崩壊
八幡橋	瀧頭町字浜	17.8	3	木橋	大正10年10月修繕	両橋共に被橋
坂下橋	根岸町坂下	16	1.7	木橋	大正8年6月竣工	異常なし
新日間橋	岡野町	9	4.3	鉄橋ビーム	不明	橋共に破壊
蒔田橋	蒔田町	7.5	2	木橋	大正7年5月竣工	橋面1部焼失
瀧ノ橋	瀧ノ町	5.4	4	鉄橋ビーム	大正2年1月竣工	詳細不明
入江橋	子安町海道筋	7.2	3	木橋	大正10年10月竣工	橋共に崩壊
山下橋	山下町海岸通り	28.6	7.7	鉄橋トラス	大正11年9月竣工	橋結一部崩壊
浅岡橋	浅間町岡野町境	8	4.5	木橋	大正11年9月竣工	詳細不明
三輪橋	北方町泉	2	3	木橋	不明	詳細不明
二ツ谷橋	神奈川二ツ谷	3	4.2	鉄筋コンクリート桁	不明	詳細不明
境橋	神奈川二ツ谷	4.5	2.5	木橋	不明	詳細不明
六角橋	神奈川斉藤分郡市境界	1.6	3	木橋	不明	詳細不明
南北橋	久保町郡境界	4	2	木橋	大正10年10月竣工	詳細不明
無名橋	磯子町腰越	1.5	2	木橋	不明	無名橋すべて詳細不明
無名橋	大岡町千保大岡川筋	1.6	3	木橋	不明	不明橋
無名橋	大岡町縣道筋	6.7	1	木橋	不明	トン橋(墜落)・大後橋(異常なし)
無名橋	井戸ヶ谷宿ノ前蒔田橋通	1.7	2	木橋	不明	却橋(橋共に沈下)・長志橋(全部
無名橋	井戸ヶ谷638番地先	2	2.6	木橋	不明	焼失)・藍田橋(墜落)・萬里橋(墜
無名橋	井戸ヶ谷神奈川斉藤分	1.2	2	木橋	不明	落)・村雨橋(橋共に崩壊)・千島橋
無名橋	本牧八王子	1.6	1.5	木橋	不明	(橋共に崩壊)
無名橋	根岸柏葉	2	1.5	木橋	大正10年4月竣工	

[出典 神奈川県警 大正 大震火災誌・大正震災誌 内篇より作成]

表 3-20 より、所在地の記載や被害の詳細を見ることで横浜の橋梁の被害が一覧できる。大幅に木橋が割合を占めているが鉄橋も焼失していることが、わかる。得られた詳細よりまとめ、構造別とし表 3-21・被害の一覧を表 3-22 に示す。木橋の被害について 49.35%と半数の値で被害を受けている。横浜市における木橋は 185 本存在をし、内訳で 77 本について調査され 39 本が残存した。次いで被害の割合が高い鉄橋 23 本から 13 本調査され、10 本の被害を出している。被害を特定した橋梁の場所を図 3-17 に示す。

表 3-21 落下・焼失した橋梁の構造別

落下を免れたが焼失した橋		
木橋		34
鉄橋トラス		5
鉄橋ビーム		4
鉄橋版桁		2
計		45
落下を免れ且つ焼失を免れた橋		
木橋		39
鉄橋ビーム		11
鉄橋アーチ		1
鉄橋トラス		1
鉄橋版桁		2
鉄筋コンクリート		1
鉄筋コンクリート桁		1
計		56

表 3-22 橋梁の被害一覧

構造	被害		
	落下	焼失	被害なし
木橋	4	34	39
鉄橋ビーム	2	4	11
鉄橋アーチ	0	0	1
鉄橋トラス	3	5	1
鉄橋版桁	0	2	2
鉄筋コンクリート	0	0	1
鉄筋コンクリート桁	0	0	1

表 3-20 の 108 ヶ所から地図上に被害状況を色分けして示した。落下した橋を黄色丸、焼失した橋を赤丸。落下・焼失しなかった橋は緑丸としている。

図 3-17 より、横浜における中心部が多くの橋が焼失している(中心部とは、図中で川に囲まれ焼失した橋に囲まれている部位を差している。)

震災前は大正 9 年(1920 年)の国勢調査より、総本数 220 の橋が架けられていた。横浜市は河川が多いため東京市の橋梁の密度より 1.26 倍の橋があり、その内訳は木造 185 本で 84%、次いで鉄造 23 本で 10%となっている。震災後、108 本の橋について調査が行われ、落下した橋 9 本(木造 4 本・鉄造 5 本)、落下を免れたが焼失した橋 45 本(木造 34 本・鉄造 11 本)、落下・焼失を免れた橋 54 本(木造 38 本・鉄造 15 本・RC 造 1 本)となっており、被害を受けた橋は 108 本中 54 本で 50%となっている。地震発生直後の風向の影響もあるが特に伊勢佐木町署に出火数が多く、橋の焼失も伊勢佐木町署と野毛山間の大岡川、壽署間の新吉田川、そして壽署と山手町間の中村川に多く見られる。

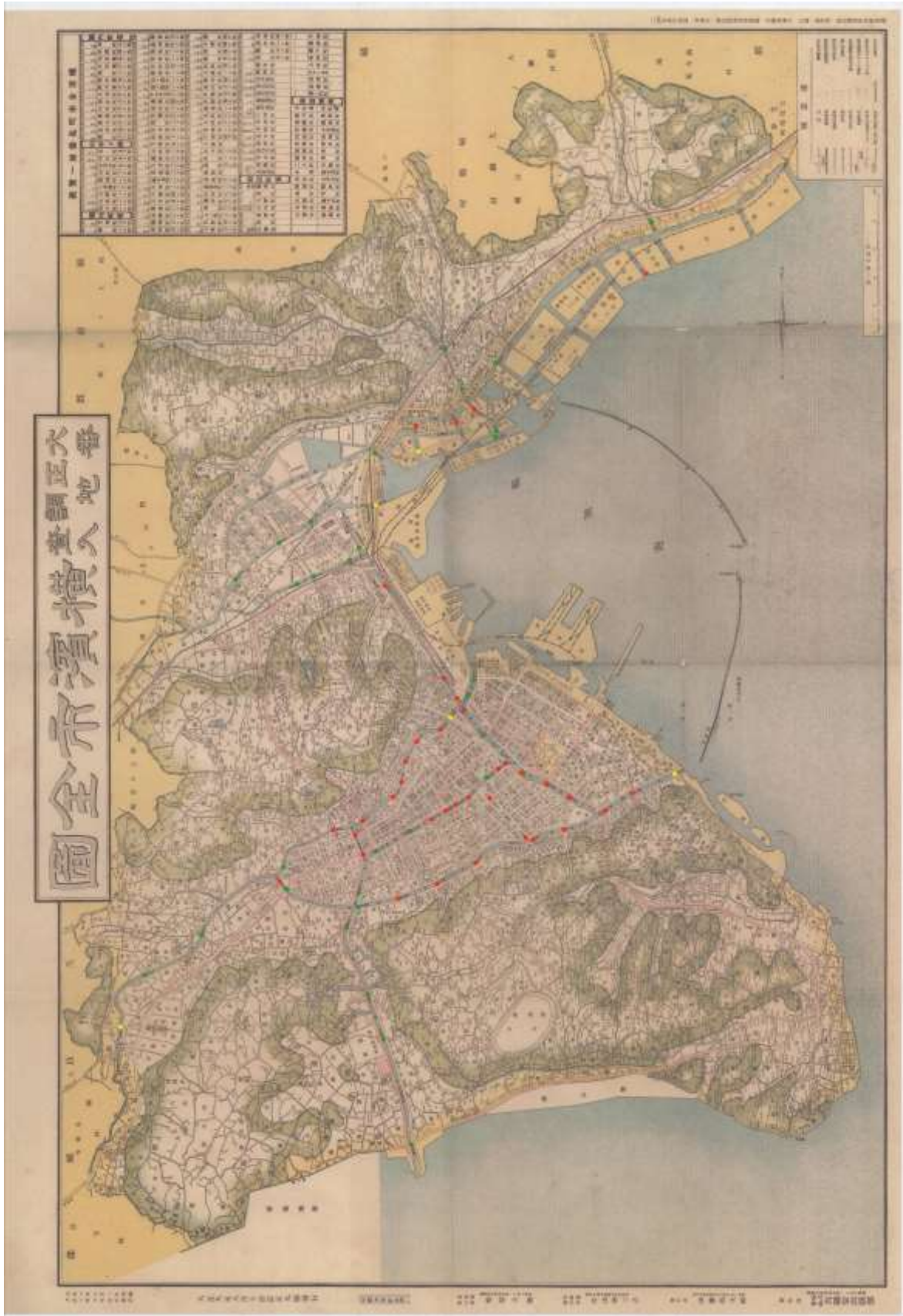


図 3-17 橋梁の被書場所

図 3-18 より、橋の焼失は図中の中心と台地間の大岡川、新吉田川、中村川に多く見られる。図より、川の名称は上から順に書き示してある。また、赤い線は延焼区域内であることを表している。図に 46 本の橋を図示しており、焼失した橋の割合は 65. 21%焼失している。

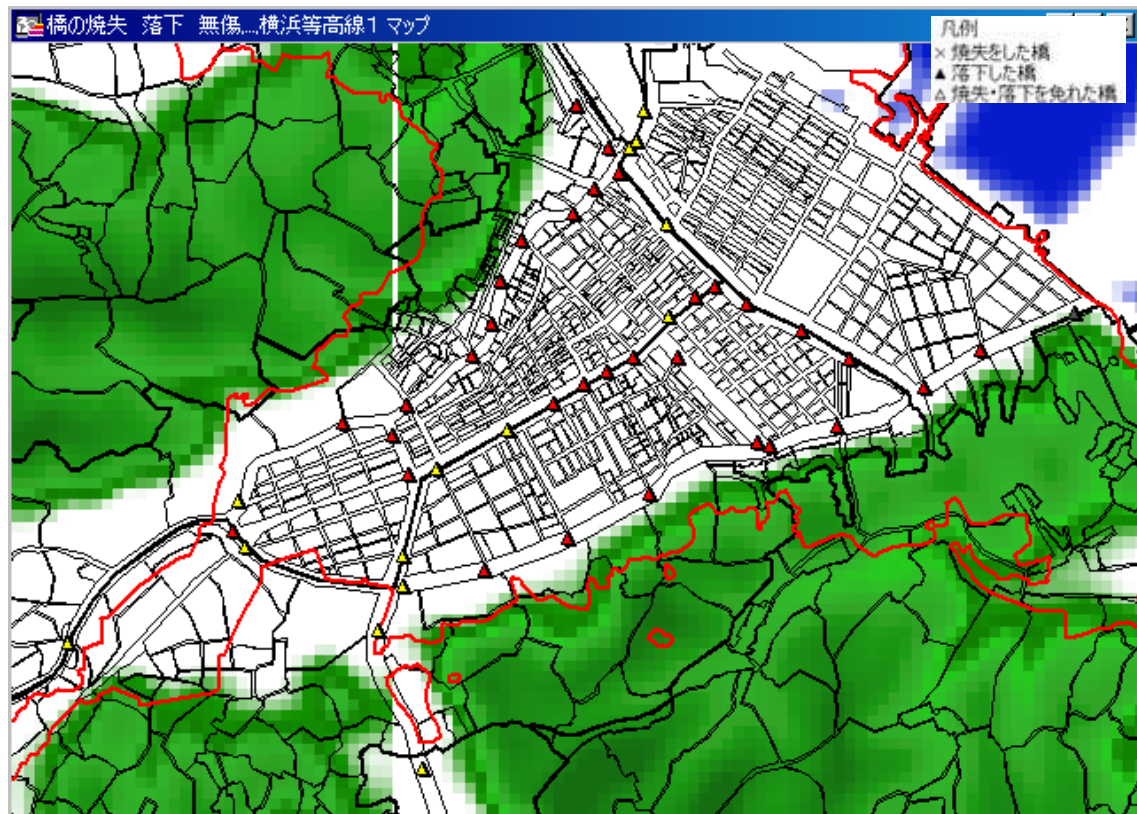


図 3-18 中心部における被害

三章内 橋梁の被害

参考文献

1. 「大正大震火災誌」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行
2. 「大正震災誌」内務省社会局編集 大正 15 年 2 月 28 日発行
3. 「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行

三章内 出典

1. 表 3-11 横浜市統計書 第 266 橋梁 P 425
2. 表 3-13 横浜市統計書 第 267 市費木橋架設年次別 P 426
3. 表 3-15 橋梁の被害の詳細 「大正大震火災誌」神奈川県警察部編集
P 1148～P 1155 「大正震災誌」内務省社会局編集 P 656～P 660

第四章 火災被害

第四章 火災被害

4.1 横浜市の火災被害概要

横浜市では、地震直後から数十箇所から一斉に出火し、強風の影響によって火災は延焼し多大な被害を及ぼした。臨時震災救護事務局で行われた調査では、被害の数値では東京に次ぐ被害を受けているのがわかるが、市民の被災した割合では、最も大きい被害となっている。出火に関し、東京市では 162 件となっており、横浜市における出火件数は 289 件とされている。件数の割合だけで見ると 1.78 倍の出火をほこっている。横浜の火災の被害は、中心部の商業地帯に多く見受けられる。また、工場や学校などの施設での出火も多い。横浜市では市街地宅地面積 490 万坪のうちの 360 万坪が被害を受け、全焼した町の数は 80、半焼した町の数は 20 に及んでいる。全焼した地域は、低地部分に集中している。倒壊では、横浜市での西部に向かうほど倒壊は少ない。延焼においては、西部の地域も延焼し全焼していることが特徴としてある。横浜市は、山間部に囲われた市街地であり、その山間の中が中心部と位置づけられる。境界線として、大岡川・中村川より外側が山間部となっている。延焼も山間部の樹木や地形上の形成で、止まっていることが特徴としあげられる。焼け止りが起き、避難民は高台に避難した。火災は激しく、避難民を焼死させ横浜市における火災の被害の激しさを物語っている。東部の延焼も工場が多数点在し、火元となり地域一帯を延焼させた。

また、文献により調査日時や調査方法により出火件数が異なる。本研究では、神奈川県警察本部が当人及び近隣住民を取り調べ出火場所が明らかであるために用いた。出火件数として、289 件の記録が主な記録であるが、横浜の中華街にあたる山下町では調査不能とされており出火件数はより多くなることは容易に推測できる。

4.2 出火場所

火災について、神奈川県警「大正 大震火災誌」から出火場所が明らかにされているために住所や出火原因をまとめた。表 4-1 より、自火が大半を占めているため出火原因は自火だと言える。飛び火に関しての割合は、4.94%となっている。また、12時00分に41件の出火をしている。割合として25.30%となっており、地震発生直後に火災している。出火原因は、営業中に出火・炊事中に出火・工場においての出火と順の順になる。出火場所は、伊勢佐木町・壽が大半を占めている。

表 4-1 警察所別出火報告

	発火時刻	発火場所	原因	摘要
A	12時25分	末吉町1-8 櫻井源右門方	不明	家屋倒壊の結果本人家族所在不明にして原因不明
A	12時15分	賑町1-2 料理店ミカドバー	自火	家屋倒壊と同時に調理場より発火
A	12時05分	吉岡町1-2 篠田揚屋 豊富多四朗方	自火	最初の強震と同時に家屋倒壊し篠田揚屋用油に引火発火した
A	12時10分	駿河町1-2湯屋 久保田かく方	自火	最初の強震と同時に煙突が倒れ家屋を破壊。竈の焚火最中にて
A	12時10分	吉岡町1-1 料理店 瀬田 博三郎方	自火	最初の強震と同時に家屋倒壊し調理場から発火
A	12時10分	長者町1-8 五湯屋 前田又五郎方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時15分	松ヶ枝33 料理屋 野村一夫方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	11時59分	若林町43 飲食店 金子吉治	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	11時59分	松ヶ枝町42 支那料理 吉沢清田朗方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	11時59分	松ヶ枝町13 蕎麦屋 池田金次郎方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時00分	末吉町3-41 天ぶら屋 久保勝次郎	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時00分	長島町2-11 菓子屋 高島吉平方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時10分	南吉田町432 小笹常三方	自火	家屋倒壊し炊事用竈より発火
A	12時10分	南吉田町432 北野米蔵方	自火	家屋倒壊し炊事用竈より発火
A	12時10分	南吉田町398 寺井菊二郎方	自火	家屋倒壊し炊事用竈より発火
A	13時30分	黄金町4-16 山崎栄十郎方	飛び火	末吉町5迄に延焼し火は強風のため大岡川を超えて飛び火した
A	13時30分	南太田町221 パン屋	不明	家族に事情聴取するが不明。付近の噂ではパン焼き竈より発火
A	13時30分	南太田町2225 成瀬トノ方	自火	家屋倒壊し炊事場の火より出火
A	14時00分	長島町6-30 山口政雄	不明	家屋倒壊し発火。取り調べの結果判明せず
A	12時00分	伊勢佐木町1-4 湯屋 有馬湯	自火	家屋倒壊し火焚場の火気より発火

[出典 神奈川県警 大正 大震火災誌]

A	12時00分	伊勢佐木町1-9 料理屋 津多屋	自火	家屋倒壊と同時に調理場より発火
A	12時00分	伊勢佐木町1-10 料理屋 天金	自火	家屋倒壊と同時に調理場より発火
A	12時00分	野毛町3-123 飲食店 詳榮楼	自火	家屋倒壊と同時に調理場より発火
A	12時00分	野毛町1-5 薬種商 稲垣栄造方	自火	家屋倒壊し、薬品散乱し発火
A	12時15分	野毛町2- 湯屋 齊藤幸太郎	自火	家屋倒壊し火焚場の火気より発火
A	13時30分	野毛町2-127 稲沢栄次郎方	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
A	12時00分	初音町2-26 煎餅屋 沖山政五郎方	自火	家屋倒壊と同時に煎餅焼竈より発火
A	12時00分	日の出町1-42 林福蔵方	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
A	12時15分	花咲町5-75 料理屋 岡田マサ	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	14時00分	南太田町947 マルエス 石油株式会社	不明	本会社に湯屋もあり倒壊し、その竈より出火 したと見られる。避難したため不明
A	12時00分	南太田町1837 書上廣造方	自火	家屋倒壊と同時に薪火より発火
A	13時30分	南太田町1244 大光院	自火	本堂倒壊により火鉢より発火
A	12時02分	蓬萊町1-6 洋食店 蓬萊亭	自火	家屋倒壊し、使用していた油に引火し出火
A	12時02分	梅ヶ枝町37 洋食店 花井考動方	自火	家屋倒壊し、使用していた油に引火し出火
A	12時30分	桜木駅	飛火	花咲町5丁目5丁目が火の海と化し、強風により 飛び火
A	12時30分	福富町1 船橋利三朗方	自火	家屋倒壊と同時に薪火より発火
A	12時15分	南吉田町216 文濤堂印刷工場	自火	製本乾燥用火鉢に製本類が落下し出火
A	12時15分	南吉田町162 支那料理 大塚稲次朗方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時10分	南吉田町268 支那料理 蓬萊亭	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時10分	南吉田町962 工場 肥田堅太郎方	自火	作業中工場の竈より発火
A	13時00分	足曳町1-4 豆腐屋 伊藤興作方	自火	油揚げ製造中、発火
A	13時10分	雲井町1-5 湯屋 田邊末松方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	13時15分	足曳町1-4 寺田喜三朗	自火	家屋倒壊と同時に火鉢より発火
A	12時50分	蓬萊町3-1 薪炭商 北見秀治方	自火	家屋倒壊し同時に、炊事場より出火
A	12時10分	羽衣町2-47 高梨皆吉方	自火	家屋倒壊し同時に、炊事場より出火
A	12時20分	羽衣町1-13 支那料理 山中卯之助方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時10分	羽衣町1-16 菓子屋 鈴木満次朗	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時05分	賑町2-6 蕎麦屋 坂部助十郎方	自火	家屋倒壊し営業用竈から発火
A	12時00分	足曳町2-15 豆腐屋 田邊源太郎	自火	家屋倒壊し同時に、営業用竈に掛けてあった 油がひっくりかえり発火

A	12時30分	末吉町5-54 パン屋 中山音次朗	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
A	12時30分	末吉町2-18 穀商 丸山米次朗方	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
A	12時30分	駿河町3-9 醫師 西依重次郎	自火	家屋倒壊と同時に使用中の薪火より発火
A	12時45分	末吉町2-15 パン屋 澤端音松方	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
A	13時00分	福富町湯屋 大瀧湯	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
A	13時00分	姿見町湯屋 吉野湯	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
A	13時00分	吉田町2-50 玉屋菓子店	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
A	13時00分	姿見町 洋食店 ブラジル	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
C	12時00分	平沼町1-26 友田製薬工場	自火	震災のため工場全壊により薬品より 発火
C	12時00分	西平沼1-26 工業株式会社ケーブル工場	自火	強震のためコールドール電が破壊され発火
C	12時00分	西平沼 横浜瓦斯局 瓦斯製造所	自火	強震のためコールドール製造所し倒壊し コールドール釜より発火
C	12時00分	横浜市立濤常高等岡 小学校	自火	校舎倒壊により、化学室から発火
C	12時00分	岡野町11 ローソク屋 上原米太郎	自火	家屋倒壊し使用中の薪火より発火
C	12時00分	南幸町 豆腐製造業 河内荘太郎	自火	家屋倒壊し油揚窯より、発火
C	13時00分	岡野町15 酒店 村岡マサ方	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
C	16時00分	岡野町18 建具職 大倉平三郎	自火	家屋倒壊し、火鉢より出火
C	12時30分	緑町1-1 密製造業 小野次朗方	自火	製造工場倒壊した結果使用中の電より発火
C	12時30分	戸部町4-102 煎餅屋 松方みよ方	自火	家屋倒壊し、餅焼き窯より発火
C	12時30分	戸部町3-87 洋服裁縫業 安達操	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
C	12時20分	西戸部622 職工 須山繁吉	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
C	13時00分	西戸部615 煎餅屋 小出庄蔵	自火	家屋倒壊し、餅焼き窯より発火
C	12時00分	西戸部1423 南京料理 平林俊秀方	自火	家屋倒壊と同時に調理場より発火
C	12時00分	久保町122 東洋麻糸紡績会社	自火	第1回の強震の際、研究室側が倒壊し、 薬品より発火
C	12時30分	富士瓦紡績会社 保土ヶ谷工場	自火	第1回強震の際に、薬品倉庫より薬品に より発火
D	12時00分	石川仲町5-105 米商 立壁政吉	自火	家屋倒壊し炊事場より出火
D	12時15分	石川町1-35 精進揚屋 山田フミ方	自火	家屋倒壊と同時に営業用電から発火
D	12時20分	中村町112 倒壊家屋	自火	家屋倒壊し同時に、出火。不明であるが 放火の疑いは無し
D	12時20分	中村町1369 倒壊家屋	自火	家屋倒壊し同時に、出火。不明であるが 放火の疑いは無し

D	14時00分	中村町870家屋 君山捨吉	自火	家屋倒壊し、長火鉢より出火する。
D	12時05分	中村町421 横浜亜鉛鑛金	自火	工場倒壊し工業用瓦斯爆発により発火
D	12時05分	中村町1335 木賃宿 原田町佐	自火	倒壊し、詰所の七輪より発火したと推測出来る
D	13時00分	中村町1248 家屋	飛火	中村町1080番ミシン工場から飛び火したと何人も証言
D	12時40分	中村町1261 家屋	飛火	中村町1080番ミシン工場から飛び火したと何人も証言
D	13時10分	南吉田町472 菓子製造業 佐藤瀧次朗	自火	使用中の七輪より発火
D	12時00分	中村町1240 酒店 小金沢小次朗	自火	天ぷらを揚げてる際、油に火が移り発火
D	13時00分	南吉田町953 ?商 川島フデ	自火	家屋倒壊と同時に営業用竈から発火
D	12時10分	壽町4-254 木晚職 金原支店	自火	家屋倒壊し、出火。屋人は、自宅から発火を否認する。しかし隣人は自宅からと証言
D	12時10分	松影町1-31 飲食店 鈴木清三郎	自火	天ぷらを揚げてる際、油に火が移り発火
D	12時10分	三吉町4-33 人夫 小川元次朗	自火	家屋倒壊し、七輪より出火する。
D	13時00分	三吉町5-36 菓子商 飯塚清太郎	自火	竈より延焼すると認める
D	12時10分	眞金町2-15 飲食店 須藤安吉	自火	家屋倒壊と同時に営業用竈から発火
D	12時10分	眞金町2-14 飲食店 藤田かめ	自火	家屋倒壊と同時に客間の火鉢から発火
D	12時10分	眞金町2-21 飲食店 奈良勘蔵	自火	家屋倒壊と同時に炊事場の竈より発火
D	12時10分	眞金町2-18 飲食店 井上鎌吉	自火	家屋倒壊と同時に炊事場の竈より発火
D	12時50分	眞金町2-12 飲食店 郡谷金平	自火	家屋倒壊と同時に炊事場の竈より発火
D	12時10分	眞金町1-3 電車運転手 村上鐵造	自火	家屋倒壊と同時に七輪より発火
D	13時00分	扇町4-137 借家差配 堀田岩吉	自火	家屋倒壊と同時に七輪より発火
D	13時00分	扇町2-59 飲食業 中川善三郎	自火	調理場から発火
D	12時15分	堀内町536 セールフレイザー	自火	社内の調理場より発火
D	12時10分	大岡町704 飲食店 桐ヶ谷作次郎	自火	竈所七輪より発火
D	12時10分	大岡町367 湯屋 藤井音次朗	自火	竈所七輪より発火
D	12時05分	大岡町565 洗濯業 新倉新蔵	自火	アイロン用炭火より発火
D	11時50分	大岡町731 高校 横浜高等工業学校	自火	電気科の蓄電室、化学化の薬品より発火

D	12時15分	瀧頭町270 工夫 中澤芳次朗	自火	竈所の天ぶら竈に火が入り発火
D	13時00分	富士見町1-5 豆腐商 池田幸之助	自火	営業用竈より発火
D	12時30分	蒔田町750 菓子店 星野	自火	竈所七輪より発火
D	12時30分	蒔田町492 畳師 吉田	自火	竈所より発火
D	14時00分	磯子町1687 飲食店 岡田平蔵	自火	竈所七輪より発火
D	14時10分	磯子町84 無業 住谷操次朗	自火	座敷火鉢より発火
D	14時10分	磯子町23 質商 上杉ラク	自火	座敷火鉢より発火
D	13時40分	萬代町2-35 倒壊家屋	自火	倒壊後、発火
B	12時00分	山下町202 アーレンス繼續社	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	住吉町5-58 田中キク方	自火	営業中に、第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	相生町5-84方面	自火	営業中に、第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	太田町1-1 南京料理 珍寶楼	自火	営業中に、第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	山下町259 フラシコルク	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	山下町214 オーバイカルシャ	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	山下町2 香港上海銀行	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	本町5 鈴木商会	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	太田町4-65 斉藤己之吉	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	太田町5-78 道瀬リウ	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	太田町5-77 星野仁太郎方	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	太田町5-78 田中新太郎	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	相生町5-81 山本ウメ	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	元町5-22 小島藤太郎	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	元町5-210 鎌田隼人	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	相生町5-84 黒澤儀作方	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
B	12時00分	山下町106 東波楼	自火	第一回強震の為倒壊。同時に発火
E	12時10分	本牧町箕輪下423 小西キヌ方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火
E	12時10分	本牧町谷戸1473 獨逸人 ゲオールラツツクファイセン方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火
E	13時00分	本牧町字矢2623 煎餅屋製 造業 永嶋興七方	自火	第一回強震と共に倒壊と共に煎餅製造の火床より発火

E	12時05分	本牧町2127 薬剤師 近藤治郎兵衛方	自火	第一回強震と共に倒壊と共に薬局の薬品の 化学反応より発火
E	13時30分	本牧町原1167 菅原千馬	自火	家屋倒壊と共に発火
E	12時05分	本牧町池田2315 大芦嘉三朗方	自火	倒壊と共に石油コンロに引火し発火
E	14時00分	根岸町2261 英国人 アールレン方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊「ストーブ」の残火 より発火
E	12時00分	元町1-1 入沢美光	自火	第一回強震と共に家屋倒壊「ストーブ」の残火 より発火
E	12時00分	元町1-5西洋洗濯業 山下一郎	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と共に営業用竈 より発火
E	12時35分	北方町上野698 洗濯業 藤原晴太郎	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火。 饅手を焼く火鉢より発火
E	12時15分	本牧町上臺3 煎餅屋 若宮牧太郎	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火。 煎餅を焼く火鉢より出火
E	12時15分	根岸町坂下691 松本某方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火。 屋内火鉢より出火
E	12時30分	北方町709 西洋料理 島崎仙太郎	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に厨房より 発火
E	14時00分	根岸町3257 豆腐製造業 相模榮吉	自火	第一回強震と共に家屋倒壊「ストーブ」の残火 より発火
E	12時30分	千代崎町7 蕎麦屋 西野善八方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と共に営業用竈 より発火
E	12時30分	山手本町158 米国人 ウィルソン方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊コック室ストーブ より発火
E	13時40分	北方町121 秀野音次朗	飛び火	北方町小港82付近から南風より飛び火
E	12時10分	山手町9 テンブルコート	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時にコック室 より発火
E	12時15分	山手町16 英国領事 ヘーク方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時にコック室 より発火
E	12時10分	山手町215 ゲオールラツクファイセン方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時にコック室 より発火
E	15時00分	山手町212 共立女子学校	自火	第一回強震と共に同時に化学室の薬品 より発火
H	12時50分	高島町10-21 ミンシ販売商店方	自火	第一回強震と共に家屋倒壊と同時に発火 (原因不明だが火鉢より出火と見られる)
H	15時30分	青木町字宮州町3575料理店 齊藤マツ方	飛び火	同町字七軒町方面の火事より飛び火
H	15時40分	青木町字瀧ノ横町333 三村義忠方	飛び火	虜宮町方面の火事より飛び火
H	15時40分	青木町鶴屋町347 日本水道管株式会社	飛び火	虜宮町方面の火事より飛び火
H	12時20分	神奈川町字柳町1014 リンネット会社	自火	乾燥室の煙突が倒れ、同所から発火
H	15時00分	神奈川町字宮州町稻荷町1408 横浜製鋼会社	自火	該工場倒壊後、機械竈の残火より発火
H	15時00分	神奈川町字稻荷町579 洋食店方	自火	該家屋内調理室の発火より発火。
H	15時00分	神奈川町字浦島町1-42 大日本人造肥料会社	自火	該工場内機械竈の破裂の為、発火。
H	15時00分	守屋町3 大日本人造肥料会社	自火	該工場の熔礦爐破壊の為、発火。
H	13時00分	子安町2983 横浜船造船職人 小林徳次郎	自火	炊事を仕掛け、第一回強震のため倒壊後に 発火。
H	12時00分	守屋町3 横浜化学工場	自火	該工場内に於ける化学薬品より発火
H	14時30分	子安1912 大日本人造絹糸会社	不明	本会社に湯屋もあり倒壊し、その竈より出火 したと見られる。避難したため不明

表 4-1 より時間ごとに出火件数をまとめ、表 4-2 に示す。表 4-2 より、13 時までに 82.1%の割合を占めてその後、時間的な幅を持って出火が続いていることが読み取れる。遅い時間では出火が少ない。飛び火は相対的に 6 件と少ないが含まれている。

表 4-2 出火時刻と件数

時刻	件数	割合(%)	累積割合(%)
11時59分	4	2.5	2.5
12時00分	41	25.3	27.8
12時05分	2	1.2	29.0
12時10分	7	4.3	33.3
12時15分	20	12.3	45.7
12時20分	9	5.6	51.2
12時30分	11	6.8	58.0
12時40分	1	0.6	58.6
12時45分	16	9.9	68.5
12時50分	6	3.7	72.2
13時00分	16	9.9	82.1
13時40分	8	4.9	87.0
14時00分	3	1.9	88.9
14時40分	6	3.7	92.6
15時30分	3	1.9	94.4
16時00分	6	3.7	98.1
不明	3	1.9	100
計	162	100	100

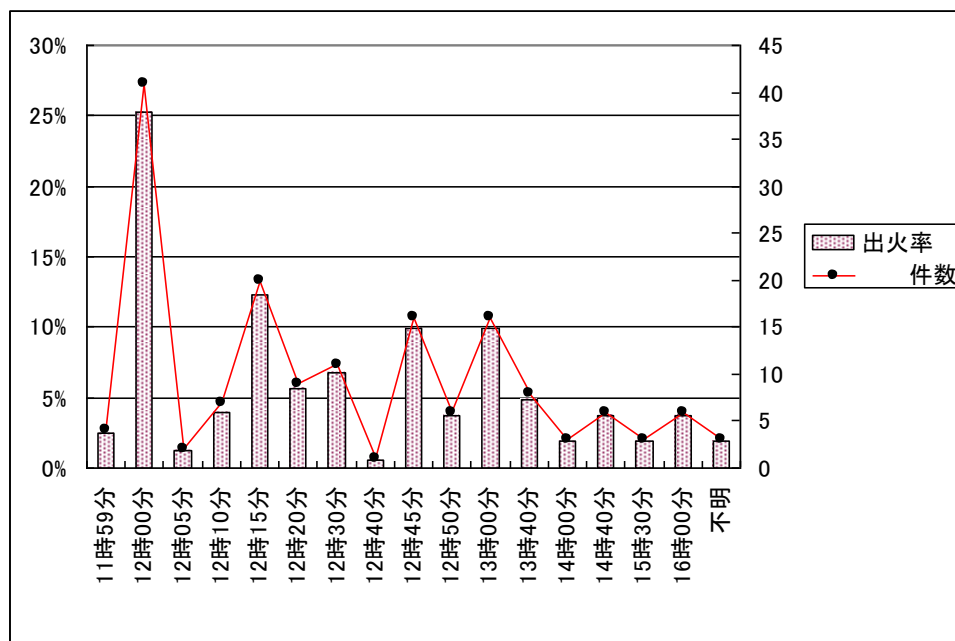


図 4-1 出火件数と出火率

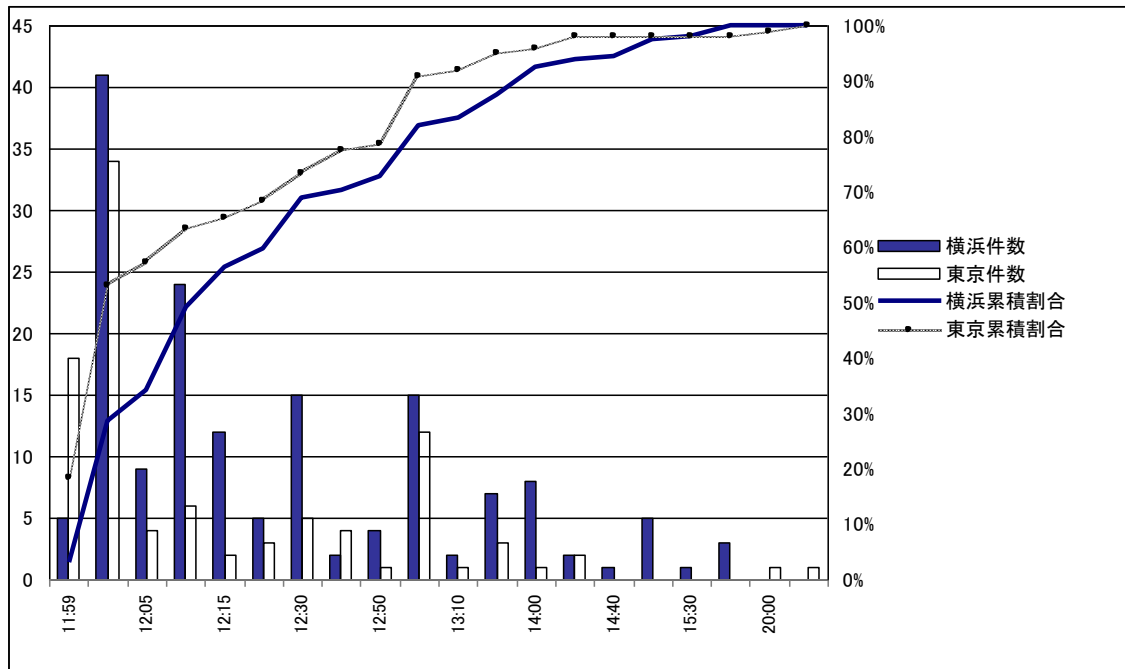


図 4-2 出火件数と出火率

横浜震災誌では業種別出火件数として 289 件があげられているが、本論では神奈川県警「大正 大震火災誌」の出火場所が明らかな件数として 162 件について調べた。これは東京市の 134 件と比較しても多く、市の面積当りでは 2.45 倍の出火密度となっている。火災発生時刻推移を図 4-1 に示す。これを見ると地震発生直後 12 時 00 分に 41 件と東京市の 34 件より多く出火している。累積割合で見ると両市共に同様の傾向であるが、横浜市は東京市よりも時間的な幅を持って出火が続いていることがわかる。また、出火時刻は地震発生後 2 時間で 90%を越える。また、延焼動態図での出火では 243 件について出火場所の印が示されており、出火場所に近いものについては記載されていない。

4.3 署別ごとの出火

出火の詳細・時刻の推移を示したことより、ここで署別の比較を行う。これにより、横浜の地域ごとの被害を示す。表 4-3 より、出火の件数は伊勢佐木町署の所轄内で多く出火している。全体の 17.17%の世帯数である。伊勢佐木町署では、表 4-1 でわかるように営業中の釜からの出火が多い傾向が読みとれる。ここで、加賀署に関して 17 件とされているが延焼動態図に記載されている調査不能の区域があるために出火件数が多いと言える。

表 4-3 出火時刻と件数

署別	件数	割合	世帯数	人口
伊勢佐木町	57	35.19	16872	74778
戸部	16	9.88	21393	93739
壽町	37	22.84	20900	89702
加賀町	17	10.49	6057	32024
山下本町	12	7.41	11923	53168
神奈川	23	14.20	12018	55711
その他			6078	23824
計	162	100	95241	422946

[出典 神奈川県警 大正 大震火災誌]

図 4-3 より、世帯数の多い戸部署では出火の割合が 10%を下回っている。戸部署と同等の世帯数の値を持つ壽町署では、伊勢佐木町署に次いでの出火の割合を持っている。このことは、伊勢佐木町署と壽町署は隣接する署轄間であり似た条件はであったことから出火の割合が高い。神奈川署では、表 4-1 から、出火原因として工場からの出火が多いと言える。次の図 4-4 では、全焼と出火の割合について比較を行う。伊勢佐木町署・加賀署・壽署では焼失棟数と出火の割合共に高い。戸部署を両者で比較すると出火の割合が低いことに対して全焼棟数が多い。このことより、戸部署の所轄管内で延焼による被害が大きかったと言える。

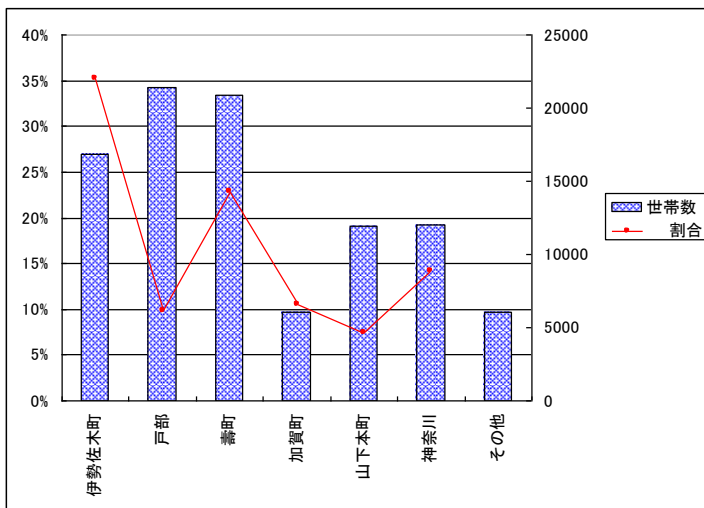


図 4-3 世帯数と出火の割合

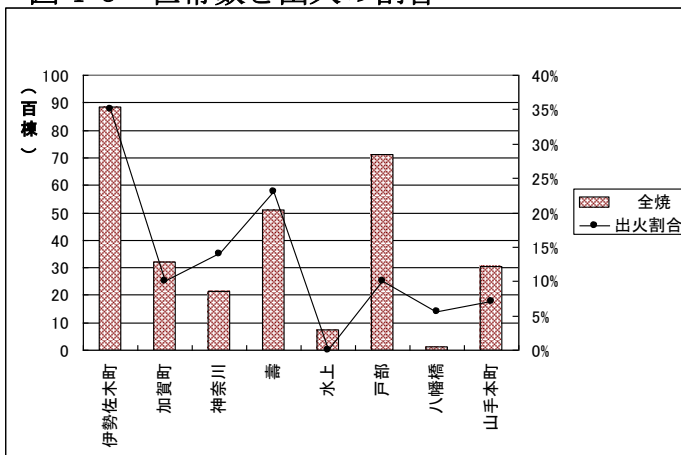


図 4-4 署別全焼棟数と出火の割合

表 4-4 署別による倒壊・焼失被害

署別	被害 倒壊による被害 (棟)	被害 焼失による被害 (棟)	署別の焼失によ る被害の割合	横浜市における 焼失の割合
伊勢佐木町	1845	8862	82.77	19.84
加賀町	2953	3222	52.18	7.21
神奈川	1169	2137	64.64	4.78
壽	885	5132	85.29	11.49
水上	3	748	99.6	1.67
戸部	2052	7105	77.59	15.91
八幡橋	1200	124	9	0.28
山手本町	4171	3053	42.26	6.84
計	14278	30383	68.03	68.03

署別の被害をまとめ表 4-4 とし示す。倒壊と比べると署別の被害棟数の焼失における被害の割合は大きい値を持っている。伊勢佐木町署、壽町署における被害は 80.00% を超え焼失の被害が顕著に読み取れる。また、戸部署では、77.59% の被害を受けている。この三つの署轄間では、延焼区域の中心と言える管轄であった。また、伊勢佐木町署、壽署では山間部を 3 分の 1 程度含んでいる。戸部署の管轄では、大部分が山間部で低地部に当たる地域は、延焼区域内になっている。加賀署では、全域が延焼区域内であるが倒壊と焼失を比べると 52.18% となっている。倒壊後、焼失していると推測できる。

山手本町署において、焼失の被害は 42.26% と被害の割合を占めているが横浜市全体で割合を見ると 6.84% となっている。全所轄では、水上警察をふまえて平均の値は、8.50% となっている。6.84% の割合は平均以下であるが被害は大きい。山手本町署の地域は、横浜市の西部に位置し、広く山間部にあり焼失は低地部に位置している。北方町に集中して延焼しており、本牧町周辺でも延焼している。

表 4-5 署別出火率と焼失面積

署別	人口(人)	出火件数 (件)	1万人あたり 出火件数	署轄面積 (ha)	焼失面積 (ha)	焼失率(%)
伊勢佐木町	74,778	57	7.62	3,351	1,806	53.89
加賀町	32,024	19	5.93	1,959	1,959	100.00
戸部	93,739	16	1.71	8,017	2,598	32.41
壽	89,702	34	3.79	5,563	2,147	38.59
神奈川	55,711	12	2.15	9,820	470	4.79
山手本町	55,711	24	3.64	10,598	1,521	14.35
計	401,665	162	4.03	39,308	10,501	26.71

出火場所は町の単位まで特定し、出火件数の最も多い町は 9 件の中村町と南吉田町、次いで 7 件の本牧町となった。これらの町は中心市街地から外れた場所であるが、面積が大きいことも火災件数が多い一因であると考えられる。表 4-5 の署別 1 万人当りの出火件数(以下、出火率)はおよそ 0~8 件の範囲内であるが、町別の出火率は最大で新浦島町の 212.766 件(出火件数 1、人口 47)、次いで守屋町の 112.994 件(出火件数 2、人口 177)と異常に高い数値となった。これは他の町に比べ人口が極端に少ないためであり、出火率 8 件以上のものを特殊解をとった。尚、山下町については神奈川県警「大正 大震火災誌」では出火件数 5 件となっており、延焼動態図の表記からも調査不能とされており、出火件数はさらに増加すると考えられる。

表 4-5 より、一万人当りの出火件数が最も多いのは伊勢佐木町署 7.62 件、次いで加賀町署 5.93 件である。

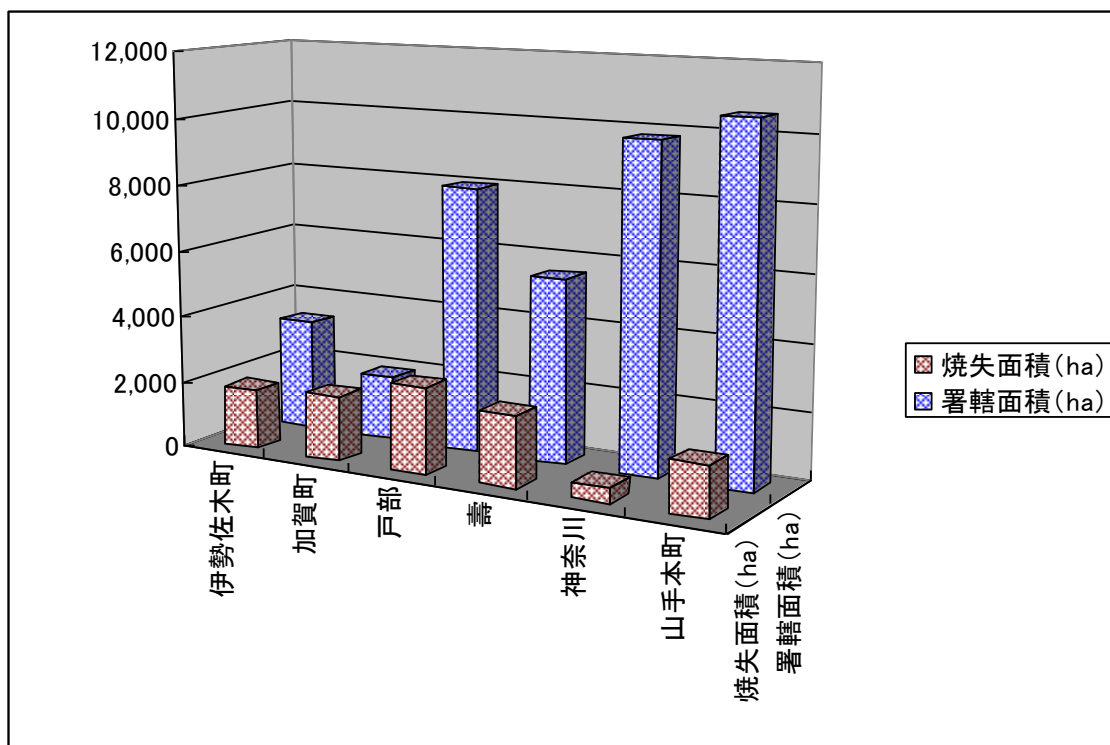


図 4-5 署轄面積と焼失面積の比較

図 4-5・焼失率は加賀町署 100%、次いで伊勢佐木町署 53.89%である。又、戸部署は 1 万人当りの出火件数は少ないが全焼した棟数が多い。神奈川署では、2134 棟の焼失被害を受け、推定棟数から割合を求めると 30.34%の被害である。しかし、焼失面積では 4.47%と最も焼失していない。本論で特定した出火場所を図 4-6・図 4-7 に示す。

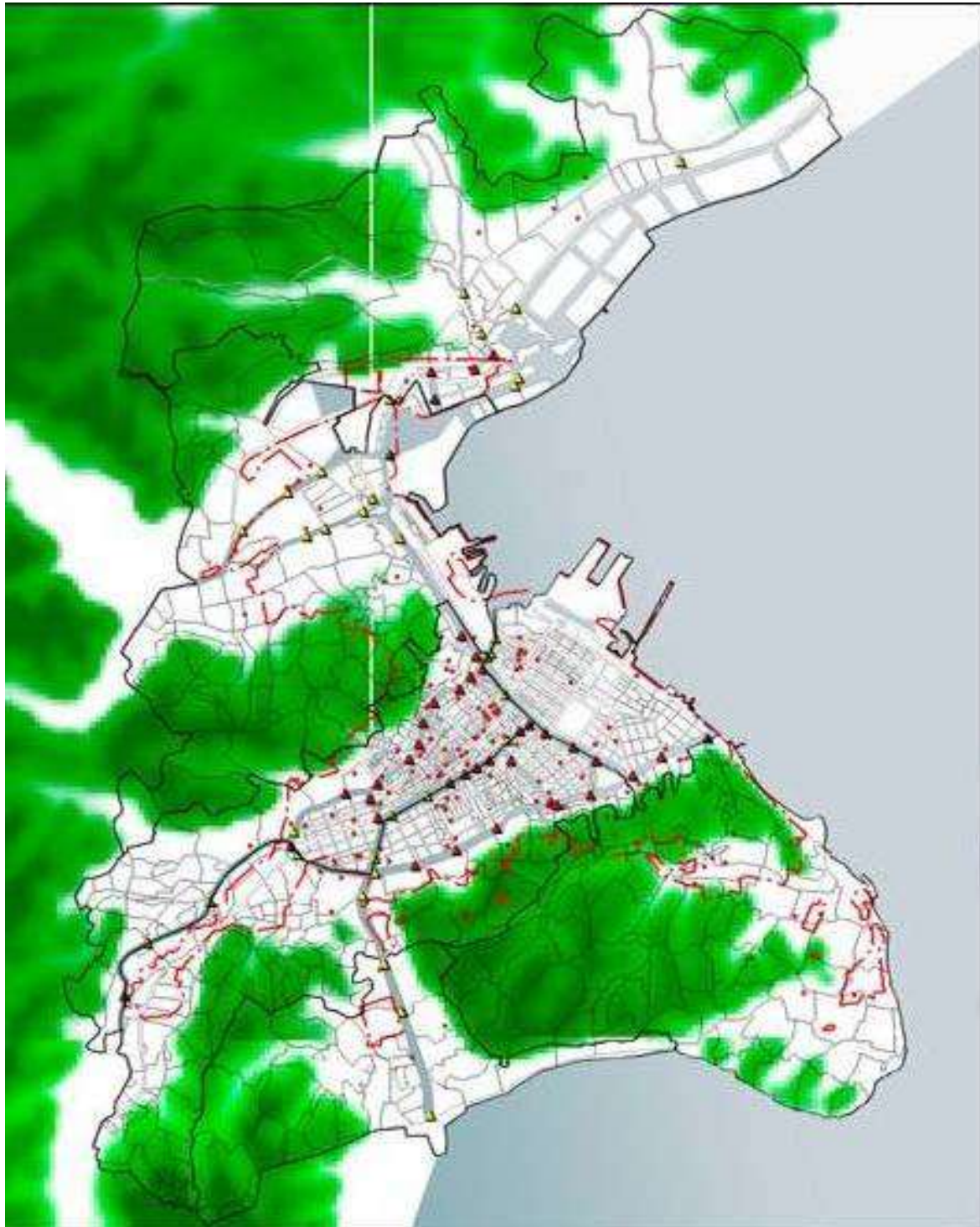


图 4-6 神奈川県警「大正 大震火災誌」出火点

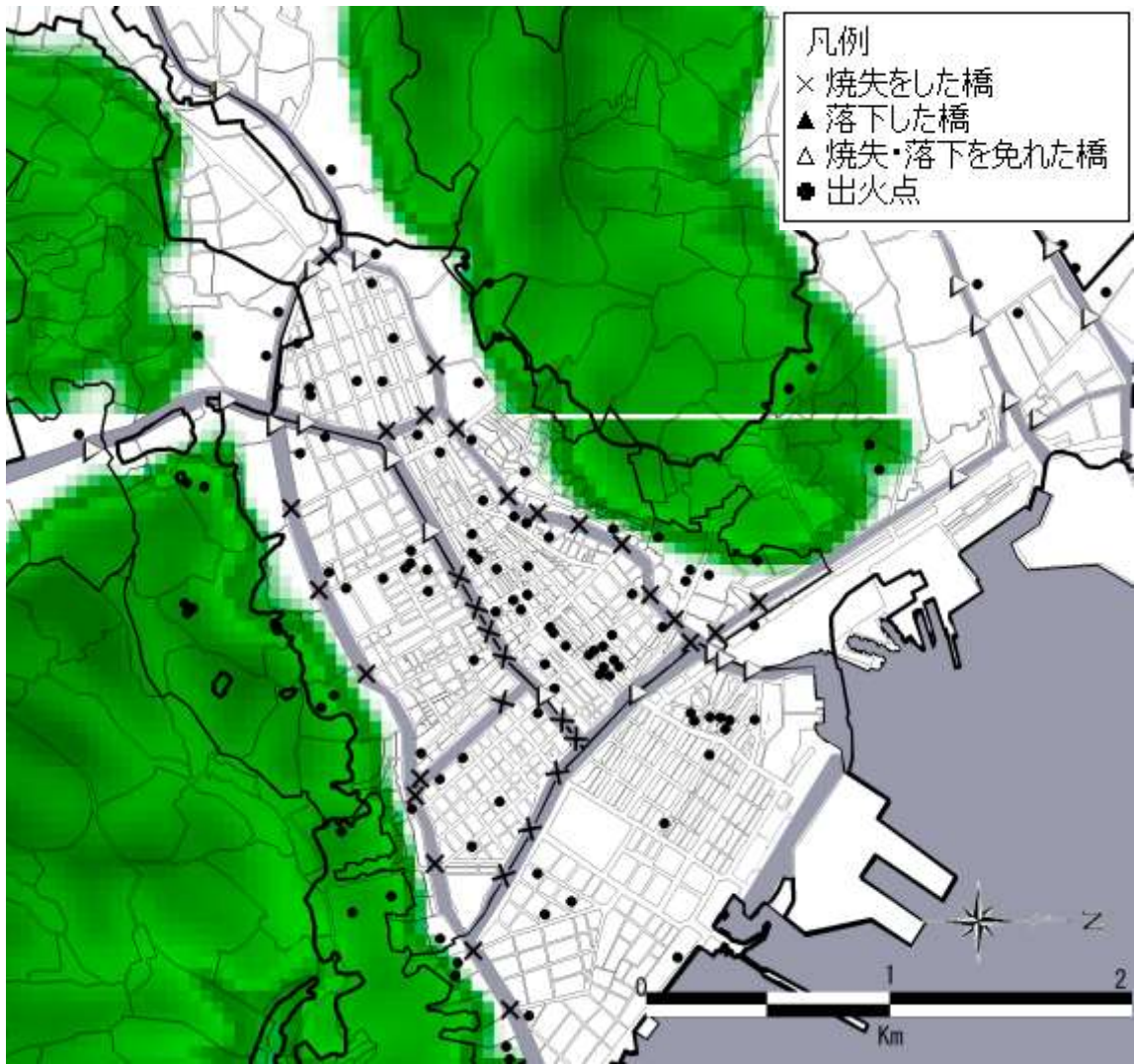


図 4-7 横浜市被害詳細

4.4 火災旋風

神奈川県警察 [大正大震火災誌] より各項ごとにまとめものが以下の通りである。

表 4-6 火災旋風体験記

神奈川町元町
午後3時頃に神奈川町元町付近に旋風が起こり「トタン」板等を高く巻き上げた (川名技手 手記)
神奈川方面に3時から4時ころに竜巻がありトタン」板を高く巻き上げ、バケツをかぶり逃げる (藤原博士 手記)
高島町8丁目
午後3時20分ころ高島町8丁日月見橋付近に旋風が起こり山積したる砂及び、トタン等を巻き上げる。高さは30間 (54.54m) から40間 (72.72m) に達している。
午後4時ころには、高島町五丁目付近に迫り、トタン板を巻き上げ畳等を電柱の高さまで巻き上げた。付近の石油槽所より流失した石油に延焼し、火は高く昇り猛烈を極めた。
午後5時ころ、高島駅付近に迫り、同所に避難した松本信太郎氏によれば、5時ころに旋風が迫り荷車の上に避難していた病人は車から落ち、同氏一家9名は南西に約10間 (18.18m) 吹き飛ばされ、一同無事だった (川名技手 手記)
3時に平戸橋の家から避難し4時ころに高島駅に着いた。着くと間もなく火が降ってき、神奈川町の方面に逃げようとしたが築地橋が落ちていたため逃げれず高島町駅に避難した。
5時ころになってライジングサン石油方面から大きな音がしたと思うと、トタンを高く、巻き上げ、同刻同場所に居た病人は車から転倒し、転倒した車のみ吹き飛ばした (井上書記 手記)
神奈川町宮之町
3時ころには猛烈な旋風のため、トタン等を巻き上げ消防署のポンプ車は、前進することが出来なかった (川名技手 手記)
翁橋付近
松影町4丁目の松村石油店の河岸で旋風が起きる。午後8時から9時ころの間、物を巻き上げながら東方に向かう (瓦久店の若者談、藤原博士 手記)
市役所裏
市役所が焼けている最中に、旋風が夕方に7、8回起こりトタン等を50尺 (15.15m) 位巻き上げた。
夕方、5、6回ほど市役所方面から川に沿って旋風が来た。同時刻にトタン等を20尺～30尺 (6.06m～9.09m) 巻き上げ、尾上町方面に向かった。
旋風は、日暮れから10時ころまでであった。多くは、豊国橋方面から来て正金銀行の方に向かった。150尺 (45.45m) 位トタンや瓦を巻き上げた。
吉田橋付近にて旋風は5時か6時ころトタン板や焼けた木材等を80尺 (24.24m) 巻き上げて関内の方面から伊勢佐木町方面に向
夕方少し前に眞砂町の方面からトタン板等を巻き上げて来た。そして、吉田橋あたりから曲がっていき桜木町方面に向かって行った (川名技手 手記)

桜木町7丁目
午後6時ころに起きた旋風は川岸を沿って進み、花咲町9丁目より南西に折れ掃部山の西側を過ぎ、火焔を巻き上げて戸部3丁目に出て山王山方面に進む（川名技手 手記）
桜木町7丁目横浜駅前
午後6時頃横浜駅付近に旋風起こり、火焔を巻きながら平戸方面に向かい南西に去る（川名技手 手記）
馬車道
夕方ころ、旋風が起きる。初めは港町5丁目に起こり、その後火のあるところへ起こる。伊勢佐木町方面にも起こる。東の方面は不明。後に野毛山にも起こる。火柱が立ち燃えるトタン板等を巻き上げ落とす事から、皆逃げ出す（藤原千尋保談、藤原博士 手記）
吉田橋のところ夕方馬車道の方から旋風が来た。また指路教会の付近からも起きる。共にトタン板を20尺（6.06m）～30尺（9.09m）巻き上げた（井上書記 手記）
桜木町7丁目
午後7時ころ、横浜駅方面に旋風が起こり、最初は「南南東-南南西-西南西-南西」と向かう。同じ経路を辿った旋風がある（表9-4）。桜木町5丁目あたりより更に西に向かい掃部山の東側をかすめて野毛山方面に7時ころに到達し南西に折れて走る。この旋風は共に勢い猛烈で渦巻く火焔に木造住居は爆発的に発火した。宮崎町にある正金倶楽部は、6名の留守番役が窒息死した（川名技手 手記）
桜木町は夜になってから凄惨な旋風にあった。どこから来たか不明（井上書記 手記）
大神宮境内の焼ける時、（夕方）戸部方面（裏手）から旋風が来た。どこから来たか不明（井上書記 手記）
大神宮の裏手で旋風にあった。そのころ十全病院は焼けているころ。方向不明（井上書記 手記）
大神宮境内前にて旋風にあった。4時か5時ころに火の子を吹捲りながら迫ってきた。戸部方面から来た（井上書記 手記）
扇橋壽警察署付近
7時、8時ころ壽小学校方面より旋風が現れ、壽小学校の西側より川を越えて千歳町方面に走った。回数は、10回以上あっていつもトタン板を巻き上げて来た。高さ不明（井上書記 手記）
桜木町駅
8時ころか、12時ころ旋風は吉田橋付近に戻る。燃え落ち死骸があっても旋風は起きる。3箇所同時に起きる場合もあり、たびたび起きる（藤原博士 手記）
長島橋
旋風は、夜半の3時か4時ころに最も強い。日が出る7時までにも。付近両岸にある物をすべて巻き上げ、落す。自分は河の中から見ていた（藤原博士 手記）
豊国橋の上や川に居た人は、旋風を見る（藤原博士 手記）
蓬萊町、鶴の橋の通りは午後3時ころに火災が最も強い。旋風は、6時ころ来て、すべてを巻き上げた。1時間くらいの中に西を通ったり東を通ったりした（藤原博士 手記）
長島橋付近は夜の8時ころにトタンを巻き上げながら来た（藤原博士 手記）

[出典 神奈川県警 大正 大震火災誌]

表4-7 火災旋風発生場所

発生時刻	終息時刻	時間	発生場	終息場所	行程	方角	強さ
1 13時00分			宮川町川岸		150		大
2 13時30分			末吉町3丁目			北北東	中
3 14時00分			桜木町駅前				小
4 15時00分			神奈川町本町		100以上	東北	大
5 15時20分	17時30分	2時間以上	高島町8丁目付近	藍田橋付近	22	南西-南東-南西-西	猛烈
6 15時30分	不明	不明	南太田町富士見耕地				小
7 15時30分	不明	不明	神奈川町宮之町		100以上	東微北	大
8 15時30分	不明	不明	東神奈川駅構内				小
9 16時00分	不明	不明	公園内		200	東微北	中
10 16時00分	不明	不明	地方裁判所		200	北	中
11 16時00分	不明	不明	船渠会社内				小
12 16時00分	不明	不明	横浜橋付近				中
13 17時00分	不明	不明	不老町4丁目(千秋橋付近)				大
14 17時30分	不明	不明	境町(公園北門)脇		200	北北東	中
15 18時00分	不明	不明	翁橋付近		150	北西	猛烈
16 18時00分	不明	不明	市役所裏		500	北西-吉田橋にて北北東	猛烈
17 18時00分	不明	不明	正金銀行西側				小
18 18時00分	18時30分過ぎ	30分以上	桜木町7丁目	伊勢崎町4丁目付近	1100	南南東-南南西-西	猛烈
19 18時00分	18時30分過ぎ	30分以上	桜木町7丁目(横浜駅前)	平戸橋付近	600	西	猛烈
20 18時30分	不明	不明	馬車通		200	西-河上にて北	中
21 19時前後	不明	不明	石川中町		500	北微西-19時後	中
22 19時00分	19時30分	30分以上	桜木町7丁目	野毛山大神宮付近	1300	南南東-南南西-南西	猛烈
23 19時30分	不明	不明	翁橋警察署付近		150	南	大
24 19時30分	不明	不明	吉濱橋南東付近				小
25 19時30分	不明	不明	山吹橋		200	南南西	中
26 20時00分	不明	不明	桜木町駅				大
27 20時30分	不明	不明	三吉町4丁目				中
28 20時30分	不明	不明	長島橋				中
29 20時30分	21時00分過ぎ	不明	千秋橋	権三橋付近	500	北北東-北北東	大
30 20時40分			中村町揮發物貯庫				大

[出典 神奈川県警 大正 大震災火災誌]

表 4-7 より、火災旋風の強さの表記の猛烈・強・中・小を 4 段階にレベル別
 けをして発生の時間的推移を考察する。まとめたものを表 4-8 として示す。強
 さの平均は、2.47 であった。中の強さのものが多かったということになる。図
 4-8 で、火災旋風の傾向を示す。

表 4-8 火災旋風の時間的推移

発生時刻	強さ	累積割合	個数
13時00分	3	3%	1
13時30分	2	7%	2
14時00分	1	10%	3
15時00分	3	14%	4
15時20分	4	17%	5
15時30分	1	28%	8
15時30分	3		
15時30分	1		
16時00分	2	41%	12
16時00分	2		
16時00分	1		
16時00分	2		
17時00分	3	45%	13
17時30分	2	48%	14
18時00分	4	66%	19
18時00分	4		
18時00分	1		
18時00分	4		
18時00分	4		
18時30分	2	69%	20
19時前後	2	72%	21
19時00分	4	83%	24
19時30分	3	86%	25
19時30分	1		
19時30分	2		
20時00分	3		
20時30分	2	97%	28
20時30分	2		
20時30分	3		
20時40分	3	100%	29

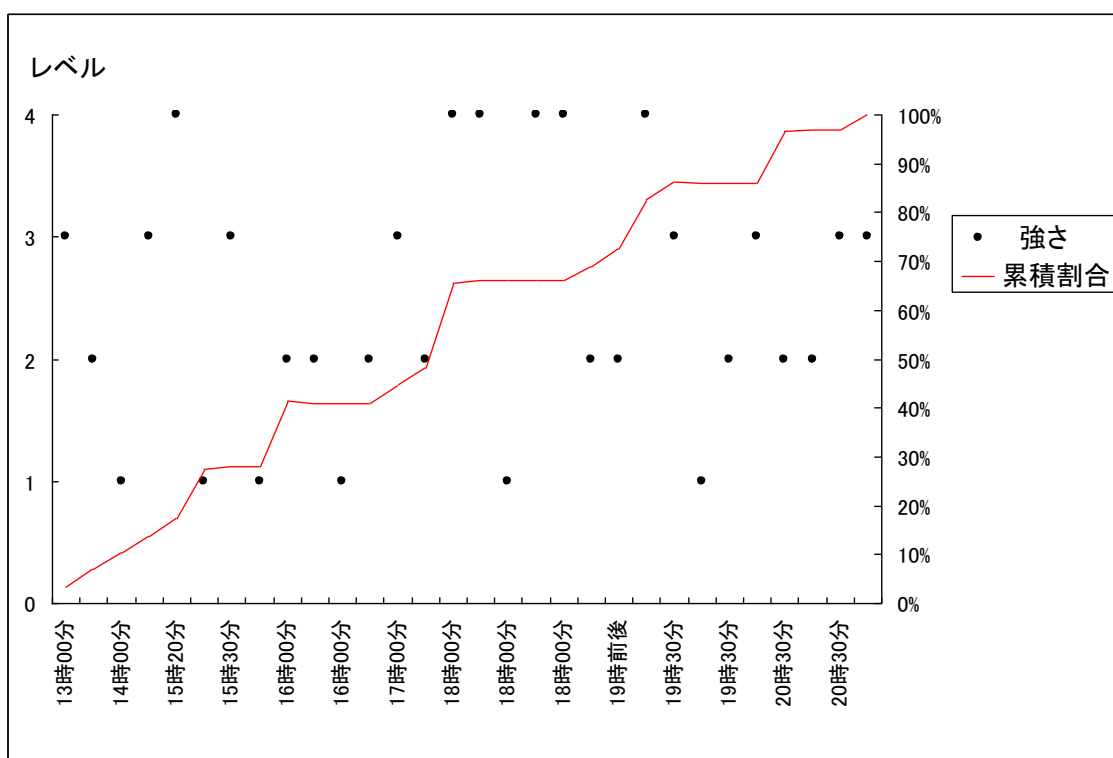


図 4-7 火災旋風の時間的推移

累積割合で見ると 18 時 00 分の時刻で旋風は 50.00%となっている。しかし、最大の強さに区分された旋風が、18 時以降でみると 27.77%となっている。全体では、17.82%となっている。また、18 時 00 分を境に火災旋風の強いレベルのものが多く発生している。このことから、延焼は 18 時 00 分ころから横浜市全体が大火にあった状況と推測できる。また手記に記されていたとおり、被災者を苦しめたと推測できる。

四章火災被害

参考文献

1. 「大正震災史」 内務省社会局編集 大正 15 年 2 月 28 日発行
2. 「横浜市震災誌 1～3 冊」 横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行
3. 「大正大震火災史」 神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行
4. 「第十九回統計書」 横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行
5. 「大正調査番地入横浜全図」 有隣堂発行 大正 9 年 8 月 10 日発行
6. 「1923 関東大震災報告書 第 1 篇」 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2006 平成 18 年(2006)7 月発行
7. 「横浜火災図 大正 12 年 9 月 1 日」 神奈川県測候所調査 大正 12 年(1923)10 月発行

出典

- 表 4-1 「大正大震火災史」 神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 大正 12 年 9 月 1 日 震災火災発火場所新調表 P1100～P1115
- 表 4-6 「大正大震火災史」 神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 火災旋風体験記 P943～P955
- 表 4-6 「大正大震火災史」 神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行 火災旋風発生表 P941～P942

第 5 章人的被害

5.1 本章の目的

本章では主に以下の文献(表 5-1)を用い、出来得る限り小さい単位での人的被害を調査し、これを基礎資料とすることを目的とする。また、現場中心の警察署調べと国勢調査に倣った住所本位の統計を比較することにより、今後の課題を明確にする。

表 5-1 文献

文献番号	文献	編纂	調査区分	発行年
①	大正震災史	内務省	市	大正15年 (1926)
②	大正大震火災誌	神奈川県警察部	警察署 (6所轄)	大正15年 (1926)
③	横浜震災誌	横浜市役所	町 (120町)	大正15年 (1926)
④	横浜復興録	小池徳久		大正14年 (1925)

5.2 人的被害概要

(1) 大正震災誌(文献①)

9月2日 大災害に対する応急措置として内閣総理大臣を総裁とし、臨時震災救済事務局を東京市に設置し、大震災の応急処置を講じる。

4日 // 横浜市に神奈川支部設置。

被害報告は文献②の警察署調べのものと文献③の市役所調べのもの両者を採用している。

以下、警察署6署ごとの被害報告の記述をまとめた。(大正震災誌 上 p.p.576~603)

◆ 伊勢佐木町署(38ヶ町)

災後 死者数約 12,153 人、傷者約 20,449 人、行方不明者数約 2,100 人

全焼戸数 14,695 戸、全潰戸数 481 戸、橋梁の墜落焼失 19 本

多くの死者を出した場所 黄金町 3 丁目末吉橋附近 200 人以上

鉄道省電車大船延長線軌道敷地内 200 人以上

梅ヶ枝町東本願寺別院構内 350 人以上焼死

末吉橋附近の河中とに無数の溺死

◆ 加賀町署(13ヶ町)

災前 戸数約 5,746 戸、人口約 26,625 人(内、外国人約 5,544 人)

災後 在留支那人 4,000 人中半数の死者

◆ 壽署(27ヶ町)

災前 戸数 25,958 戸、人口 114,504 人

災後 火災町数 24ヶ町

焼失戸数 17,478 戸、全潰戸数 1,496 戸、計 18,984 戸

圧死者数 851 人、焼死者数 770 人、計 1,621 人

行方不明者数 129 人

橋梁 40 本中焼失及び破壊 13 本、半壊 10 本

災前娼鼓 1,027 人中 144 人の死者、貸座敷雇人 687 人中 105 人 (眞金町・永樂町)

根岸町横濱刑務所 構内建物大小 81 棟中 28 棟倒潰、囚人 1,134 人中 53 人の圧死

震災の激しかった町 吉濱・松影・壽・扇・翁・不老・萬代・長者・富士見・山吹・眞金・永樂・山田・千歳・三吉の 15ヶ町並びに南吉田の一带

◆ 戸部署(市部 28ヶ町)

災前 戸数 25,129 戸、人口 105,125 人

災後 全焼戸数 15,244 戸、全潰戸数 1,939 戸、

死者 1,135 人

最も多く倒潰家屋があった町 橘・緑・入船・内田・長住・櫻木・花咲・
戸部・西戸部の一部・平沼・岡野・高島・
表高島・裏高島の各町

28 ヶ町中火災を免れた町 西戸部の約半分・南太田の大部分・久保・淺
間・青木の半分・岡野町

多くの死者を出した場所 鶴越 約 60 人焼死

市会議員加藤重利宅内 約 70 人

南太田町天神坂 285 人焼死

◆ 山手本町署

災前 一般に地盤が堅固だったため被害は極めて軽微であった。洋館大建築物が多かった結果第一震に於いて殆ど倒潰したが、外国人の多くは東京等の店舗に出勤して不在中であったのと、外国人の習慣として例年夏季になると箱根・日光・軽井沢等に避暑旅行に出ていた為、被害が大きい割合に外国人死傷が少なかった。

災後 山手町 焼失戸数 636 戸

諏訪・上野・千代崎の全部、北方・本牧・元町・根岸の一部 少時の間に 773 戸焼失

被害の小さい町 根岸町海岸加曾方面・字相澤・字江吾田・柏葉、本牧町大澤谷戸・大鳥谷戸、山元町

◆ 神奈川署

災前 戸数 14,907 戸(市部 13,160 戸)、

災後 全焼 3,438 戸、半焼 23 戸

全潰 1,078 戸、半潰 2,096 戸 計 3,174 戸

幸いに多数の死者を見なかった

以上 6 署をまとめたものを表 5-2-1 に示す。

表 5-2-1

警察署	災前		災後					
	戸数	人口	死者	傷者	行方不明者	全焼(戸)	全壊(戸)	橋梁の墜落焼失
伊勢佐木町署			12153	20449	2100	14695	481	19
加賀町署	5746	26625 (内外国人5544)	支那人4000人 中半数死亡	-	-	-	-	-
壽署	25958	114504	1621(圧死851・ 焼死770)	-	129	-	-	40中焼失・破壊 13、半壊10
戸部署	25129	105125	1135	-	-	15244	1939	-
山手本町署	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川署	14907	-	-	-	-	3438	1078	-

表 5-2-2

	震災前 人口	死者	行方不明者	計
横浜市	442600	21384	1951	23335

表 5-2-2 は文献①の横浜市全体の人的被害である。震災前人口は正確な調査がないため不明であるが、大正 9 年 10 月 1 日現在第一回国勢調査の結果による人口を基礎とし、明治 41 年～大正 7 年の公募調査の結果の人口より一年平均幾何的增加率により 9 月 1 日現在人口を算した。被害については大正 12 年 11 月 15 日を以って全国一斉に震災人口調査をした結果である。

(2) 大正大震火災誌(文献②)

当時横浜市は伊勢佐木町署・加賀署・壽署・戸部署・山手本町署・神奈川署・警察 6 署の所轄に分かれていた(水上署を含めると 7 署)。警察署所轄ごとの被害報告署である。但し、被害は文献③とは異なり、現場主義で書かれている。この文献では人的被害について警察署別のものはなく、表 5-2-3 のような横浜市の全体被害のみ記載があった。

表 5-2-3

	震災当日現在人口	大正十二年十一月十五日現在	死者	行方不明者
横浜市(人)	435890	313402	21384	1951

表 5-2-2 と表 5-2-3 の死者・行方不明者の数値が同じため、文献①は文献②の警察署のものを採用したとわかる。

(3) 横浜震災誌(文献③)

横浜市全 120 町ごとの町丁別被害報告の記述。死者は死亡場所ではなく、町の住民の死者数である。本論に使用した文献の中で最小単位での被害記述である。後述の 5.3 町丁別人的被害に於いて言及する。

(4) 横浜復興録

“人命の損害：横濱市に於ける人命の損害は縣警察部、市役所等にて各方面に亘り、極力調査されたのであったが、其の損害の大なるだけに結果の一致しないのは止むを得ぬことではあるが、震災直後の混乱裡に於て各警察署が九月二十日現在を以て調査せる結果は次の如きであった”（横浜復興録 p.155 より引用）

表 5-2-4 横浜市罹災人口實数表(大正 9 年 9 月 20 日現在)

署管別	震災前ノ人口(人)	罹災人口(人)			死者 行方不明者 合計
		死 者	傷 者	行 方 不 明	
伊勢佐木町署管内	74,655	12,153	20,449	2,100	14,253
加賀町署管内	26,621	7,060	10,380	706	7,766
壽署管内	114,504	2,072	3,612		2,072
戸部署管内	105,125	1,007	2,567	301	1,308
山手本町署管内	56,887	631	1,040		631
神奈川署管内	54,722	207	3,105	76	283
横濱水上署管内	6,240	309	900		309
計	438,754	23,439		3,183	26,622

伊勢佐木町署の死者・傷者・行方不明者の数値は表 5-2-4 と表 5-2-1 で一致したが、他の署に於いては一致しなかった。表 5-2-4 は震災の 20 日後の混乱中に発表されたもので、表 5-2-1 はその後の調査によって出した数値である伊勢佐木町署のみ、9 月 20 日発表のものをそのまま採用したとわかる。

5.3 町丁別被害

人的被害については文献③の横浜震災誌を用いて町丁別にキーワードとして表 5-3-1 の集計例のようにまとめた。また、震災当時の町丁別の人口が不明のため、大正 9 年(1920)現在の国勢調査による人口・世帯数を震災当時のものとする。文献③に於ける死者数は死亡場所ではなく、町民の死者数である。また、出火件数は文献②により住所が明らかにされているため町丁別被害に振り分けた。

但し、震災当時は横浜全 120 ヶ町であるが、大正 9 年の国勢調査では全 119 ヶ町であり、文献③に於いても残り 1 ヶ町についての被害の記述が無かったので、119 ヶ町についての被害をまとめたものを巻末の資料 1 に示す。

表 5-3-1 町丁別被害集計例

国勢調査 (1920年10月1日現在)			文献③							文献②		
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	出火件数	
梅ヶ枝町	112	536			町民88, 通行人200	一家全滅45戸、家屋殆ど全潰				本願寺別院廣庭で焼死者350餘人	1	
蓬萊町	一丁目	141	207	1000餘	焼死20餘+17, 溺死者76, 庄死者50, 計163	土蔵一つ残り、全部倒潰	大岡川 吉田川	鶴ノ橋: 残存 豊国橋: 墜落		埋立地、地盤弱	2	
	二丁目	86										449
	三丁目	56										255
	四丁目	12										57
	計	295										1415
山手町	1428	5179	1617 (外人721)	5372 (外人1688)	194	焼失家屋663			丘陵地で地盤は堅固だったが建物倒潰多かつた	5		
山下町	2028	9330		支那人約5000人	約2400(支那人2000人)、動人が多く住民の死者数と他町からの動人の死者数と分けて調べることはできない	倒潰し焼失433戸	堀川、大岡川	谷戸橋: 破壊、前田橋、西之橋、花園橋: 焼失、吉濱橋: 陥落	グランドホテルにて約90名の死者、オリエンタルホテルにて約50名の死者、	5		

山下町の死者が一番多く 2400 人、外国人死者を含めると 4400 人で町民の 4 人に 1 人は死亡しているということになる。この町は現在中華街と呼ばれる場所で当時も中国人が多く住んでいた。安全な避難場所である横浜公園が近いにも関わらずこの町の被害が大きかったのは、“其の建物は脆弱で、其の道路は狭隘だったため一度この震災に遭うと逃れる遑もなく圧死し或は焼死して〜” (文

献① P. 580 より引用) という記述から分かるように、町の構造自体が震災に対して弱かったとわかる。

5.4 警察署別死者

(1) 警察署別集計

大正 15 年発行の統計書の町丁別の警察署所轄区域を基に表 5-3-1 を警察署別に振り分けた(資料 2)。但し、大正 15 年は八幡橋文署という警察署があるのだが、これは震災後にできた所轄のため、八幡橋分署の町を山手本町署に振り分けた。この死者数を警察署別に集計したものを表 5-4-1 に示す。

町丁別死者数の扱いは以下のとおりである。

【約 70→70、200 余名→200、200 を超える→200、160～200→200、数名→3、数十名→30、多数→0】

表 5-4-1 警察署別集計

警察署	大正9年国勢調査		文献③		文献②
	世帯数 (戸)	人口 (人)	死者数 (人)	行方不明者 (人)	出火点 (件)
伊勢佐木町	16,872	74,778	3,981	201	57
加賀町	6,057	32,024	4,798	10	19
壽	20,900	89,702	1,977	—	34
戸部	21,393	93,739	847	—	16
山手本町	15,605	65,844	653	268	24
神奈川	11,923	55,711	286	7	12
計	92,750	411,798	12,542	486	162

(2) 多数死者があった場所

文献③の記述は死亡場所ではなく町民の死者数であるが、多数死者を出した場所に於いては、焼死などが原因でどこの町民の死者なのか特定困難であり、表 6.3.1 の町丁別の死者数に加算されていないと考えられる。よって文献③の多数死者を出した場所についての記述を表 6-4-2 のようにまとめた。

表 5-4-2 多数死者を出した場所

	場所	死者(表記)	死者数
伊勢佐木町署	P36 惨状を極めし主なる地帯		
	吉田橋附近	助かったものは少数、大多数焼死	不明
	梅ヶ枝町	本願寺別院の広庭に焼死者350余名	350
	末吉橋際省電の敷地	末吉橋際よりその附近に亘って災後に400数十名	430
	天神坂	300以上の死体	300
	計		1080
加賀署	P73 関内西北部		
	正金銀行表門堀内	数十～百余体の死体	100
	港内沿岸・吉田橋附近	溺死多数	不明
	横濱地方裁判所	百余名の死者	100
	本町一丁目横濱郵便局	90人	90
	相生町五丁目川崎銀行附近	80人	80
	グランドホテル	約90名の死者	90
	その他計		440
計		900	
壽署	P108		
	吉濱町石炭置場	約百名の焼死体	100
	計		100
戸部署	P42 惨状を極めた場所		
	西戸部町御所山俗称鷓越の険峻な九十九折の坂上	約70名	70
	西戸部町御所山俗称鷓越の険峻な九十九折の坂中	約60名	60
	計		130

(3) 警察署別死者数比較

文献④の9月20日に警察署別に発表された死者数と、(1)・(2)を集計したものを表 5-4-3 のように比較する。更に町丁別死者数に外国人死者は含まれて居ないため、山下町の中国人死者 2000 人を加賀町署に加算する。更にこの表を図 1.1.1 で表す。

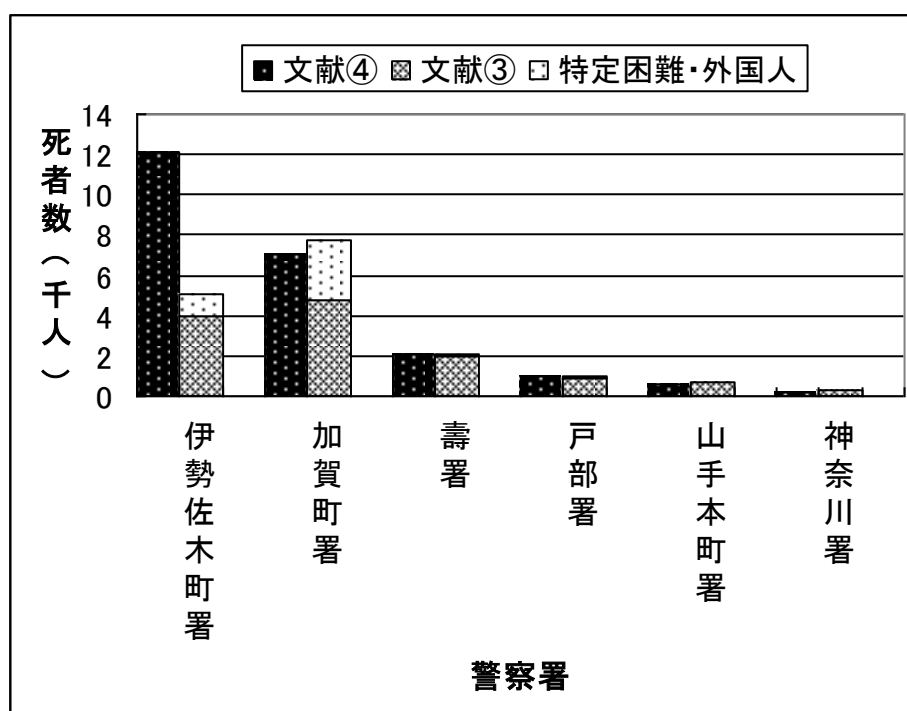
表 5-4-3 と図 5-1-1 より加賀・壽・戸部・山手本町・神奈川に於いて死者数が近い値となった。加賀町署に於いては他町からの勤め人が多く、特定困難死者数の 900 人は他町の住民が多く含まれていると考えられ、約 600 人の違いが出たと推定できる。

伊勢佐木町署に於いては 7000 人以上の死者数の違いが出てしまった。これは

伊勢佐木町署の被害が甚大であり、“死者数多数”などの表記がされている町が多く、死者数を0として扱っているためである。伊勢佐木町署管内で、文献③で死者数記載無しの伊勢佐木町・姿見町・松ヶ枝町・浪花町・櫻木町について更に詳しく調査する必要がある。

表 5-4-3 死者数比較

警察署	文献③		特定困難 死者数	外国人 死者数	死者数 計	文献④ 死者数
	死者数	行方不明者				
伊勢佐木町	3,981	201	1,080	-	5,061	12,153
加賀町	4,798	10	900	2,000	7,698	7,060
壽	1,977	-	100	-	2,077	2072
戸部	847	-	130	-	977	1007
山手本町	653	268	-	-	653	631
神奈川	286	7	-	-	286	207
計	12,542	496	2,210	2000	16,752	23,130



5.5 地図による考察

(1) 町丁区界作成

MapInfo Professional 7.8 SCP (2) を用いて大正 9 年発行の“大正調査番地

入横浜全図”を基に大正9年現在の国勢調査の町名に倣って町丁区界を作成。

(2) 死者率

人口100人当りの死者数を下の式のように定義し、町別死者率を地図上で表す(図6.5.1)。

$$\text{死者率} = \frac{\text{死者数}}{\text{人口}} \times 100 (\%)$$

(3) 考察

死者率最も高いのは山下町で25%以上であった。また20~25%の5町は境町・北仲通・太田町・本町・辨天通であり、死者率20%以上の6町は全て加賀町署管内であることが分かった。

また、図の区界は町丁字の境界だが死者数は町までの単位で地図上に落としたため、戸部・山手・神奈川署に於いては1町当りの面積が大きいいため、図のような0~5%のあまり差がない結果となった。

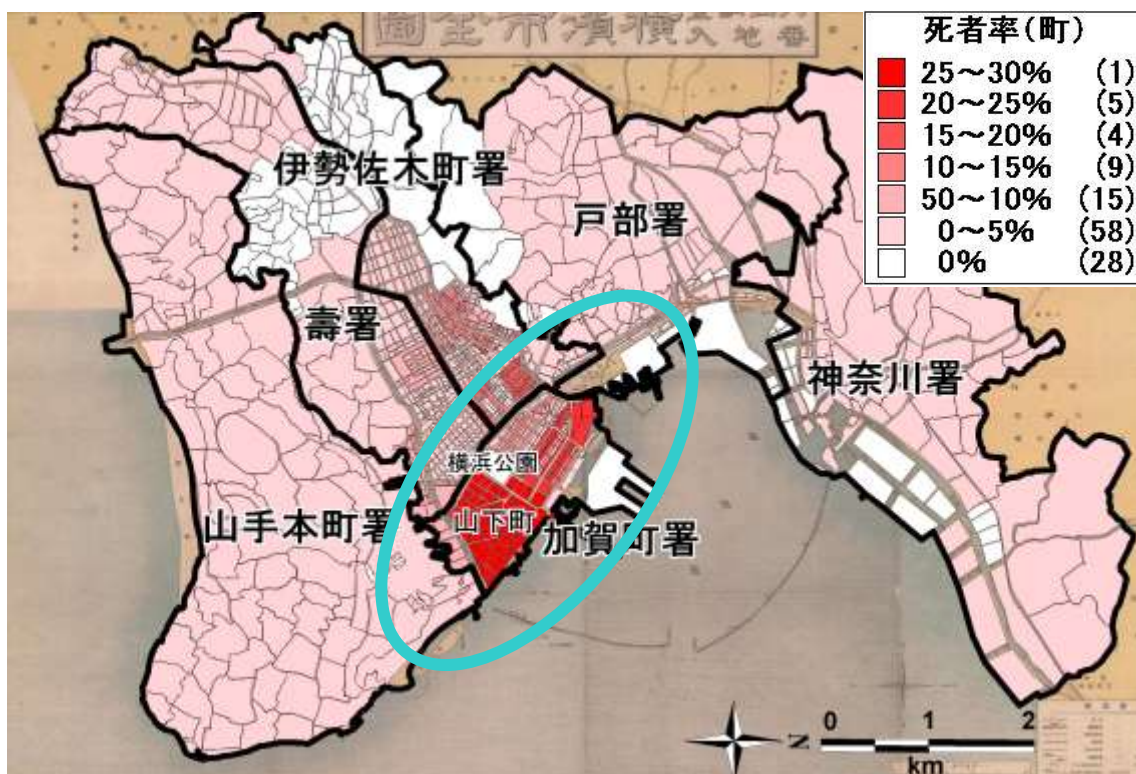


図 5-5-1 町別死者率

次に中心地である加賀署と伊勢佐木町署の一部を詳しく見ていく。図 5-5-1 の青い丸の範囲内を拡大したものを図 1-5-2 に示す。

図 5-5-2 で死者数記載なしの町は白くなっているのだが、オレンジの丸(□)は、伊勢佐木町、姿見町、松ヶ枝町で死者数記載なしの町だが、この 3 町は死者率 15~20%の町に囲まれているため、同じくらいの死者率だったのではないかと推測できる。また、緑の丸(□)の浪花町も 10~15%の死者率で囲まれているため、同程度の死者率だったと推測できる。

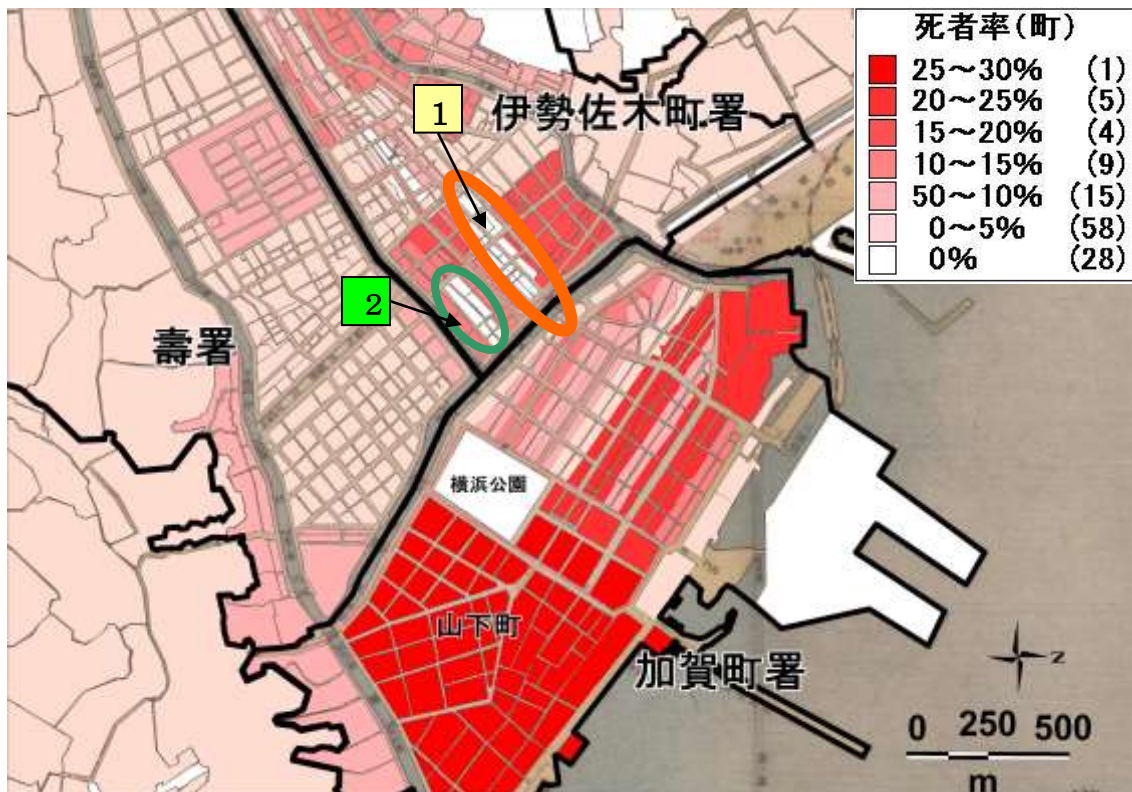


図 5-5-2 中心部の死者率

警察署別に死者数を比較すると伊勢佐木町署のみが死者数約 7000 人の違いが出た。伊勢佐木町署管内の死者数記載なしの伊勢佐木町・櫻木町・松ヶ枝町・浪花町・姿見町・久方町について更に詳しく調べる必要がある。

5.7 表

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (1)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)								
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
B	本町	一丁目	27	168	155	950	247	約8割倒壊潰		辨天橋	縣廳 横濱郵便局 生絲検査所 安田銀行支店など	他町からの通勤者数百人
		二丁目	15	97								
		三丁目	15	95								
		四丁目	17	198								
		五丁目	2	9								
		計	85	557								
B	元濱町	一丁目	8	61			約100	約8分通り倒潰/石川組以外全て焼失			会社・商店多く勤め人多数	
		二丁目	26	136								
		三丁目	37	201								
		四丁目	57	331								
		計	128	729								
B	海岸通	一丁目	8	28	15	他多数死者	大部分倒潰			日本郵船会社支店 税関一部 神奈川県港務部 神奈川県	会社・商店多く勤め人多数	
		二丁目	2	10								
		三丁目	3	14								
		四丁目	26	143								
		五丁目	24	193								
		計	63	388								
B	北仲通	一丁目	9	58			200を超える	約8分通り倒潰/一戸も残さず焼失		横濱地方・區裁判所構内 航路標識管理所 絹業試験所 羽二重検査所など	開通社 加藤商店 サムライ商会 女子青年会 寄宿舍 紀ノ国屋旅館	裁判所 100餘人の死者
		二丁目	15	112								
		三丁目	76	389								
		四丁目	30	190								
		五丁目	3	8								
		六丁目	27	93								
計	160	850										
B	港町	一丁目	26	115			6 他死者多数		吉田橋		市役所、魚市場など	
		二丁目	30	180								
		三丁目	8	64								
		四丁目	6	31								
		五丁目	29	150								
		六丁目	4	22								
計	103	562										
B	境町	一丁目	29	200	53	300	87					
		二丁目	22	160								
		計	51	360								
B	南仲通	一丁目	14	92	128	573	60	大抵倒潰			開港記念會館、正金銀行、川崎銀行残存	この街へ勤め人として来ていた者、かなり死者あり
		二丁目	17	148								
		三丁目	24	164								
		四丁目	39	203								
		五丁目	12	68								
		計	106	675								
B	辨天通	一丁目	20	223	166	1500	230餘其他通勤者の遭難多かつた	住家、商店全て倒潰			川崎貯蓄銀支店 正金銀行 原合名會社及小野商店の倉庫は倒壊	埋地が少ない
		二丁目	18	145								
		三丁目	30	237								
		四丁目	53	308								
		五丁目	12	67								
		六丁目	24	119								
計	157	1099										

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (2)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)					横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
B	太田町	一丁目	47	323	250	1000	369	7分通り倒潰			十五銀行 小林貿易 店 岩崎家 金子家	
		二丁目	43	266							辛酉銀行 日米生絲 會社	
		三丁目	17	113							原合名會 社倉庫 關洋服店	
		四丁目	43	369							金森時計 店 大川印刷 所	
		五丁目	52	316							堀江肥料 店 西洋料理 日盛樓	
		六丁目	43	238							讚岐屋旅 館 海老塚給 水店	
		計	245	1625								
B	相生町	一丁目	48	296	306	1500	16+一家 全滅数戸 (1829/29 6*3戸 =18) 計 34	一棟を残 し全部倒 潰				
		二丁目	43	275								
		三丁目	49	364								
		四丁目	46	269								
		五丁目	67	338								
		六丁目	43	287								
		計	296	1829								
B	住吉町	一丁目	45	250	375	1800	150~ 200	8分通り 倒潰		大江橋		
		二丁目	52	340								
		三丁目	69	427								
		四丁目	82	449								
		五丁目	76	483								
		六丁目	72	443								
		計	396	2392								
B	常磐町	一丁目	35	195	322	1400	約100(主 に四・五 丁目)					
		二丁目	104	567								
		三丁目	82	406								
		四丁目	79	354								
		五丁目	30	182								
		計	330	1704								
B	尾上町	一丁目	45	284	347	1782	居住民 274	全部倒潰		大江橋		
		二丁目	100	509								
		三丁目	55	333								
		四丁目	34	190								
		五丁目	58	443								
		六丁目	69	423								
		計	361	2182								
B	眞砂町	一丁目	55	388	205		町内73	7分通り 倒潰				
		二丁目	68	368								
		三丁目	51	262								
		四丁目	27	149								
		計	201	1167								

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (3)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)						
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
B	山下町	2028	9330			約2400 (支那人 2000人)、 勤人が多 く住民の 死者数と 他町から の勤人の 死者数と 分けて調 べること はできな	倒潰し焼 失433戸	堀川、大 岡川	谷戸橋: 破壊 前田橋・ 西之橋・ 花園橋: 焼失 吉濱橋: 陥落	グラント ホテルに て約90名 の死者、 オリエン タルホテ ルにて約 50名の 死者、
B	新港町	7	13							
BE	元町	一丁目	504	2218	1218	約6000	町背後 の断崖の 到る所崩 壊し崖下 の数多の 家屋埋め	堀川	山下橋: 僅かな損 傷、谷戸 橋、前田 橋、西ノ 橋:大破	
		二丁目	167	908						
		三丁目	133	651						
		四丁目	160	816						
		五丁目	300	1402						
		計	1264	5995						
D	石川町	一丁目	129	729	1973	450(一 ～四丁目 焼死溺死 者多く、 五六七 丁目圧 死者多 い)	石川仲町 一～五町 目崖崩れ を起こし 民家20 餘戸生埋 め18名/ 七丁目に 僅か数十 個残した だけ全て 焼き尽く された/石 川町及石 川仲町合 わせて一	中村川	石川小学 校:残存、 鶴屋呉服 店、諏訪 神社、妙 法堂:焼 失し死者 多数	石川町は 商店多 く、石川 仲町には 通勤者及 労働者の 住宅多い /最初の 揺れで約 2分通り 全潰、約 6分通り は半潰/ 全地域 悉く焼失
		二丁目	20	98						
		三丁目	43	200						
		四丁目	53	270						
		五丁目	25	141						
		六丁目	61	287						
		七丁目	32	147						
		計	363	1872						
D	石川仲町	一丁目	454	1829						
		二丁目	119	434						
		三丁目	241	911						
		四丁目	344	1451						
		五丁目	218	881						
		六丁目	166	696						
		七丁目	150	698						
計	1692	6900								
E	山手町	1428	5179	1617(外 人721)	5372(外 人1688)	194	焼失家屋 663			丘陵地で 地盤は堅 固だったが 建物倒潰 多かった
A	吉田町	一丁目	83	568					柳橋、都 橋:焼失	
		二丁目	87	453						
		計	170	1021						
A	柳町	12	64							
A	福富町	一丁目	188	1000	700	死者600、 行方不明 200餘	8分通り 倒潰、一 家全滅 30/町中			
		二丁目	281	1251						
		三丁目	339	1630						
		計	808	3881						

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (4)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
D		一丁目	163	805	220	100(100)	10			車橋、扇橋、土橋	道路の幅広く死者少ない
		二丁目	123	542	112	560	8				
		三丁目	110	507	200	800	6(行方不明10)			のため火が遅くひ	
		四丁目	129	647	140	530	72			千秋橋:大破	
A	長者町	五丁目	131	680							
		六丁目	50	249	50		圧死者たくさん+5	全部倒潰			
		七丁目	41	252			死者8+その他数名				
		八丁目	291	1382			圧死15,焼死10 その他焼死者多数				
		計	355	1785		1200餘	135				
A	姿見町	一丁目	63	373							
		二丁目	20	162	70	400	焼死多数				
		計	83	535							
A	若竹町	計	53	295			300	40			
A	梅ヶ枝町	計	112	536						本願寺別院廣庭で焼死者350餘人	
A	木伊勢町	一丁目	70	502							
		二丁目	36	374							
		計	106	876							
A	蓬萊町	一丁目	141	654	207	1000餘	焼死20餘+17, 溺死者76, 圧死者50, 計163	土蔵一つ残り、全部倒潰	大岡川、吉田川	鶴ノ橋: 残り、豊国橋: 墜落	埋立地、地盤弱
		二丁目	86	449							
		三丁目	56	255							
		四丁目	12	57							
		計	295	1415							
A	浪花町	計	16	67							
A	松ヶ枝町	計	86	558							
A	羽衣町	一丁目	266	1209			125	殆ど倒潰			
		二丁目	182	902		500	90	4戸残存したがその後焼失			
		計	448	2111							
A	若葉町	一丁目	92	401			圧死者約30				
		二丁目	142	628							
		三丁目	103	461							
		計	337	1490							
A	賑町	一丁目	66	449			約70	家屋約7分通り倒潰、半潰	新吉田川、大岡川		
		二丁目	150	751			他劇場活動館に於				
		計	216	1200							
A	末吉町	一丁目	330	1389			旭橋より天神坂までの焼死者118,町内での死者14.5名、計133				
		二丁目	462	1823	420		230 避難先にて400 計630	全く破壊			
		三丁目	279	1120			主なる圧死焼死13				
		四丁目	177	700			その他一家全滅十				
		五丁目	140	605			数戸(52)				
		六丁目	141	592							
		七丁目	164	595							
		計	1693	6824							

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (5)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
A	長島町	一丁目	91	473			114				
		二丁目	89	458							
		三丁目	132	604							
		四丁目	76	320							
		五丁目	68	256							
		六丁目	52	248							
		七丁目	12	56							
		計	520	2415							
A	吉岡町	一丁目	173	767	450	2500	150	倒潰家屋 400戸			
		二丁目	96	431							
		三丁目	131	533							
		四丁目	8	61							
		五丁目	38	153							
		六丁目	23	89							
		七丁目	8	27							
		計	477	2061							
A	久方町	一丁目	110	634	65	400	圧死者多数	多数家屋 倒潰			大建物なし
		二丁目	73	327							
		計	183	961							
A	雲井町	一丁目	138	558	204	640	30	全町は火の 海と化す		山吹橋、 長島橋、 武蔵橋:	
		二丁目	110	422							
		計	248	980							
A	足曳町	一丁目	207	806	178	760餘	焼死41	23戸を 残し殆ど 全部倒潰			
		二丁目	112	536							
		計	319	1342							
A	駿河町	一丁目	56	217	100	500	死者約50	8分通り 倒潰 全町残ら ず焼失		武蔵橋、 横濱橋: 大破	
		二丁目	13	75							
		三丁目	12	66							
		計	81	358							
D	山吹町	一丁目	89	372	218		町内24、 町外13	表8分裏4 分倒潰		武蔵橋: 破壊の上 焼失、山	
		二丁目	140	607							
		計	229	979							
D	富士見町	一丁目	178	736	360		47	6分通り 倒潰			
		二丁目	192	771							
		計	370	1507							
D	山田町	一丁目	373	1376	670		町内38、町 外30、計68	6分通り 倒潰/町 内発火な			
		二丁目	275	1125							
		計	648	2501							
D	千歳町	一丁目	190	802	450		一丁目10、 二丁目12、 三丁目7、 他町外10	一戸も残 さず焼失			
		二丁目	222	878							
		三丁目	106	447							
		計	518	2127							
D	三吉町	一丁目	246	1061	654		二三四目 13人、死 五丁目44 人、町外 にて29人 計86	7分通り 倒潰/一 戸も残ら ず焼失	中村川	三吉橋、 東橋: 焼 失	
		二丁目	134	479							
		三丁目	96	365							
		四丁目	242	914							
		五丁目	102	445							
		計	820	3264							
D	永楽町	一丁目	130	842	419	4150	450+19	反町楼を 残し全部 倒潰/全 部焼失			南吉田町 第三小学 校運動場 に避難し たものは 全部焼死
		二丁目	69	913							
		計	199	1755							
		一丁目	471	2148							
D	眞金町	二丁目	309	1955							
		計	780	4103							
		一丁目	50	269							
		二丁目	78	422							
D	萬代町	三丁目	27	153	110		53	8分通り 倒潰/瞬く 間に焼失	吉田川、 大岡川、 日出川	蓬来橋: 焼け落ち る、鶴ノ 橋: 残る	
		計	155	844							

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (6)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
D	不老町	一丁目	180	927	250	85	8分通り倒潰/町内を焼き尽くす				
		二丁目	257	1261							
		三丁目	73	358							
		四丁目	47	245							
		計	557	2791							
D	翁町	一丁目	16	97	300	57 その他死者あり	8分通り倒潰/発火なしだが隣町から延焼			辛酉銀行支店	商店、住宅
		二丁目	110	540							
		三丁目	154	813							
		四丁目	13	89							
		五丁目	5	33							
計	298	1572									
D	扇町	一丁目	60	337	460	13	5分通り倒潰	大岡川、日出川	花園橋: 焼失、扇橋: 免れる	壽警察署、名取ホテル	
		二丁目	120	624							
		三丁目	196	954							
		四丁目	30	165							
		五丁目	9	46							
計	415	2126									
D	壽町	一丁目	89	533	460	68	7分通り倒潰/悉く焼失			相模屋呉服店、左右田銀行支店、バブチスト	埋立地多くは商店で住宅は少なかった
		二丁目	94	463							
		三丁目	244	1158							
		四丁目	48	204							
		計	475	2358							
D	松影町	一丁目	250	1113	775	50~60	全家屋の半数/一戸も残さず焼失				地盤が比較的強い勤人の住居が多い
		二丁目	171	865							
		三丁目	174	813							
		四丁目	97	439							
		五丁目	13	107							
計	705	3337									
D	吉濱町	323	1558	300餘		約100	8分通り倒潰/一戸も残さず焼失	大岡川、中村川			
A	野毛町	一丁目	137	700	1700	7650	焼死行方不明計300餘				
		二丁目	435	1830							
		三丁目	433	2086							
		四丁目	113	554							
		計	1118	5170							
A	宮川町	一丁目	87	441	1700	7650	焼死行方不明計300餘				
		二丁目	43	158							
		三丁目	36	173							
計	166	772									
A	福島町	65	323								
A	花咲町	一丁目	40	222	369	1500		櫻川	紅葉橋		
		二丁目	21	130							
		三丁目	70	321							
		四丁目	65	273							
		五丁目	357	1460							
		六丁目	123	518							
C	花咲町	七丁目	144	685	369	1500		櫻川	紅葉橋		
		八丁目	123	520							
		九丁目	82	399							
		十丁目	21	191							
		十一丁目	19	104							
		十二丁目	57	387							
計	1122	5210								横濱驛	

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (7)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
C	戸部町	一丁目	100	449	80		約半数倒潰				
		二丁目	171	697	140		死者40				
		三丁目	383	1624		358	死者31	表通り約半数倒潰、裏通り比較的倒潰しなかった/旋風が起こり全町は忽ちひの海と化す			
		四丁目	431	1918	400	1650	54	殆ど全部倒潰			
		五丁目	216	926	206	850	24	約7分倒潰			
		六丁目	331	1642							
		七丁目	23	97	330	1600	12~3				
		計	1655	7353							
C	伊勢町	一丁目	16	105	400	1600	死者約20				家屋の多くは倒潰/三丁目、池の坂方面の二箇所から火
		二丁目	40	158							
		三丁目	263	1176							
		四丁目	162	634							
		五丁目	41	199							
		計	522	2272							
C	老松町	一丁目	51	600							
		二丁目	10	62							
		計	61	662							
C	月岡町	23	165								
C	宮崎町	145	795			10			伊勢山太神宮	高台	
C	平沼町	一丁目	277	1306	1280	5150	死者130	焼失戸数1130、残存家屋約150戸(水天宮及其の周囲80戸、尾張屋町に30戸)	帷子川、石崎川	他町に通ずる橋梁悉く破壊	
		二丁目	314	1439							
		三丁目	225	1076							
		四丁目	172	783							
		五丁目	134	717							
計	1122	5321									
C	西平沼町	237	1117								
C	材木町	一丁目	3	10							
		二丁目	8	74							
		計	11	84							
C	仲町	一丁目	17	72							
		二丁目	30	107							
		計	47	179							
C	尾張屋町	15	62								
C	入船町	2	6								
C	緑町	一丁目	7	49							
		二丁目	17	74							
		三丁目	1	10							
		計	25	133							
C	長住町	1	9								
C	高島町	一丁目	58	302							
		二丁目									
		三丁目	21	104							
		四丁目	35	157							
		五丁目	64	277							
		六丁目	73	271							
		七丁目	53	180							
		八丁目	59	232							
H		九丁目	58	495	民家95戸、合宿	約450人、合宿所に	町内にて14、町外	家屋約7分通り倒		高島橋:焼け落ち	広い工場地帯で大工場、会社等大建築物並びたっている。四辺新しい埋
		十丁目	49	295							
		計	470	2313							

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (8)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
C	島裏町高	一丁目	4	41							
		二丁目	4	18							
		計	8	59							
A	櫻木町	一丁目	5	14	130	650				埋立地、地盤弱	
		二丁目									
三丁目		61	275								
四丁目		52	253								
五丁目		32	120								
六丁目		36	152								
七丁目		12	60								
C		計	198	874							
A	内田町	一丁目									
		二丁目									
		三丁目									
		四丁目									
		五丁目									
C		六丁目	53	275							
		七丁目	36	149							
		八丁目	23	95							
		計	112	519							
C	橘町	一丁目	88	375							
		二丁目	88	384							
		三丁目	33	139							
計		209	898								
A	日出町	一丁目	169	706	430	1750	143	黄金橋、朝日橋、長者橋：焼失			
		二丁目	107	470							
		三丁目	155	694							
		計	431	1870							
A		初音町	一丁目	186					840		
	二丁目		83	372							
	三丁目		78	318							
	四丁目		74	314							
	計		421	1844							
A	三春町	一丁目	44	187			114				
		二丁目	28	115							
		三丁目	39	150							
計		111	452								
A	黄金町	一丁目	22	107							
		二丁目	44	181							
		三丁目	11	41							
		四丁目	33	135							
計		110	464								
A	清水町	25	100			4					
A	霞町	一丁目	98	444			2				
		二丁目	21	70							
		三丁目	18	58							
		計	137	572							
A	英町	一丁目	100	432	120	600	11	2/3は倒潰			
		二丁目	43	194							
		三丁目	59	248							
		計	202	874							

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (9)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)								
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
C	西戸部町	境ノ久保	15	90							
		野毛坂	194	702							
		反目	379	1573							
		御所	865	3816	463	約3000	約20	一家全滅無し			
		石崎	1590	6858	西部1705, 東部554	西部7331, 東部2437	西部70, 東部約20	西部:電車通最も激しく多数倒潰全町焼失、東部:大半焼失			
		扇田	1389	5857	592	2368	27~8	家屋は全部倒潰/久保町方面より延焼			
		宮ノ前	596	2525			12~3	一帯の家屋は倒潰/扇田、御所山、方面より襲い来た猛火は官舎を初め一帯を焼盡		懸廊官舎	
		山王山	804	3400			圧死者4	愛隣女学校は焼失したが他に延焼せず		税関官舎約20棟70戸	
		小松原	76	351							
		大松久保	422	1889							
		池ノ坂	746	3228			圧焼死者十数名、外出先での死者約100	約300戸を残して全町は灰燼となる。西前小学		第一中学校は延焼を免れる	
		西ノ前	661	2791	2600	9000					
		鹽田	321	1278							
		横枕	685	2842							
		西ノ原	369	1597							
		稻荷臺	235	1004							
		古井戸	10	36	830	2600	死者数名のみ	家屋20餘戸倒潰/焼失戸数約100			
一本松	249	995				数百戸の倒潰に止まる/火		一本松小学校:倒潰免れる	火災を免れた原因は森林を		
境ノ谷	170	693									
富士塚	34	118									
計	9810	41643									
AC	南太田町	上耕地	43	235							
		谷戸耕地	4	32							
		大原耕地	10	41							
		清水耕地	260	1101							
		富士見耕地	969	3925							
		大丸耕地	6	24							
		庚耕地	905	3693							
		西中耕地	846	3355							
		霞耕地	473	2064							
		谷原耕地	402	1852							
		東耕地	389	1894				倒潰2戸			
前里耕地	389	1567									
計	4696	19783				住民が必死に防火に努め、火災を逃れることができた					

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (10)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)					横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
AD	南吉田町	西川外	53	268	東部2600、西部2600、ch中部109計5309		東部484、西部死者行方不明者計29計513	東部:8分通り倒潰/一戸残らず焼失、西部:9分倒潰/全家屋焼失				
		南七ツ目	105	442								
		北七ツ目	354	1229								
		南六ツ目	809	3320								
		北六ツ目	910	3805								
		南五ツ目	822	3364								
		北五ツ目	256	1136								
		南四ツ目	1896	7496								
		南川外	309	1339								
計	5514	22399										
C	岡野町	1044	4626	南幸町と合わせて約2000	南幸町と合わせて10000	南幸町と合わせて圧死者約70	全町殆ど全潰/女子師範附属小学校から発火し、全焼したが倒潰した女子師範学校及高等女学校とその他民家約300戸は罹災を免れた。		浅間橋、新田間橋	女子師範学校及附属小学校、県立高等女学校、岡野小学校、など半潰	埋立地	
C	久保町	鹽田	92	684	1300	4600	圧死者37	倒潰半潰半分ずつ/焼失家屋は僅か数戸被害比較的軽く他方面よりの避難者約30000人				最近の新開地で諸工場を除いて、人家も少なく被害は比較的軽かった。他方面より避難者が続々と集合。
		反町	39	147								
		關面	127	484								
		道上	195	798								
		東臺	6	25								
		池ノ上	20	85								
		大谷	127	505								
		久保山										
		林越	6	39								
		大丸	3	25								
		外荒具	2	7								
		殿田	33	172								
		宮下	20	74								
寺下	96	418										
計	766	3463										
H	橋本町			432	1809	4	倒壊家屋30戸/延焼により70戸					
一丁目	3	25										
二丁目	12	53										
H	星野町	14	83									
H	神奈川町	九番町	213	1008	83	約430	町民の死者は一人もなく通行人が1人焼死	古い家が一戸倒潰したのみ/街の全部焼失				
		渡邊	4	24								
		西ノ町	91	455								
		仲ノ町	141	731								
	十番町	440	2089				倒壊家屋6戸、倉庫3棟/延焼により51戸焼き九番町へ					

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (11)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
H 神奈川町	神明町	810	3705	約800	約3500	町内にて4、町外にて8	倒潰約1/4		常盤橋:破損	能満寺、神明者小学校、慈雲寺:倒潰、東光寺:大破	
	小傳馬町	59	283	55	約450		全壊家屋は無く、半潰に近いもの30戸/延焼		瀧ノ橋	住人の多くは漁民	
	浦島丘	146	608	173	約6000	死者無し	社宅111戸、民家約30戸/延焼により28戸残したのみ				
	御殿	330	1419			死者無し	倒潰家屋10戸/延焼なし				
	飯田町	120	558	105	約570		倒潰家屋2戸/飛び火はあったが大事には至らず				
	二ツ谷	250	1009	約420	約2000	町内にて約3、町外にて3	倒潰家屋約70戸、				
	柳町	397	1608	約400	約1600	町内圧死者2、町外9	倒潰家屋約40戸、半潰50戸/延焼により数百戸焼く				
	浦島町	344	1702				倒潰7戸、半潰5戸/				
	新浦島			339	1553	2				埋め地	
	新町	689	3100	約650	約2600	町内圧死者2、町外死者156	倒潰家屋28戸/延焼により9戸焼く				
	富家町	39	179	約300	約1200	圧死者5	倒潰家屋10戸/延焼により約250戸焼いた				
	稻荷町	72	365	160	480	町内死者無し、町外にて遭難5	殆ど倒潰/20戸残したのみで他全部倒潰				
	立町	66	284								
	鳥越	101	439	約160	650	死者無し	家屋の倒潰3戸、半潰1戸/延焼により92戸焼く				
	東白楽	105	448			死者無し	家屋の倒潰3戸				
西白楽	40	192									

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (12)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
H	神奈川町	中川	114	460	約170	約700	倒潰家屋34戸、半潰60戸				
		平尾前	461	2126	440	1116	町内にて3、勤務先にて3	倒潰家屋12戸、半潰約100戸			
		二本榎	159	657	190	約700	外出中の者4	倒潰家屋10戸、半潰30戸			
		齋藤分	81	411	市営住宅186		町外にて2	半潰約30戸、大破70戸、破損無しの家約10戸			
		中丸	8	115							
		獵師町	296	1400	290	1560	町内にて死者無し、他町				海辺
		棉花町	149	632	110						
		計	4782	21515				焼失戸数約1400戸、			
	寶町	9	39	25	900	他町にて2人のみ	倒潰は一戸も無く2.3の土蔵が壊れた			関東製鎖株式会社：罹災	
H	青木町	瀧下町	160	836	約175						
		瀧ノ町	90	532	87	約450	外出先にて3名	倒潰家屋無し、多くは小破/延焼により全町焼失			
		久保町	49	291	72	約250	勤め先にて2名	倒潰家屋無し、大破小破程度/1戸も残さず延			平地
		宮ノ町	163	758	156	約650	出先にて行方不明2名	倒潰家屋無し			平地
		元町	150	723	147	約750	町内にて1人、他町にて1人	全潰1戸、他半潰大破あり/延焼により21戸残し焼失			神奈川郵便局：倒潰はしなかったが焼失
		七軒町	128	591	約200	約950	町内死者12、	第二震に於いて家屋の倒潰約7分通り、その他概ね倒潰/延焼し約30戸残存した			
		下臺町	192	986				0	1割倒潰/焼失家屋		
		臺町	91	507							
		上臺町	90	431							
	臺下町	29	115	160	456	他町に勤務中の数	全潰1戸、半潰8戸、				

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (13)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)								
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
C	青木町	東輕井澤	450	2114	570	2280	町内5名、 町外8名	家屋の倒潰約50		新田間橋:大破	
C		西輕井澤	35	176							
		横町	74	288	74	280	他町にて1名	63戸焼失			宗興寺:罹災
		反町	1235	5714	約1550	約6600	7+数名	全潰7戸、 全焼63戸			
		廣臺	236	1129	236	1180	他町にて3名	倒潰17戸	瀧ノ川		横濱脳病院:大破、 蓮法寺附属建物: 倒潰
H		太田町	191	839	210	900	他町にて2名	倒潰4戸、 半潰20戸、他概ね大破小破/火災なし			天理教会:小破
		幸ヶ谷	358	1605	310	1320	勤め先にて死者2	倒潰3戸、 半潰1/3、		土橋:半壊	
		栗田谷	70	385	30						丘陵地
		松本	82	392							
		澤渡谷	8	50							
		南三ツ澤	32	194							
		中三ツ澤	53	308	80	約400	他町にて2名	民家の倒潰無し、 半潰5戸、			広大な丘陵地
		北三ツ澤	19	110							
C		内海	4	10							
H		鶴屋町	162	765	280	2250	他町にて5名	倒壊家屋6戸、他半潰若しくは大破に近い	新田間川		スタンダード石油会社:火災
		北幸町	12	52							
C		南幸町	504	2272							
		宮洲町	163	839	約120						
H		七軒町二丁目	155	705	147	約700	町内2、他町にて2	倒潰40戸のみ/延焼により一戸も残さず焼失			碧海橋、蓮橋:焼け落ちる
		七軒町代地	64	312							
		計	4930	23483			計焼失戸数約1700戸				
H	大野町	51	205	約30							
C	浅間町	浅間下	299	1335	1300	5200	圧死者30餘、外出先での圧死約70、神明下にて生埋め2	三州長屋63戸倒潰	新田間川、帷子川		
		神明下	185	747							
		霜下	256	1032							
		追分	198	856							
		大窪	2	14							
		隠谷戸	44	186							
		打越	8	36							
		大新田	250	1055	700	3500					
		社宮司	367	1483							
		鹿島	206	815							
	計	1815	7559			僅かに16戸を焼いたのみで他に火災は起きなかった					
H	林町	9	55						高島橋:		民家無し
CH	表高島町	17	90	18		倉庫内人夫2名			焼失、八千代橋:墜落		民家無し
C	山内町	一丁目									民家無し
		二丁目									民家無し
		三丁目									民家無し
H		計									

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (14)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)								
町名		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
H	島新町浦	一丁目	3	7								
		二丁目	4	40								
		計	7	47								
H	千若町	一丁目	16	88								
		二丁目	13	59								
		三丁目	3	31								
		計	32	178								
H	守谷町	一丁目	5	16	700	約2800	倒潰家屋約200戸、半潰150戸/二箇所から発火し延焼し、約100棟焼き自然鎮火した					
		二丁目	15	50								
		三丁目	19	111								
		四丁目										
		計	39	177								
H	子安町	七島	274	1130	1300	約5200	倒潰家屋約50戸、その他半潰大分あり		富士見橋:墜落			
		大口	198	827								
		溝下	113	420								
		神ノ木	9	39								
		打越	10	75								
		海道通	1267	6156								
		計	1871	8647								
E	本牧町	上臺	441	1866	830	約4000	死者77(土地内20)				大部分市街地 北都市街地	
		臺	551	2183								
		箕輪	73	344	1200		20数名(多くは宮原及原にて)、他所にての遭難者あり					民家少ない
		箕輪下	237	998								
		十二天	44	188								
		宮原	214	917								
		原	474	2211								
		天徳寺	113	501								
		大鳥	70	294								
		臺山	79	331								
		満坂	1	6								
		大久保	3	41								
		池田	46	193								
							11戸焼失					

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (15)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)					横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考		
E	本牧町	牛込	369	1753	1300	38(他町にて死亡を含む)	震災の影響激しく家屋7分通り倒潰			眞言宗多聞院、眞言宗千蔵寺: 罹災		
		八王子	138	631		9(他町にて死亡を含む)				海岸の某人住宅: 顛落		
		下里	55	247						不動堂: 罹災		
		眞福寺	20	81		町内にて21						
		矢	388	1811		震災の影響激しく家屋7分通り倒潰/35戸焼						
		和田	72	381		町内にて死亡計14				本牧小学校、基督教会堂: 罹災		
		配郷	9	65								
		三ノ谷	5	39						紳商原氏三溪園: 被害なし		
		間門	11	55						眞言宗東福音: 破壊		
		二ノ谷	8	38						遊楽園: 破壊		
		一ノ谷	10	42								
		荒井	37	193								
		長久保	3	13								
		向	9	52								
		大谷戸	5	17								
八王子?	32	129										
計	3468	15386			その他諸字を合わせ町内のみで14人							
E	千代崎町	一丁目	82	355	110	10	約7分通り倒潰/火災によ		辛酉銀行支店			
	二丁目	13	55									
	計	95	410									
E	上野町	計	244	1013								
E	諏訪町	計	47	224	48	705	町内死者12、勤め	全潰約3割、半潰2				
E	北方町	天照	138	509	140							
		小湊	222	995	360餘		10餘、他町にて遭難者あり	全半潰8分通り/一部火災、二箇所より発火し忽ち約70戸焼	諏訪神社: 焼失	各字とも市街地ではかなり大きな被害。所々崖崩れもあった。		
		泉	663	2659	450		41	7分通りは倒潰/一部火災、16戸焼				
		竹ノ花	700	2825	600		(泉・千代崎町と合わせて少なくとも100人)49	7分通りは倒潰/殆ど全部				
上野	820	3360	900			7分通りは倒潰/殆ど全部						

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (16)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)					横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考		
E	北方町	西ノ谷	613	2540	約800	死者7、関内方面出勤中行方不明40餘	約180戸全潰、約400戸半潰又は大破、丘地にて約80戸中7戸倒潰/発火無したが一部火災				各字とも市街地ではかなり大きな被害。所々崖崩れもあった。	
		計	1498	6194			計2687	7分通りは倒潰/倒潰は多くはなかつたが				
D	中村町	唐澤	375	1526	1462	町内にて死者約20、町外の勤め先にて遭難者多数	地蔵坂の真言宗蓮光寺、平樂の平樂小学校:焼失			崖崩れを生じ、崖下の石川町に損害を与えた		
		平樂	196	791								
		中丸	11	48								
		谿	237	997								
		打越	601	2456								
		彌八ヶ谷	27	106			地盤固く被害は軽微/大崖崩れ					
		山田	60	239			地盤固く被害は軽微			中華病院:倒潰		
		西ノ谷	279	1072			地盤固く被害は軽微			真言宗弘誓院、亞鉛鍍金会社、三筋石鹼会社:倒潰		
		池ノ下	391	1511	1600餘	町内死者10名に満たなかつたが、勤め先の他町にて死者数十名	家屋約4分通り倒潰半潰/イサゴ豆製造工場から発火したが消し止める		中村橋:無事、池ノ下橋、久良岐橋:陥没、日枝橋:崩落、		市街地	
		西	532	2162			地盤固く被害は軽微/発火あり1600戸中450戸焼く/大崖崩れあり				市街地	
		道場	2	6			地盤固く被害は軽微					
		相澤	87	460			地盤固く被害は軽微					
		山谷	66	253			地盤固く				人家無し	
		中村	941	3514			家屋の倒潰約3分通りと少ない/数箇所より発火、約3300戸焼失(字八幡の一部及其他	中村川	三吉橋、東橋、車橋		八幡神社:小破	崖崩れ生じ数人生埋め
		八幡	800	2955			町内にて死者約40、他町にて遭難者多数				真言宗玉泉寺:倒潰	崖崩れ生じ、木賃宿外二戸埋没し数人生埋め
中居	1004	3958	約3700									
東	911	3735										
計	6520	25789										

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (17)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)											
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考					
E	山元町	一丁目	76	375	1850	町内9、他所にて遭難行方不明者185	震災は概ね軽微、全潰60餘戸、半潰大破多数/発火は山元町で三箇所、猿田で一箇所だが大事に至らず			市街地					
		二丁目	101	479											
計	177	854													
相澤	527	2085													
西竹ノ丸	286	1183													
エコ田	328	1308													
猿田	260	1068													
大芝	27	100													
廣地	61	246	1200	死者10数人、他所にて遭難10数人(刑務所内を除く)							全潰半潰約4分	堀割川	天神橋、根岸橋、坂下橋：異常無し	横濱刑務所：大部分倒潰の上焼失	民家多い
分田	56	187													
上	406	1706													
馬場	253	1191													
坂下	207	824													
下	185	871													
寺久保	14	40													
坂ノ臺															
塚越															
上猿田															
藁澤	43	204													
仲丸	1	6													
臺芝生	10	52													
西芝生	233	1104	約700	死者は西芝生及芝生にて数人、他所にての遭難者30餘人	震災の被害僅か、全潰家屋約1割、半潰2分通り/瀧ノ上及芝生に			池端メリヤス工場：全潰	海岸の平坦地						
芝生	165	792													
瀧ノ下	124	531													
加曾	196	902													
瀧ノ上	43	165													
加曾上	10	54													
豆口	13	50													
清水	3	19													
仲尾	58	225													
竹ノ丸	77	361													
柏葉	407	1700	2224	死者約100(関内関外へ出勤中の遭難者多数)	灰谷地約7分倒潰、丘陵地概ね半潰/電車路に沿って北側約150			市営住宅101戸全半潰							
麥田	544	2045													
立野竹ノ丸鷺山	441	1839													
立野	124	504													
仲田	12	50													
矢口臺	16	71													
澤畑	1	7													
池袋	4	31													
鷺山	105	484													
計	3707	15777													

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (18)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)								
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
E	瀧頭町	原	228	1034	1000	4500	町内死者なし、町外での死亡20	西・字濱・上江・北田等の市街地約1/3倒潰、その他は大被害免れる	堀割川	一部丘陵地、一部平地	
		濱	258	1096							
		上江	109	473							
		比田	37	289							
		岩瀬	4	18							
		扇ヶ谷									
		一丁目	8	40							
		廣町	72	267							
	計	716	3217								
E	磯子町	禪馬	99	459	200		3	焼失5			
		廣地	105	435	200		2				
		腰越	8	32							
		濱	486	2074	500		9	倒潰150、半潰200/焼失63			埋立地
		峰	24	135							
		宮下	41	181							
		山田	11	61			3				
		谷	38	170			1				
		山王谷	2	19							
		間坂	33	194			1	焼失3			
		廣町									
		牛ヶ久保									
		紅取									
		間渡り									
堀込											
市澤											
	計	847	3760	1550			借楽園附近の死者を合わせると40町外行方不明者10				
E	岡村町	仲野町	25	105	110餘			倒潰20、半潰35/火災なし		丘陵地、面積は広いが人家は谷合に散在するのみ、葺葺屋根	
		古泉	33	185							
		竹橋	17	106							
		仲久保	18	80							
		笹堀	1	9							
		泉谷									
		一丁谷									
		伊勢山									
		腰越	3	9							
		山田									
		市澤									
		計	97	494							
D	堀内町	石島	60	247	654				字新川、堀割川	字宮田・門前・石島・清水谷・女坂辺りは商家と住家、その他丘陵地であるから人家は極めて少ない	
		宮田	60	264							
		門前	142	583							
		堂谷	9	45							
		清水谷	43	182							
		林ノ下	4	21							
		西ノ谷									
		社谷	8	44							
		稻荷山									
		谷臺									
堂免											
中山											
丸山											
餓鬼ヶ谷											
テロフ	27	108									
荒島	7	20									
柿ヶ谷	7	52									
女坂	1	3									
新川	37	208									
E	堀内町	富士塚									
		テロフ									
		柿ヶ谷									
	計	405	1777								

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (19)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考
D 蒔田町	一ノ坪	24	98							
	宿	71	297			7.8分焼失				
	西	79	372			7.8分焼失				
	原	4	58							
	山ノ根	71	287			7.8分焼失				
	門田	42	172			全部焼失				
	宮ノ脇	48	178			全部焼失				
	三反田	139	567			全部焼失				
	井領田	129	517			全部焼失				
	耕地	78	343							
	矢畑	2	4							
	一本松	139	547			7.8分焼失				
	六反目	223	850			全部焼失、大被害(概ね倒潰)				
	廻り坪	201	742			全部焼失				
	堂面	140	597			7.8分焼失				
	雑色	2	12							
	町田									
	榎木坪	7	26			全部焼失、大被害(概ね倒潰)				
	居尻	22	91			全部焼失、大被害(概ね倒潰)				
	五反目	9	41							
	八反目	2	10							
	伊勢山									
	東谷	62	246							
	曾下	2	15							
	谷戸田	1	4							
	谷戸田上									
	三度臺									
下ノ前	2	6								
蒔田橋										
計	1499	6080	3000			2500戸焼失、町中火の海			英和女学校勝国寺	
A 井土ヶ谷町	坂本	2	10							
	永田下									
	町田	54	225							
	法心下	15	83							
	四反町	5	32							
	八反目									
	川田	2	64							
	沖田	20	90							
	久傳	2	7							
	南橋	8	33							
	宿村	22	112							
	高免	38	156							
	下ノ前	54	229							
	宮ノ前	24	77							
	宿ノ前	45	189							
	蒔田橋	35	150							
	鱒袋	3	28							
	鶴巻	4	25							
	大境	13	64							
	坊ノ後	26	103							
	鳥井戸	2	13							
	宮ノ下	11	64							
	山ノ根	16	72							
橋大詰	21	91								
十二天脇										
矢	1	4								
計	423	1921								

表 5.4.1.1⁵⁾⁶⁾⁷⁾ 町丁別死者数 (20)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)				横濱震災史第二冊(大正十五年)							
町名	世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数	倒潰家屋	川	橋	建物	備考	
D	大岡町	釜田	57	204			殆ど全部焼失				
		大橋詰	88	391			殆ど全部焼失				
		石畠	127	518			過半焼失				
		宮ノ前	54	203			過半焼失				
		中島	39	148			殆ど全部焼失				
		樋ノ口	43	156			殆ど全部焼失				
		通町					殆ど全部焼失				
		中ノ町	4	20							
		堰ノ上	58	217			過半焼失				
		久能下									
		岩井下	61	238							
		七枚畠	29	124							
		五枚下	1	5							
		藤ノ水	13	58							
		力者町	1	6							
		越ノ下	21	91							
		千保	23	114							
		岩ヶ谷									
		大谷戸	2	13							
		谷戸前	6	50							
		小谷戸	6	34							
		一ツ澤									
		池ノ谷戸									
		大九	8	53							
		五枚	2	13							
		浅間山	3	21							
		久能	15	103							
		永窪	3	13							
		寺ノ下	17	94							
		岸ヶ谷	5	40							
八郎ヶ谷											
一澤											
三角田											
北ノ前	2	15									
前田											
向田											
鯛袋											
	計	688	2942	1200	120(多くは勤め先にて死亡)	800戸の類焼、格別焼死者を出さなかった				蒔田町と地勢が似ている	
A	弘明寺町	北ノ前	14	49	180	900	焼死者1、行方不明1	1/3の家屋が倒潰、2.3発火があった	観音橋：延焼	弘明寺本堂：焼失を免れる	
		前田	61	256							
		山下	62	283							
		計	137	588							
合計		92750	411798								
水面		2490	9728								
監獄構内		1	1420								
総計		95241	422946								

- A 伊勢佐木町署
- B 加賀町署
- C 戸部署
- D 壽署
- E 山手本町署
- H 神奈川署

備考 横濱震災史第二冊P23 長者町一丁目
 横濱震災史P182 神奈川町に国勢調査には書かれていない
 末吉町一家全滅十数戸P13 大正9年データより一世帯当たり4.0人×13戸=52人死亡とする

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計 (1)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)							大正大震災誌	
伊勢佐木町署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明者	倒潰家屋	出火件数 (件)
A	伊勢佐木町	計	106	876							3
A	吉田町	計	170	1021			200	200			1
A	柳町		12	64							
A	町木櫻一～三丁目		66	289	130	650					1
A	福富町	計	808	3881	700		死者600, 行方不明200	600	200	8分通り倒潰、一家全滅30/町中火の海と	2
A	長者町五～九丁目		868	4348			176	176			1
A	姿見町	計	83	535	70	400	焼死多数				2
A	若竹町		53	295		300	40	40			1
A	梅ヶ枝町		112	536			町民88.通行人200	88		一家全滅45戸、家屋殆ど全潰	1
A	蓬萊町	計	295	1415	207	1000餘	焼死20餘+17, 溺死者76, 圧死者50, 計163	163		土蔵一つ残し、全部倒潰	2
A	浪花町		16	67							
A	松ヶ枝町		86	558						殆ど倒潰/4戸残存したがその後焼失	3
A	羽衣町	計	448	2111			215	215			3
A	若葉町	計	337	1490			圧死者30	30			
A	賑町	計	216	1200			約70 他劇場活動館に於いて20～30	100		家屋約7分通り倒潰、半潰十数戸、その他殆ど大破/発火延焼し一戸も残らず焼	2
A	末吉町	計	1693	6824			828	828			5
A	長島町	計	520	2415			114	114			2
A	吉岡町	計	477	2061	450	2500	150	150		倒潰家屋400戸	2
A	久方町	計	183	961	65	400	圧死者多数				
A	雲井町	計	248	980	204	640	30	30		全町は火の海と化する	1
A	足曳町	計	319	1342	178	760餘	焼死41	41		23戸を残し殆ど全部倒潰	3

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計 (2)

国勢調査 (大正九年十月一日現在)			横濱震災史第二冊(大正十五年)							大正大震災 火災誌				
伊勢佐木町署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)			
A	駿河町	計	81	358	100	500	死者約50	50		8分通り 倒潰 全町残ら ず焼失	2			
A	野毛町	計	1118	5170	1700	7650	焼死行方 不明計 300餘	300			4			
A	宮川町	計	166	772										
A	福島町		65	323										
A	町咲花	一～六丁目	676	2924							1			
A	日出町	計	431	1870	430	1750	143	143			1			
A	初音町	計	421	1844			97	97			1			
A	三春町	計	111	452			114	114						
A	黄金町	計	110	464								1		
A	内田町	一～五丁目	0	0										
A	清水町		25	100			4	4						
A	霞町	計	137	572			2	2						
A	英町	計	202	874	120	600	11	11		2/3は倒潰				
A	井土ヶ谷町	計	423	1921										
A	弘明寺町	計	137	588	180	900	焼死者1, 行方不明 1	1	1	1/3の家 屋が倒潰 2.3発火が あった が、大事 には至ら ず消し止				
A	南太田町	計	2896	12077						住民が必 死に防火 に努め、 火災を逃 れること ができた	5			
A	南吉田町	計	2757	11200	東部2600, 西部 2600、計 5300		484	484		東部:8分 通り倒潰 /一戸残 らず焼 失、西部: 9分倒潰/ 全家屋焼	7			
伊勢佐木町署計			9756	41509				1206	1		22			

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計 (3)

加賀町署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
B	本町	計	161	1124	155	950	247	247		約8割倒壊	1
B	元濱町	計	128	729			約100	100		約8分通り倒潰/ 石川組以外全て焼失	
B	海岸通	計	63	388			15 他多数死者	15		大部分倒潰	
B	北仲通	計	160	850			200を超える	200		約8分通り倒潰/ 一戸も残さず焼失	
B	港町	計	103	562			6 他死者 多数	6			
B	境町	計	51	360	53	300	87	87			
B	南仲通	計	106	675	128	573	60	60		大抵倒潰	
B	辨天通	計	157	1099	166	1500	230餘 其他通勤者の遭 難多かつた	230		住家、商店全て倒潰	
B	太田町	計	245	1625	250	1000	369	369		7分通り倒潰	5
B	相生町	計	296	1829	306	1500	34	34		一棟を残し全部倒潰	3
B	住吉町	計	396	2392	375	1800	150~ 200	200		8分通り倒潰	1
B	常磐町	計	330	1704	322	1400	約100(主に四・五丁目)	100			
B	尾上町	計	361	2182	347	1782	住民 274	274		全部倒潰	
B	真砂町	計	201	1167	205		町内73	73		7分通り倒潰	
B	山下町	計	2028	9330		支那人約 5000人	約2400 (支那人 2000人)、 勤人が多く 住民の死者 数と他町 からの勤 人の死者 数と分けて 調べるこ とはで	2400		倒潰し焼 失433戸	5
B	新港町	計	7	13							

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(4)

加賀町署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
BE	元 町	計	1264	5995	1218	約6000	圧死、溺 死者400 数名	403	10	町の背後 の断崖の 到る所崩 壊し崖下 の数多の 家屋埋め た/強風に 煽られて 忽ちの 間に四 辺は火 となり一 棟	B2.E2
加賀町署計			1264	5995	12年6月 加賀町署 調べ 関内+元 町 5746	12年6月 加賀町署 調べ 関内+元 町 26625(内 外国人 4544)		403	10		4

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(5)

戸部署		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
C	月岡町	23	165							
C	老松町	計	61	662						
C	伊勢町	計	522	2272	400	1600	圧死者約 20	20	家屋の多くは倒潰/ 三丁目、池の坂方面の二箇所から火災発生	
C	久保町	計	766	3463	1300	4600	圧死者37	37	倒潰半潰半分ずつ/ 焼失家屋は僅か数戸 被害比較的軽く他方面よりの避難者約30000人	1
C	高島町	一～八丁目	363	1523					大建物を初め全町家屋一斉に倒潰	
C	櫻木町	四～七丁目	132	585						
C	岡野町		1044	4626	南幸町と合わせて約2000	南幸町と合わせて10000	南幸町と合わせて圧死者約70	70	全町殆ど全潰/女子師範附属小学校から発火し、全焼したが倒潰した女子師範学校及高等女学校とその他民家約300戸は罹災を免れた。	4
C	宮崎町		145	795			10	10	午後三時頃野毛坂方面から猛火	
C	入船町		2	6						
C	青木町	5町	1005	4624	570	2280	町内にて5、他町にて8	13	家屋の倒潰約50戸、半潰約250戸、大破約270戸	1
C	橘町	計	209	898						
C	浅間町	計	1815	7559	2000	8700	圧死者30餘、外出先での圧死約70、神明下にて生埋め	102	僅かに16戸を焼いたのみで他に火災は起きなかった	1
C	西戸部町	計	9810	41643			271	271		3

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(6)

戸部署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明者	倒潰家屋	出火件数 (件)
C	裏高島町	計	8	59							
C	緑町	計	25	133							1
C	花咲町	七～十二丁目	446	2286	369	1500					
C	長住町		1	9							
C	戸部町	計	1655	7353			192	192			2
C	平沼町	計	1122	5321							1
C	西平沼町		237	1117							2
C	材木町	計	11	84	1280	5150	庄死者 130	130		焼失戸数 1130、残 存家屋約 150戸(水 天宮及そ の周囲80 戸、尾張 屋町に30 戸)	
C	仲町	計	47	179							
C	尾張屋町		15	62							
C	表高島町		17	90	18						
C	山内町	一～二丁目					倉庫内人 夫2名	2			
C	内田町	六～八丁目	112	519							
C	南太田町	計	1800	7706						住民が必 死に防火 に努め、 火災を逃 れること ができた	
戸部署計			5496	24918				324	0		6

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(7)

警察署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
D	壽町	計	475	2358	460		68	68		7分通り 倒潰/悉く 焼失	1
D	石川町	計	363	1872	1973		450(一～ 四丁目焼 死溺死者 多く、五 六七丁目 庄死者多 い)	450		石川町一 ～五町 目崖崩れ を起こし 民家20餘 戸生埋め 18名/七 丁目に僅	1
D	石川仲町	計	1692	6900							1
D	三吉町	計	820	3264	654		86	86		7分通り 倒潰/一 戸も残ら ず焼失	2
D	永楽町	計	199	1755	419	4150	450+19	469		反町楼を 残し全部 倒潰/全 部焼失	
D	眞金町	計	780	4103							6
D	扇町	計	415	2126	460		13	13		5分通り 倒潰	2
D	翁町	計	298	1572	300		57	57		8分通り 倒潰/発 火なただ が隣町か ら延焼	
D	松影町	計	705	3337	775		50～60	60		全家屋の 半数/一 戸も残さ ず焼失	1
D	吉濱町		323	1558	300餘		約100	100		8分通り 倒潰/一 戸も残さ ず焼失	
D	中村町	計	6520	25789	6762		100	100			9
D	堀内町	11丁	364	1597	654						1
D	蒔田町	計	1499	6080	3000					2500戸焼 失、町中 火の海	2
D	大岡町	計	688	2942	1200		120(多く は勤め先 にて死亡)	120		800戸の 類焼、格 別焼死者 を出さな かった	4
D	富士見町	計	370	1507	360		47	47		6分通り 倒潰	1
D	萬代町	計	155	844	110		53	53		8分通り 倒潰/瞬 間に焼失	1
D	山吹町	計	229	979	218		町内24、 町外13	37		表8分裏4 分倒潰	
D	山田町	計	648	2501	670		町内38、町 外30、計68	68		6分通り 倒潰/町 内発火な したが、 延焼で一 戸も残さ ず焼失	

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(8)

警察署			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
D	千歳町	計	518	2127	450		一丁目10, 二丁目12, 三丁目7, 他町外10 計39	39		一戸も残 さず焼失	
D	不老町	計	557	2791	250			85		8分通り 倒潰/町 内を焼き 戻す	
D	長者町	一～四丁目	525	2501	672	2890		96	10		
D	南吉田町	計	2757	11199	東部2600, 西部 2600、計 5300			29		東部:8分 通り倒潰 /一戸残 らず焼 失、西部: 9分倒潰/ 全家屋焼	2
警察署計			4357	18618				249	10		2

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(9)

山手本町署		世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明 者	倒潰家屋	出火件数 (件)
E	山手町	1428	5179	1617(外人721)	5372(外人1688)	194	194		焼失家屋 663	5
E	本牧町	計	3517			196	196			7
E	千代崎町	計	95	410	110		10		約7分通り 倒潰/火災により殆ど全	1
E	諏訪町	計	47	224	48	死者128、 行方不明 40餘	128	40	全潰約3 割、半潰2 割/発火 無したが 他町から 延焼し全 地域一戸 も残さず 全焼	
E	北方町	計	3156	12888	3250					
E	山元町	計	177	854	5974	約109 +16(刑務 所内を除く)	125	228	元々は山 元町で三 箇所、猿 田で一箇 所だが大 事に至ら ず	
E	根岸町	計	5240	22005						10000
E	上野町	計	244	1013						
E	磯子町	計	847	3760	1550	借楽園附 近の死者 を合わせ ると40、 町外行方 不明者10	40	10		3
E	岡村町	計	97	494	110餘		1		倒潰20、半 潰35/火 災なし	
E	瀧頭町	計	716	3217	1000	4500	町内死者 なし、町 外での死 亡20	20	西・字濱・ 上江・北 田等の市 街地約1/ 3倒潰、 その他は 大被害免 れる	1
E	堀内町	9丁	41	180						
山手本町署計			15605	65844			653	268		24

表 5.4.1.2 町丁別・警察署別集計(10)

神奈川県			世帯数	人口	災前世帯数	災前人口	死者数 (表記)	死者数	行方不明者	倒壊家屋	出火件数 (件)
H	橋本町	計	15	78							
H	星野町		14	83				212	5		
H	神奈川町	計	5725	26007						焼失戸数 約1400戸、	3
H	高島町	九～十丁目	107	790	民家95戸、合宿所12棟	約450人、合宿所に350人	町内にて14、町外にて2	16		家屋約7分通り倒壊、その他半潰大破/延焼により一戸も残さず焼失	1
H	大野町		51	205	約30						
H	寶町		9	39		18036	町内にて25、他町にて28	53		倒壊は一戸も無く2、3の土蔵が壊れたのみ/町内悉く焼き払われ橋梁も焼け落ちる	
H	青木町	25丁	4044	19405	4034					計焼失戸数約1700戸	3
H	千若町	計	32	178							
H	新浦島町	計	7	47							1
H	守屋町	計	39	177							2
H	子安町	計	1871	8647	2000	8000	町内3、町外2	5			2
H	林町		9	55							
H	町内山	三～四丁目									
神奈川県計			11923	55711				286	7		12
合計			92750	411798				12542	496		162
水面			2490	9728							
監獄構内			1	1420							
総計			95241	422946							

A 伊勢佐木町署
B 加賀町署
C 戸部署
D 壽署
E 山手本町署
H 神奈川署

備考 元町B、南太田町南吉田町A、山内町Cとする
死者数扱い 約100→100とする
200を超える→200とする
230餘→230とする
156～200→200とする
数名→3とする
多数→分からないので0とする

南吉田町 人口戸数AD半分ず
南太田町 地図で分ける
A: 上耕地、清水耕地、富士見耕地、西中耕地、東耕地、前里
D: その他
元町 Dとして

五章人の被害

参考文献

1. 「大正震災史」内務省社会局編集 大正 15 年 2 月 28 日発行
2. 「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行
3. 「横浜市震災誌 1～3 冊」横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行
4. 「横浜復興録」小池徳久著 大正 14 年 12 月 25 日発行
5. 「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行

出典

1. 表 5-2-1 「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行
P593～P615、「横浜復興録」小池徳久著 大正 14 年 12 月 25 日
発行より作成
2. 表 5-2-2 「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行
P593～P615、「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15
年 7 月 15 日発行より作成
3. 表 5-2-3 「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発
行
4. 表 5-2-4 「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行、
「横浜市震災誌 1～3 冊」横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発
行より作成
5. 表 5-3-1 「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行
P593～P615、「横浜市震災誌 1～3 冊」横浜市役所編集 大正 15
年 8 月 15 日発行、「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大
正 15 年 7 月 15 日発行

6. 表 5-4-1 「第十九回統計書」 横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行、「大正大震火災史」 神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行よりまとめ作成
7. 表 5-4-2 「横浜市震災誌 1～3 冊」 横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行 よりまとめ作成
8. 表 5-4-3 「横浜市震災誌 1～3 冊」 横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行、「横浜復興録」 小池徳久著 大正 14 年 12 月 25 日発行より作成

六章まとめ

六章 まとめ

6.1 まとめ及び今後の課題

横浜市は東京市と同じく耐火造が少ないが東京市よりも出火率が高く、構造物・人的共に被害が大きかった。

町丁別に出火や人的被害を明らかにしたことにより、今後の横浜市の地震と出火の関係、火災の延焼状況と避難の研究に活用できると考える。

また、町丁別死者を集計し、文献②の署別死者数と比較したところ、文献③における伊勢佐木町署の死者数が文献②よりも約 7000 人低い値となり、文献③の町丁別死者数が記載されていない伊勢佐木・櫻木・姿見・久方・内田・浪花町について更に調査の必要があることがわかった。

7.2 謝辞

本研究を進めるにあたり、辻本研究室の辻本 誠教授、西田 幸夫先生に懇切丁寧なご指導を頂き心より感謝を致しております。

両先生方のような優秀な方と一年も身近にいさせて頂きまして、好奇心の強さや多忙な生活の中でも行える行動力を間近で拝見させて頂きまして、とてもためになりました。学力の乏しい私共に対し、大変ご苦勞されたと存じますが、ご了承頂ければ幸いです。研究室に入り、ご指導を受け、とても自分たちにとって有意義な経験をさせて頂き、ここに厚くお礼を申し上げます。

安田裕介・渡辺育吏（2009 年 1 月）

参考文献

- 1)「大正震災史」内務省社会局編集 大正 15 年 2 月 28 日発行
- 2)「横浜復興録」小池徳久著 大正 14 年 12 月 25 日発行
- 3)「横浜市震災誌 1～3 冊」横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行
- 4)「大正大震火災史」神奈川県警察部編集 大正 15 年 7 月 15 日発行
- 5)「第十九回統計書」横浜市役所編集 大正 11 年 12 月 20 日発行
- 6)「第二十回統計書」横浜市役所編集 大正 15 年発行
- 7)「大正調査番地入横浜全図」有隣堂発行 大正 9 年 8 月 10 日発行
- 8)「1923 関東大震災報告書 第 1 篇」中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会 2006 平成 18 年(2006)7 月発行
- 9)「横浜火災図 大正 12 年 9 月 1 日」神奈川県測候所調査 大正 12 年(1923)10 月発行
- 10)1923 年関東大震災における死者数のプロセス 1855 年安政江戸地震との比較をふまえて 2006 鹿島小堀研究室 諸井 考文 武村 雅之 歴史地震 第 21 号(2006) 47-58 項 受付日 2006/1/4、2006/3/3
- 11) 東地震 (1923 年 9 月 1 日) による被害要因別死者数の推定 2004 日本地震工学会論文集 第 4 巻、第四号、2004
- 12) 関東地震 (1923 年 9 月 1 日) 木造住家データの整理と震度分布の推定 日本地震工学会論文集 第 2 巻、第 3 号
- 13)住宅火災の実態と住宅用火災警報器の実効性の分析 (2006) 東京理科大学 工学部 建築学科 卒業論文 中村眞紀子

付録

関東大震災における横浜市の被害の研究

5104076 安田 裕介
5105083 渡辺 育吏

辻本研究室

1. 研究目的と背景

大正12年(1923)9月1日11時58分に起こった関東地震は首都圏に死者行方不明者合わせて約10万人を出した。特に多くの被害を出した旧東京市(以下東京市)、旧横浜市(以下横浜市)をそれぞれの人口・世帯数割合で比べると横浜市が東京市を上回っていることがわかる(表-1)。しかし東京市に比べ横浜市は詳細な調査資料が少なく、地域ごとの被害の状況を把握するのが困難である。本研究の目的は横浜について文献調査により、町丁別等出来る限り小さな単位の被害を明らかにし、横浜市の被害の基礎資料とすることである。

2. 研究方法

関東大震災における横浜市の被害については表-2に示す文献があるが、その編纂元や調査方法により死者数や倒壊数などの値が異なる。本研究は以下の流れでまとめた。

- i. 文献③より119町の町丁別被害と文献②の神奈川県警調査の警察署所轄別被害をそれぞれデータ化する。
- ii. 震災当時の各町丁の世帯数・人口が不明のため、大正9年(1920)10月1日現在の国勢調査¹⁵⁾の世帯数・人口を震災当時のものとし、また、大正14年(1925)12月31日現在の国勢調査¹⁶⁾による各警察署の所轄する町丁を参考に、文献②の町丁を警察署別に集計する。
- iii. MapInfo Professional 7.8 SCP (2)を用い、i・iiを参考にして、大正調査番地入横浜全図¹⁷⁾を基に町丁別・警察署別地図を作成する。
- iv. 町丁別・署別の構造物被害、人的被害を地図上に可視化する。

但し、構造物被害については町丁別に被害を整理できなかったため、署別被害としてまとめる。橋梁・出火点については地図上に落とし込む。

3. 構造物被害

3-1 建築物被害

(1) 震災前の状況

震災前の建築物の構造をみると、表-3に示すように木造が93.60%と高く、東京市の91.00%とほぼ同じ割合でほとんどが木造市街地であったことがわかる。耐火造は土蔵造の割合が東京市6.45%、横浜市2.71%となっているが、両市共に耐火造そのものが少なく大火になりやすい状況であったといえる。

(2) 建築物被害

横浜市の建築物被害は警察署別に棟数で記録されているが、震災前の署別棟数が不明のため大正9年(1920)市税課税建物棟数より、署別の世帯数の比から署別住宅棟数を推推し、この被害をまとめた。また、町別の記録がないため署別のみを比較した。

表-4より伊勢佐木町署100%¹⁸⁾、山手本町署89.47%とほとんどの住宅が被害を受けており、伊勢佐木町署では火災による焼失、山手本町署では倒壊と焼失が半々の割合であった。加賀町署は全域が焼失区域内であるため、住宅被害は全て全焼であった。

3-2 橋梁の被害

震災前は大正9年(1920年)の国勢調査より、総本数220の橋が架けられていた。横浜市は河川が多いため東京市の橋梁の密度より1.26倍の橋があり、その内訳は木造185本で84%、次いで鉄造23本で10%となっている。震災後、108本の橋について調査が行われ、落下した橋9本(木造4本・鉄造5本)、落下を免れたが焼失した橋45本(木造34本・鉄造11本)、落下・焼失を免れた橋54本(木造38本・鉄造15本・RC造1本)となっており、被害を受けた橋は108本中54本で50%となっている。被害を受けた橋と出火点を図-1に示す。

図-1より、出火場所は図中の白地の低地部分に集中していることがわかり、地震発生直後の風向の影響もあるが特に伊勢佐木町署に出火数が多く、橋の焼失も伊勢佐木町署と野毛山間の大岡川、壽署間の新吉田川、そして壽署と山手町間の中村川に多く見られる。

表-1 横浜市と東京市の被害比較

市別	面積(km ²)	人的被害			建築物被害		
		人口(人)	死者・行方不明(人)	割合(%)	世帯数(戸)	焼失・倒壊戸数(戸)	割合(%)
横浜市	39.3	442,600	21,348	4.82	98,900	83,140	84.06
東京市	79.5	2,265,300	58,104	2.56	483,000	311,721	64.54

表-2 研究に用いた文献

文献名	編集	発行年	調査主体
①大正震災史 ¹¹⁾	内務省	大正15年	内務省 ¹¹⁾
②横浜復興録 ¹²⁾	横浜復興編集所	大正14年	復興所 ¹²⁾
③横浜市震災誌1~3冊 ¹³⁾	横浜市	大正15年	横浜市 ¹³⁾
④大正大震災誌 ¹⁴⁾	神奈川県警察部	大正15年	警察署

表-3 建築物の構造別比較

市別	横浜市		東京市	
	棟数(棟)	割合(%)	棟数(棟)	割合(%)
木造	52,243	93.60	326,214	91.00
土蔵造	1,513	2.71	23,133	6.45
煉瓦造	960	1.72	6,943	1.94
石造	757	1.36	1,689	0.47
コンクリート造	36	0.06	232	0.06
その他	304	0.54	264	0.07
計	55,813	100.00	358,475	100.00

表-4 署別住宅の被害率

署別	震災前棟数(棟)	被害棟数(棟)	被害率(%)
伊勢佐木町	9,887	10,086	100.00 ¹⁸⁾
加賀町	3,549	2,268	63.91
戸部	12,536	4,937	39.38
壽	12,247	5,695	46.50
神奈川	7,043	3,188	45.26
山手本町	9,089	8,132	89.47
その他	1,460	736	50.41
計	55,811	35,042	62.79

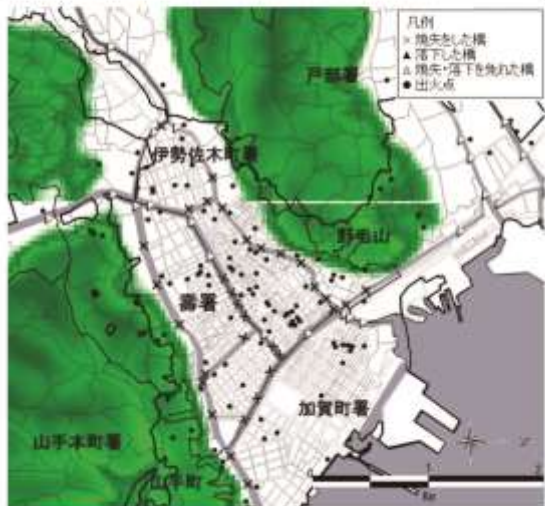


図-1 橋梁被害と出火点

4. 火災被害

火災について文献③では業種別出火件数として289件があげられているが、本論では文献④の出火場所が明らかな件数として162件についてまとめた。この出火件数は東京市の134件と比較しても多く、面積当りでは2.45倍の出火密度となっている。火災発生時刻推移を図-2に示す。これを見ると地震発生直後12時00分に41件と東京市の34件より多く出火している。累積割合で見ると両市共に同様の傾向であるが、横浜市は東京市よりも時間的な幅を持って出火が続いていることがわかる。表-5より、一人当たりの出火件数(以下、出火率)が最も多いのは伊勢佐木町署7.62件、次いで加賀町署5.93件で、焼失率は加賀町署100%、次いで伊勢佐木町署53.89%である。また、戸部署は出火率は少ないが全焼した棟数が多い。

出火件数の最も多い町では9件の中村町と南吉田町、次いで7件の本牧町となった。これらの町は中心市街地から外れた場所であり、1町の面積が大きいために火災件数を多くしている。出火率は伊勢佐木町署が最大で7.62、戸部署が最小で1.71であり、いずれも東京市より高い。図-3より町別出火率の高い新浦島町、守屋町は、他の町に比べ人口が少ない所で出火が起こったため高い値となった。また、図-3の境界は町丁区界であるが、出火率は町単位のデータを使用したため、町区分での出火率を表している。尚、山下町については文献④では出火件数5件だが、横浜火災図¹⁹⁾の表記では調査不能とされており、出火件数はさらに増加すると考えられる。

5. 人的被害

人的被害については町丁別に記述された文献③を用いて分析する。文献③では横浜市がどのような形で被害を収集したのか不明であるが、文献③の文章記述を表-6のように町丁別に項目ごとにキーワードとしてまとめた。最も多くの死者を出した町は山下町の2400人(外国人含まず)、次いで末吉町828人となっている。山下町は中国人が多く住む現在の中華街であり、中国人死者を含めると約4000人の死者を出し、安全な避難地である横浜公園に近いにも関わらず群を抜いて死者が多い。

1万人当たりの町別死者数分布(以下、死者率)を図-4に示す。図-4の区界は、各町の丁字の境界線であるが、文献③の死者に関する記述は町までの単位であり、山手、戸部、神奈川署では1町あたりの区域が大きいため差が見られない。中心市街地である伊勢佐木・加賀町署管内においては図-3の出火率と似た分布をとることがわかる。死者率が最も多い町は山下町2672人、次いで境町、北仲通、太田町、本町、辨天通で、死者率2000以上の6町は全て加賀町署管内の町である。また、死者率1500~2000の榎町、吉田町、梅ヶ枝町、福富町の4町は全て伊勢佐木町署管内であるが、文献③の死者数記載なしの伊勢佐木・櫻木・姿見町はこの4町に囲まれた範囲であるため、死者率が1500~2000であると推定される。

6. まとめ

横浜市は東京市と同じく耐火造が少ないが東京市よりも出火率が高く、構造物・人的共に被害が大きかった。

町丁別に出火や人的被害を明らかにしたことにより、今後の横浜市の地震と出火の関係、火災の延焼状況と避難の研究に活用できると考える。

また、町丁別死者を集計し、文献②の署別死者数と比較したところ、文献③における伊勢佐木町署の死者数が文献②よりも約7000人低い値となり、文献③の町丁別死者数が記載されていない伊勢佐木・櫻木・姿見・久方・内田・浪花町について更に調査の必要があることがわかった。

【参考文献】1)「大正震災」内務省社会局編纂 大正15年2月29日発行 2)「横浜震災」小池徳久著 大正14年12月25日発行 3)「横浜市震災誌1~3巻」横浜市役所編纂 大正15年8月15日発行 4)「大正大震災」神奈川警察編纂 大正15年7月15日発行 5)「第十九回統計書」横浜市役所編纂 大正14年12月20日発行 6)「第二十回統計書」横浜市役所編纂 大正15年発行 7)「大正調査書南入横浜全国」有隣堂発行 大正9年8月10日発行 8)「1923関東大震災報告書 第1巻」中央防災会議災害救助の継承に関する専門調査会 2006年10月19日発行 9)「横浜火災図 大正12年9月1日」神奈川県調査会 大正12年10月23日発行

【脚注】注1:震災翌日の9月2日内務省が「臨時震災事務」を設置し、大正への応急準備を講じた。震災前人口は正確な調査がないため不明であるが、大正9年10月1日現在第一回国勢調査の結果による人口を基礎とし、明治41年~大正7年の公称調査の結果の人口より年平均増加率により9月1日現在人口を算した。被褥については大正12年11月15日をもって全国一斉に震災人口調査をした結果である。注2:人的被害については震災直後に各警察署が9月20日をもって調査した結果である。注3:横浜市全120町における各町丁の被害の記述。人的被害については震災直後ではなく出火の死者数としている。注4:伊勢佐木町署について、被害棟数が市営比から推定した震災前棟数を超過してしまったため、被害率100%とする。

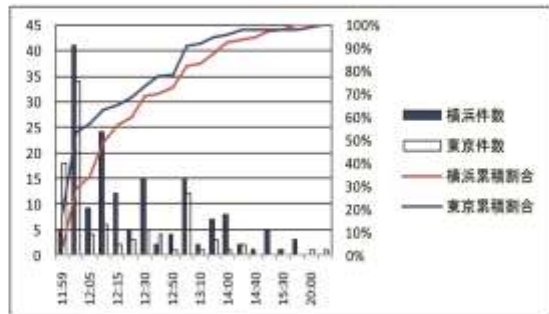


図-2 東京・横浜の出火件数の比較

表-5 署別出火率と焼失面積

署別	人口(人)	出火件数(件)	1万人あたり出火件数	署轄面積(ha)	焼失面積(ha)	焼失率(%)
伊勢佐木町	74,778	57	7.62	3,351	1,806	53.89
加賀町	32,024	19	5.93	1,959	1,959	100.00
戸部	93,759	16	1.71	8,017	2,598	32.41
榎	89,702	24	3.70	5,962	2,147	35.99
神奈川	55,711	12	2.15	9,820	470	4.79
山手本町	65,844	24	3.64	10,998	1,521	14.35
計	411,790	162	3.93	39,306	10,501	26.71



図-3 人口1万人当たりの町別出火件数(出火率)

表-6 町別死者集計例

町別調査	死者数	人口	町別死者数(人口1万人あたり)	町別調査	死者数	人口	町別死者数(人口1万人あたり)
山下町	2400	500	4800	伊勢佐木町	112	500	224
末吉町	828	500	1656	加賀町	19	500	38
境町	1500	500	3000	北仲通	17	500	34
北仲通	1500	500	3000	太田町	16	500	32
太田町	1500	500	3000	本町	15	500	30
本町	1500	500	3000	辨天通	14	500	28
辨天通	1500	500	3000	榎町	13	500	26
榎町	1500	500	3000	吉田町	12	500	24
吉田町	1500	500	3000	梅ヶ枝町	11	500	22
梅ヶ枝町	1500	500	3000	福富町	10	500	20
福富町	1500	500	3000				
伊勢佐木町	1428	2176	6567				
加賀町	19	721	2635				
戸部	16	1981	8076				
榎	24	897	2664				
神奈川	12	557	2136				
山手本町	24	658	2536				



図-4 人口1万人当たりの町別死者数(死者率)

避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
伊勢佐木町	一丁目	70	502	不明
	二丁目	36	374	不明
	計	106	876	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
賑町	一丁目	66	449	不明
	二丁目	150	751	不明
	計	216	1200	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
末吉町	一丁目	330	1389	133
	二丁目	462	1823	230
	三丁目	279	1120	不明
	四丁目	177	700	不明
	五丁目	140	605	不明
	六丁目	141	592	不明
	七丁目	164	595	不明
	計	1693	6824	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長島町	一丁目	91	473	不明
	二丁目	89	458	不明
	三丁目	132	604	不明
	四丁目	76	320	不明
	五丁目	68	256	不明
	六丁目	52	248	不明
	七丁目	12	56	不明
	計	520	2415	114
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
梅ヶ枝町	丁無	112	536	288
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
羽衣町	一丁目	266	1209	不明
	二丁目	182	902	不明
	計	448	2111	90
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
姿見町	一丁目	63	373	不明
	二丁目	20	162	不明
	計	83	535	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
若葉町	一丁目	92	401	不明
	二丁目	142	628	不明
	三丁目	103	461	不明
	計	337	1490	不明

避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
足曳町	一丁目	207	806	不明
	二丁目	112	536	不明
	計	319	1342	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
吉岡町	一丁目	173	767	不明
	二丁目	96	431	不明
	三丁目	131	533	不明
	四丁目	8	61	不明
	五丁目	38	153	不明
	六丁目	23	89	不明
	七丁目	8	27	不明
	計	477	2061	150
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
駿河町	一丁目	56	217	不明
	二丁目	13	75	不明
	三丁目	12	66	不明
	計	81	358	500
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
雲井町	一丁目	138	558	不明
	二丁目	110	422	不明
	計	248	980	30
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
蓬萊町	一丁目	141	654	不明
	二丁目	86	449	不明
	三丁目	56	255	不明
	四丁目	12	57	不明
	計	295	1415	126
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
若葉町	一丁目	92	401	不明
	二丁目	142	628	不明
	三丁目	103	461	不明
	計	337	1490	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長者町	一丁目	163	805	10
	二丁目	123	542	8
	三丁目	110	507	6
	計	396	1854	24

避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長者町	四丁目	129	647	72
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長島町	六丁目	50	249	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長者町	七丁目	41	252	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長者町	八丁目	219	1382	25
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
長者町	九丁目	355	1785	135
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
福富町	一丁目	188	1000	不明
	二丁目	281	1251	不明
	三丁目	339	1630	不明
	計	808	3881	600
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
柳町	一丁目	83	568	不明
	二丁目	87	453	不明
	計	170	1021	不明
吉田町	丁無	12	64	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
桜木町	一丁目	5	14	不明
	二丁目			不明
	三丁目	61	275	不明
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
野毛町	一丁目	137	700	不明
	二丁目	435	1830	不明
	三丁目	433	2086	不明
	四丁目	113	554	不明
	計	1118	5170	不明
宮川町	一丁目	87	441	不明
	二丁目	43	158	不明
	三丁目	36	173	不明
	計	166	772	不明
花咲町	一丁目	40	222	不明
	二丁目	21	130	不明
	三丁目	70	321	不明
	四丁目	65	273	不明
	五丁目	357	1460	不明
	六丁目	123	518	不明
	七丁目	144	685	不明
	八丁目	123	520	不明
	九丁目	82	399	不明
	十丁目	21	191	不明
	十一丁目	19	104	不明
	十二丁目	57	387	不明
	計	1122	5210	不明

避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
日ノ出町	一丁目	169	706	不明
	二丁目	107	470	不明
	三丁目	155	694	不明
	計	431	1870	143
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
清水町	丁無	25	100	4
霞町	一丁目	98	444	不明
	二丁目	21	70	不明
	三丁目	18	58	不明
	計	137	572	不明
初音町	一丁目	186	840	不明
	二丁目	83	372	不明
	三丁目	78	318	不明
	四丁目	74	314	不明
	計	421	1844	80
三春町	一丁目	44	187	不明
	二丁目	28	115	不明
	三丁目	39	150	不明
	計	111	452	2
黄金町	一丁目	22	107	100
	二丁目	44	181	不明
	三丁目	11	41	不明
	四丁目	33	135	不明
	計	110	464	143
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
英町	一丁目	100	432	不明
	二丁目	43	194	不明
	三丁目	59	248	不明
	計	202	874	11
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
南太田町	上耕地	43	235	不明
	谷戸耕地	4	32	不明
	大原耕地	10	41	不明
	清水耕地	260	1101	不明
	富士見耕地	969	3925	不明
	大丸耕地	6	24	不明
	庚耕地	905	3693	不明
	西中耕地	846	3355	不明
	霞耕地	473	2064	不明
	谷原耕地	402	1852	不明
	東耕地	389	1894	不明
	前里耕地	389	1567	不明
		計	4696	19783
避難に関わる死傷者				
町名	丁別	世帯数	人口	死者数
弘明寺町	北ノ前	14	49	不明
	前田	61	256	不明
	山下	62	283	不明
	計	137	588	1

町別の避難

伊勢佐木町
吉田橋に近い伊勢佐木町の町民は、避難場所を探そうと吉田橋を渡ろうと思って集まってきた。橋の上は、身動きが取れないほど集まってきたため四辺から来る火災に逃げる事が出来ず焼死や老人や子供は人々に押され圧死した。
賑町
火は、町内に数ヶ所より発火し、駿河町方面からも延焼してきた。ただちにうち1戸も残らず焼失した。死者数は、約70名を算したが、劇場や活動館にて座員や観劇者等を合わせて230人出した。
住民の多くは新吉田川の橋や中村川の橋を渡って中村町の高台に避難した（南側方面）。また、一部の住人は、反対側の岡川を渡り、久保山や水道山に避難した。避難で渡った側の橋は、早々に燃え出し逃げ遅れたものは遠回りし逃げ延びた。また、逃げ遅れた一部の住人は、川岸に身を潜めて命拾いしたものもある。
末吉町
末吉町1丁目
この町は街路が狭い上に家屋が密集しているため、どちらに行っても逃げ場がないような所であった。人々は、旭橋通りに出て水道山方面に逃げた。橋を渡り向こう岸にある空地に避難した。そこにとどまる者と日の出町方面に逃げる者がいた。
日ノ出町に向かった者は天神坂に差し掛かると猛火で焼死した。
第二次に避難した者は、同地にある工場が炎上しており、それを見て反対側の中村町方面に逃げたので安全を得た。
末吉町2丁目
町民たちは、安全な目的地無く群衆に紛れ避難した。黄金橋を渡り省線空地に避難し安全と思っていた。しかし、猛火は盛んで400名の命が失われた。末吉橋も黄金橋も焼けおち逃げ場が無くなった町民は最後を遂げた。
この町で多くの助かった者は、野毛坂を通り水道貯水池や久保山方面に向かった。
長島町 梅ヶ枝 久方町 羽衣町
長島町
長島町の町民は、大抵は久保山方面や、石川方面の山の上に向かったので安全を得た。吉田町方面へ向かった者は皆焼死した。
梅ヶ枝町
避難に関して明記されていない
羽衣町
弁天社境内及び東本寺に避難した者は皆焼死した。その他町民は、公園にまたは野毛山方面に、大岡川方面に、また桜木町駅に避難した。
姿見町
避難民のうち公園及び桜木町方面に逃げたものは大抵助かった。本願寺に避難したものは皆焼死した。

若葉町
公園及び久保山その他安全地帯に逃げた者は助かったが途中で焼死した者も少なくなかった。
足曳町
町民は思い思い逃げた。その他、明記されていない。
吉岡町
一命を取り留めた多くは、日本橋を渡り、または横浜橋を渡り、中村町方面に避難した。逃げ遅れた者は、吉田川の中に浸って一命を取り留めた。
駿河町
住民の多くは大破した橋々を渡り、更に中村町方面の丘地に逃げ登ったが横浜・武蔵橋が火に掛った後は日本橋を渡り、若しくは川舟の助けを得て逃げ延びた。
雲井町
町民の避難方面は、主として中村町・山手方面であるが時を失いたる者は、山吹その他2橋の焼失のため逃げ場を無くし焼失者30名を出した。
蓬萊町
町民たちは、第一震と同時に、横浜方面に逃げた者は大多数助かった。第二震で豊国橋は落下してしまったので遅れて逃げて来た者は橋が無くなり行くも来るも出来なくなり無残に20名余り焼死した。
その他の町民は、東本願寺別院・長者町郵便局・辨天社境内等に避難したが彼らはその他の避難者と同様に焼死した。
若葉町
避難方向は概して山手即ち、水道貯水の高台を目掛けて逃げた。後刻になって逃げた者は日の出町の発火で反対側の中村町方面に逃げたものも多い。
長者町1丁目-3丁目
長者町1丁目-3丁目にかけて死者数は少なかった。道路の幅が広く、他の町と比べて、避難するのに何の支障がなく、避難地の根岸方面に通じる車橋・扇橋は土橋であったのと、4丁目を除いては、火災の延焼が比較的に遅かったので、途中で荷物を捨てて逃げた者は何の苦もなく逃げられた。4丁目の避難について記載なし。
長者町郵便局は、建物自体新しくなく煉瓦造であった。倒壊し、避難民24名は、崩れてきた煉瓦に当たり死傷した。郵便局員は、建物の下敷きになり、幸いに割れ目から脱出した。彼らは、一団となって助け合いながら避難地に向かった。しかし、吉田川に着くと頼みにしていた千秋橋が焼失していた。そして、山吹橋と逃げる方向を変え安全な唐澤橋に避難した。この一団が、避難出来た時刻は、午後2時過ぎのころである。
長者町6丁目
6丁目一帯は、震動が激しく50戸全倒した。地割れが起きたために逃げ遅れ焼死した者もいた。避難について記載なし。
長者町7丁目
町民は、一方は中村町方面・競馬場に。もう一方は、日ノ出町にでて、水道山に避難した。

長者町8丁目
町民は、同じく長者橋を渡って、日ノ出町方面を通り、水道山に避難したが日ノ出町3丁目付近で焼死したのも多数いた。
長者町9丁目
町民たちが避難地へ行くのに、唯一の橋の長者橋が落下していたときには、住民は行くことも帰ることも出来ずお互いを押しあった。そして、疲れ切った女、子供、老人は倒れそのまま死んでしまった。
福富町
避難について記載無し
柳町 吉田町
柳橋も都橋もとうに焼け落ちてしまったので野毛方面、公園方面に逃げようとした者も絶望的だった。死にもの狂いになった町民たちは、吉田橋を公園方面に逃げようとした。それから、人々が集まり群集となり橋の上も川岸も埋め尽くされた。至る時に猛火が襲って来た。焼死する者、川に落ち溺死する者は多数であった。
桜木町1丁目-3丁目
大江橋・舜天橋から避難する群衆は、一時駅前の大空地に充満した。
野毛町 宮川町 花咲町
避難について記載なし
日ノ出町
黄金町・朝日橋・長者橋の焼失の3橋が焼失したため、同町の避難民は全く逃げ場を無くしてしまった。ただし、隣町と同様に水道貯水池高台へと逃げた者も多く、途中天神坂・省線空地で焼死したものとその他で焼死したものを合わせると143名の多数焼死者を出した。また、1丁目26番地先別邸跡地の50坪の空き地には、30人弱の人が重なりあって焼死した。
清水町 霞町 初音町 三春町 黄金町
各町ともに長く猛火に襲われ、道路の亀裂・埋没などにあって町民たちは避難を妨げられたが皆水道貯水池・久保山に避難した。しかし、その他は、省線空地・護岸線あるいは途中で猛火に襲われて、天神坂その他空地で焼死を遂げた。初音町では焼死者80名で、大部分は末吉橋付近で焼死した。
英町1丁目-3丁目
町民は、いち早く東福寺境内に避難したが猛火に包まれたので、水道貯水池に避難した。
南太田町
町民たちは、必死になって防火に努めたので火災をまぬがれた。
弘明寺町
震災直後に、同町に集結した避難民の数は、観音境内の敷地に千数百名と前田の空地の約5千坪の空地に避難した二千数百名であった。

惨状を極めし主なる地帯

吉田橋付近では、橋に来たものは、伊勢佐木町方面からの者と関内から来たものである。猛火に逃げ道を無くした避難民は、最後の手段として、河に飛び込むもの。船に乗り込む者であった。大抵は溺死し、または船と共に焼死した者が多かった。助かった者は絶えず頭に水を被っていた者だった。梅ヶ枝では、本願寺付近の町民は同所に逃げたばかりに命を落とした。助かった者は、血気盛んな者だけが猛火に逃げ助かったが、女子や傷病者は皆焼死した。末吉橋付近の省線空地では、幅20間（36.36m）以上ある敷地で、付近の街路が非常に狭いのに関わ

[出典 「横浜市震災誌 1～3 冊」 横浜市役所編集 大正 15 年 8 月 15 日発行 P3
～P68]

大正5年調べ横浜市調査

地区	町名	男	女	現住人口	戸数	面積(坪)	1戸当りの人口	人口密度(町当)	戸数密度(町当)	男/女	増加率(対明治34年)	
											人口	戸数
I	I A旧横浜町	5989	3184	9173	1308	112162.22	7	245.3	35	1.88	0.84	0.96
	本町	1015	601	1616	231	22192.56	7	218.5	31.2	1.69	0.67	0.66
	海岸通り	799	491	1290	210	36226.68	6.1	106.8	17.4	1.63	0.64	0.8
	元浜町	852	425	1277	190	6422.47	6.7	596.5	88.8	2	0.69	134
	北仲通	1109	568	1677	273	27916.1	6.1	180.2	29.3	1.95	1.14	1.13
	南仲通	782	386	1168	161	8939.99	7.3	391.9	54	2.03	1.04	1.1
	弁天通	1432	713	2145	243	10464.42	8.8	614.9	69.7	2.01	1.04	1.07
	I B旧太田町	9467	6984	16451	2690	82716.57	6.1	596.7	97.6	1.36	0.98	0.95
	境町	387	219	606	80	4860.16	7.6	374.1	49.4	1.77	1.25	1.31
	真砂	726	645	1371	242	6905.56	5.7	565.6	105.1	1.13	0.78	0.83
	港町	543	406	949	155	7885.31	6.1	361.1	59	1.34	1.17	1.17
	太田町	1487	925	2412	348	12753.56	6.9	567.4	81.9	1.61	1.02	0.9
	相生町	1579	1060	2639	457	10449.56	5.8	757.6	131.2	1.49	1.03	1.07
	住吉町	1955	1415	3370	548	15465.98	6.1	653.7	106.3	1.38	1.06	0.93
	常盤町	1123	1066	2189	409	8983.81	5.4	731	136.6	1.05	0.9	0.96
	尾上町	1667	1248	2915	451	15412.63	6.5	567.4	87.8	1.34	0.93	0.87
	I C山下町	2953	4406	7359	846	8298.2	8.7	2660.5	305.8	0.67	1.47	3.79
	山下町	2953	4406	7359	846	8298.2	8.7	2660.5	305.8	0.67	1.47	3.79
	I 合計	18409	14574	32983	4844	203176.99	6.8	487	71.5	1.26	1.01	1.15
II	II A山下町周辺	15712	12332	28044	5772	77396.9	4.9	1087	223.7	1.27	0.94	0.97
	元町	5872	4340	10212	2015	35043.85	5.1	874.2	172.5	1.35	0.96	0.98
	石川町	1647	1272	2919	494	8627.14	5.9	1015.1	171.8	1.29	1.06	1.04
	石川仲町	5540	4552	10092	2198	23526	4.6	1286.9	280.3	1.22	0.89	0.92
	山元町	910	800	1710	350	3806.5	4.9	1347.7	275.8	1.14	0.96	0.98
	千代崎町	466	377	843	181	3625.25	4.7	1289.2	276.8	1.24	0.9	0.95
	上野町	1043	789	1832	467	3625.25	3.9	1516	386.4	1.32	0.93	1.15
	諏訪町	234	202	436	67	806.46	6.5	1621.9	249.2	1.16	1.17	0.99
	II B山下町	1594	1893	3487	371	43706.3	9.4	239.3	25.5	0.84	1.54	5.98
	山手町	1594	1893	3487	371	43706.3	9.4	239.3	25.5	0.84	1.54	5.98
	II 合計	17306	14225	31531	6143	121103.2	5.1	781.1	152.2	1.22	0.98	1.03
	III	III A埋立地	33183	24924	58107	12558	193472.05	4.6	901	194.7	1.33	0.97
吉田町		824	560	1384	256	6438.24	5.4	644.9	119.3	1.47	0.89	1.01
柳町		76	54	130	22	1198.34	5.9	325.5	55.1	1.41	1.02	1.16
福富町		3071	2261	5322	1108	17378.66	4.8	920.4	191.6	1.36	0.87	1.15
伊勢崎町		715	454	1169	217	4300.3	5.4	815.5	151.4	1.57	1.09	1.18
姿見町		488	351	839	182	2639.18	4.6	953.7	206.9	1.39	1.11	1.5
羽衣町		1834	1207	3041	557	9284.46	5.5	982.6	180.0	1.52	0.95	0.91
蓬萊町		1447	1317	2764	535	10578.99	5.2	783.8	151.7	1.10	1.14	1.21
松ヶ枝町		483	336	819	152	3136.13	5.4	783.4	145.4	1.44	1.12	0.93
梅ヶ枝町		632	691	1323	478	3461.24	2.8	1146.7	414.3	0.91	1.43	2.91
浪花町		99	92	191	48	1467.34	4.0	390.5	98.1	1.08	0.78	0.81
長者町		6829	5010	11839	2767	36927.61	4.3	961.8	224.8	1.36	0.98	1.08
寿町		3726	2786	6512	1212	16112.91	5.4	1212.4	225.6	1.34	1.05	1.01
松影町		3121	2393	5514	1204	17472.33	4.6	946.8	206.7	1.30	0.87	0.99
不老町		2201	1800	4001	995	15314.3	4.0	783.8	194.9	1.22	0.89	1.19
扇町		3092	2122	5214	1054	1725144	4.9	906.7	183.3	1.46	1.03	1.06
万代町		819	477	1296	244	5497.5	5.3	707.2	133.1	1.72	0.73	0.54
翁町		1943	1503	3446	727	12665.35	4.7	816.2	172.2	1.29	1.06	1.14
若竹町		320	318	638	162	1695.92	3.9	1128.6	286.6	1.01	1.21	0.79
吉浜町		1463	1192	2655	638	10651.81	4.2	747.8	179.7	1.23	0.87	1.06
III B旧吉田新田		25211	22549	47760	10866	169204.0	4.4	846.8	192.7	1.12	1.38	1.50
末吉町		5440	4387	9827	2182	32925.7	4.5	895.4	198.8	1.24	1.21	1.62
若葉町		1248	1112	2360	494	7010.21	4.8	1010.0	211.4	1.12	1.12	1.09
鰻町		1001	739	1740	432	5803.53	4.0	899.5	223.3	1.35	1.09	1.30
久方町		827	725	1552	372	3912.52	4.2	1190.0	285.2	1.14	1.10	1.08
足曳町		1187	1027	2214	616	5850.11	3.6	1135.4	315.9	1.16	1.45	1.65
雲井町		797	707	1504	348	6111.6	4.3	738.3	170.8	1.13	1.69	1.63
長島町		1518	1286	2804	712	11001.78	3.9	764.6	194.1	1.18	2.19	2.63
吉岡町		1228	988	2216	463	9012.4	4.8	737.7	154.1	1.24	2.37	2.32
駿河町		389	329	718	180	3870.57	4.0	556.5	139.5	1.18	1.86	2.02
山吹町		868	661	1529	362	4751.9	4.2	965.3	228.5	1.31	1.07	1.15
富士見町		1376	1080	2456	602	6235.88	4.1	1181.5	289.6	1.27	1.04	1.20

	山田町	2432	2084	4516	1015	10045.36	4.4	1348.7	303.1	1.17	1.40	1.61
	千歳町	2077	1664	3741	830	8615.99	4.5	1302.6	289.0	1.25	1.40	1.60
	三吉町	2333	1803	4136	979	1472.65	4.2	851.5	201.6	1.29	1.50	1.85
	永楽町	677	1398	2075	338	15862.57	6.1	392.4	63.92	0.48	1.28	0.71
	真金町	1813	2559	4372	941	23621.13	4.6	555.3	119.5	0.71	1.94	1.45
III	合計	58394	47473	105867	23424	23424	4.5	875.7	193.8	1.23	1.12	1.24
	IV A横濱蒲沿	14838	11835	26673	5714	127802.36	4.7	626.1	134.1	1.25	1.01	1.13
	野毛町	5108	3989	9097	1813	32471.54	5.0	840.5	167.5	1.28	1.16	1.10
	宮川町	825	625	1450	329	6180.97	4.4	703.8	159.7	1.32	0.96	0.78
	戸部町	6105	5005	11110	2610	47415.38	4.3	702.9	165.1	1.22	0.91	1.28
	伊勢町	2023	1608	3631	655	22681.34	5.5	480.3	86.6	1.26	1.06	1.01
	宮崎町	777	608	1385	307	19053.13	4.5	218.1	48.3	1.28	1.00	1.03
	IV B鉄道沿線	5045	3557	8602	2421	202698.6	3.6	127.3	35.8	1.42	1.04	1.42
	桜木町	1625	1013	2638	528	48024.39	5.0	164.8	33.0	1.60	1.03	1.18
	内田町	812	565	1377	311	10711.73	4.4	385.7	87.1	1.44	0.80	0.89
	長住町	111	121	232	33	8560.90	7.0	81.3	11.6	0.92	0.35	0.26
	橋町	597	422	1019	203	4186.31	5.0	730.2	145.5	1.41	1.62	1.46
	緑町	74	65	139	23	11827.2	6.0	35.3	5.8	1.14	3.23	1.53
	高島町	1725	1300	3025	659	40136.20	4.6	226.1	49.3	1.33	1.18	1.10
	裏高島町	93	59	152	659	7709.32	0.2	59.1	256.2	1.58	1.16	28.65
	入船町	6	8	14	3	38430.94	4.7	4.7	1.01	0.75		
	表高島町											
	林町	2	4	6	2	6622.10	3.0	2.7	0.9	0.50		
	IV C横川沿い	7379	5992	13371	2779	93308.19	4.8	429.9	89.3	1.23	1.64	1.48
	花咲町	4231	3215	7446	1609	36952.13	4.6	604.5	130.6	1.32	1.08	1.00
	福島町	289	233	522	111	1846.96	4.7	847.9	180.3	1.24	1.21	1.26
	平沼町	2735	2438	5173	996	50558.72	5.2	307.0	59.1	1.12	6.91	6.64
	仲町	71	65	136	42	2144.59	3.2	190.2	58.7	1.09	2.67	3.50
	材木町	53	41	94	21	1805.79	4.5	156.2	34.9	1.29	2.19	2.10
	IV D大田丘陵上	323	447	770	106	19367.23	7.3	119.3	16.4	0.72	1.48	1.34
	老松町	253	367	620	84	12764.80	7.4	145.7	19.7	0.69	1.54	1.31
	月岡町	70	80	150	22	6602.43	6.8	68.2	10.0	0.88	1.27	1.47
	IV E大田丘陵麓	5293	4332	9625	2286	46658.19	4.2	618.9	147.0	1.22	1.10	1.33
	日ノ出町	1481	1165	2646	631	15966.39	4.2	497.2	118.6	1.27	1.28	1.43
	初音町	1493	1168	2661	598	8656.34	4.4	922.2	207.2	1.28	1.11	1.31
	三春町	436	414	850	221	5367.98	3.8	475.0	123.5	1.05	0.93	1.33
	黄金町	491	435	926	230	5318.60	4.0	522.3	129.7	1.13	0.94	1.17
	英町	711	634	1345	311	5761.52	4.3	700.3	161.9	1.12	1.00	1.20
	霞町	568	435	1003	257	4679.12	3.9	643.1	164.8	1.31	1.06	1.44
	清水町	113	81	194	38	908.24	5.1	640.8	125.5	1.40	1.72	2.00
IV	合計	32878	26163	59041	13306	488834.63	4.4	361.6	81.5	1.26	1.13	1.28
	V A南吉田町	7232	6293	13525	2859	178345.06	4.7	227.5	48.1	1.15	8.35	7.99
	南吉田町	7232	6293	13525	2859	178345.06	4.7	227.5	48.1	1.15	8.35	7.99
	V B大田丘陵上	32955	29786	62741	12943	1178952.99	4.8	159.7	32.9	1.11	2.64	3.21
	西戸部町	22084	19741	41825	8558	427456.33	4.9	293.5	60.1	1.12	3.05	3.53
	南太田町	10098	9370	19468	4098	491785.04	4.8	118.8	25.0	1.08	1.94	2.56
	久保町	773	675	1448	287	259711.62	5.0	16.7	3.3	1.15	76.21	57.4
	V C神奈川	26576	25030	51606	10816	2086734.48	4.8	74.2	15.6	1.06	2.15	2.60
	神奈川町	11389	9973	21362	4556	523781.08	4.7	122.4	26.1	1.14	1.75	2.32
	青木町	10551	10640	21191	4443	1177866.15	4.8	54.0	11.3	0.99	2.16	2.38
	岡野町	1499	1574	3073	586	72494.16	5.2	127.2	24.3	0.95	39.40	39.07
	浅間町	2647	2372	5019	1033	185808.33	4.9	81.0	16.7	1.12	3.12	3.70
	尾張屋町	23	16	39	9	1586.52	4.3	7.4	1.71	1.44	5.57	9.00
	西平沼町	408	378	786	167	49455.86	4.7	47.7	10.1	1.08	3.22	6.42
	山内町					22736.62						
	大野町	27	42	69	12	18765.20	5.8	11.0	1.9	0.64		
	星野町	17	20	37	5	7880.56	7.4	14.1	1.9	0.85		
	宝町	15	15	30	5	12086.00	6.0	7.4	1.2	1.00		
	V D本牧・根岸等	37000	34393	71393	15458	2276051.2	4.6	94.1	20.4	1.08	1.86	2.45
	中村町	14319	12625	26944	6210	362763.65	4.3	222.8	51.4	1.13	1.49	2.37
	根岸町	10082	9233	19315	4019	939890.61	4.8	61.7	12.8	1.09	2.25	2.53
	本牧町	5400	5412	10812	2012	791889.45	5.4	41.0	7.6	1.00	1.84	2.44
	北方町	7199	7123	14322	3217	181507.44	4.5	236.7	53.2	1.01	2.11	2.51
V	合計	103763	95502	199265	42076	5720083.68	4.7	104.5	22.1	1.09	2.27	2.83
	VI A大岡川中流域	2376	2247	4623	784	856138.05	5.9	16.2	2.7	1.06		
	藤田町	1111	1005	2116	377	198133.38	5.6	32	5.7	1.11		
	大岡町	657	609	1266	199	435634.99	6.4	8.7	1.4	1.08		
	井土ヶ谷町	491	483	974	168	157336.80	5.8	18.6	3.2	1.02		
	弘明寺町	117	150	267	40	65032.88	6.7	12.3	1.8	0.78		
	VI B子安等	2688	2540	5228	825	887434.22	6.3	17.7	2.8	1.06		
	子安町	2646	2512	5158	809	721444.43	6.4	21.4	3.4	1.05		
	千若町	17	14	31	7	124895.22	4.4	0.7	0.2	1.21		
	橋本町	18	11	29	6	10595.90	4.8	8.2	1.7	1.62		
	新浦島町	7	3	10	3	30498.67	3.3	1.0	0.3	2.33		
	VI C瀬川川尻辺	2677	2711	5388	850	1006473.51	6.3	16.1	2.5	0.99		
	滝頭町	750	806	1556	249	130198.06	6.2	35.9	5.7	0.93		
	磯子町	1141	1122	2263	355	450310.72	6.4	15.1	2.4	1.02		
	岡村町	286	298	584	76	308928.48	7.7	5.7	0.7	0.96		
	堀内町	500	485	985	170	117036.25	5.8	25.2	4.4	1.03		
VI	合計	7741	7498	15239	2459	2750045.78	6.2	16.6	2.7	1.03		
	総計	238491	205435	443926	92252	9646920.29	4.8	138.1	28.7	1.16		

